男女共同参画に関する市民意識調査
報　告　書

平成２９年３月

米　子　市

目　次

第１章　調査の概要
１　調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
２　調査項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
３　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
４　回収結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
５　報告書の見方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第２章　調査の結果
Ⅰ　回答者の属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
Ⅱ　家庭での役割について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
（１）家庭での役割分担［問８］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
（２）家庭での役割分担の満足度［問９］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
Ⅲ　子育て、介護について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
（１）育児休業制度の利用の有無［問 10］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
（２）育児休業制度を利用しなかった理由［問 11］・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
（３）介護休業制度の利用の有無［問 12］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
（４）介護休業制度を利用しなかった理由［問 13］・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
（５）介護が必要になった場合の希望［問 14］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
Ⅳ　就労について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
（１）職場の現状［問 15］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
Ⅴ　地域活動などについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
（１）地域の現状［問 16］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
Ⅵ　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について・・・・・・・・・・・・・・ 44
（１）「仕事」「家庭」「自分自身のための活動」のバランスの理想［問 17(1)］・・・・・・・・ 44
（２）「仕事」「家庭」「自分自身のための活動」のバランスの実現度［問 17(2)］・・・・・・・ 46
Ⅶ　ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて・・・・・・・・ 47
（１）ドメスティック・バイオレンスの経験・認知［問 18］・・・・・・・・・・・・・・ 47
（２）ドメスティック・バイオレンスに対する相談先［問 19］・・・・・・・・・・・・・ 48
（３）セクシャル・ハラスメントの経験・認知［問 20］・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
（４）セクシャル・ハラスメントに対する相談先［問 21］・・・・・・・・・・・・・・・ 50
（５）ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントに対する考え方［問 22］・・ 51
Ⅷ　男女共同参画に関する意識や考え方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
（１）男女のあり方についての考え方［問 23］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
（２）男女平等についての意識［問 24］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
Ⅸ　男女共同参画社会に関する施策や法制度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
（１）米子市が今後力を注ぐべきこと［問 25］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
（２）法律、用語、施策の認知度［問 26］・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
Ⅹ　意見・要望など自由記述・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79

第３章　調査結果のまとめ

１　家庭での役割について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
２　子育て、介護について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
３　就労について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
４　地域活動などについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92
５　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について・・・・・・・・・・・・・・・ 93
６　ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて・・・・・・・・・ 93
７　男女共同参画に関する意識や考え方について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
８　男女共同参画社会に関する施策や法制度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95

資料

男女共同参画に関する市民意識調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99

第１章　調査の概要

１ 調査の目的

男女共同参画に関する意識や実態などを把握し、今後の男女共同参画に関する施策を推進していくための参考とするとともに、米子市男女共同参画推進計画の改訂に向けた基礎資料とする。

２ 調査項目

調査は以下の調査項目および自由意見記入欄にて構成した。

（１）基本的属性
（２）家庭での役割について
（３）子育て、介護について
（４）就労について
（５）地域活動などについて
（６）ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
（７）ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて
（８）男女共同参画に関する意識や考え方について
（９）男女共同参画社会に関する施策や法制度について

３ 調査の方法

（１）調査区域：市内全域
（２）調査対象：平成２８年８月１日現在米子市に居住する満２０歳以上の市民３，０００人
（３）抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
（４）実施方法：郵送配布―郵送回収
（５）調査期間：平成２８年９月２日～９月３０日

４ 回収結果

（１）有効回収数：１，２３１件
（２）有効回収率：４１．０％

５ 報告書の見方

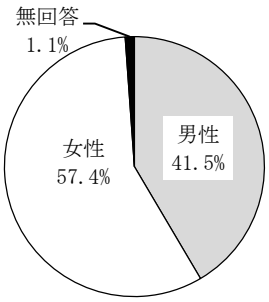
（１）本文、表、グラフなどに使われる「ｎ」は、各設問に対する回答者数である。
（２）百分率（%）の計算は、小数第２位を四捨五入し、小数第１位まで表示した。したがって四捨五入の影響で、%を足し合わせて１００%にならない場合がある。
（３）複数回答が可能な問においては、%の合計が１００%を超える場合がある。
（４）本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
（５）グラフ中の「無回答」には、「非該当（設問に答える必要のない人の分)」は含まれていない。
（６）「前回調査」とは平成２０年度に実施した「男女共同参画に関する市民意識調査」のことをいう。

第２章　調査の結果

Ⅰ　回答者の属性

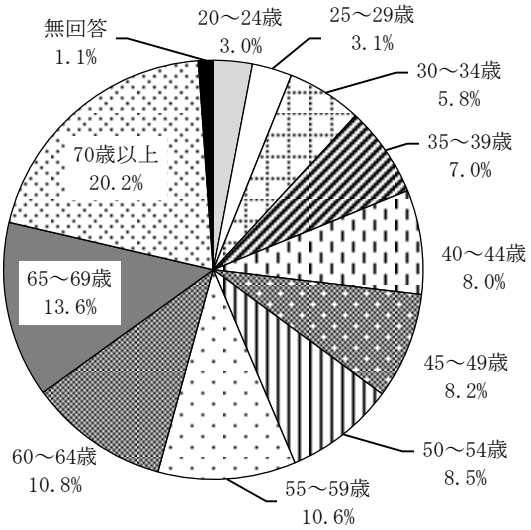
（1）性別

	人数	割合
男性	511	41.5%
女性	706	57.4%
その他	0	0.0%
無回答	14	1.1%
全体	1,231	100.0%



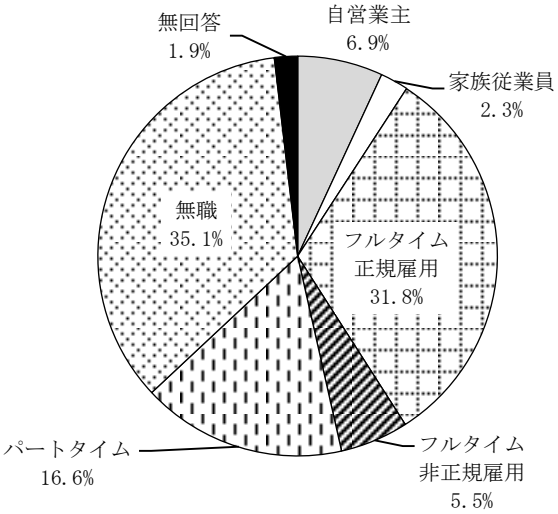
（2）年齢

	人数	割合
20～24 歳	37	3.0%
25～29 歳	38	3.1%
30～34 歳	71	5.8%
35～39 歳	86	7.0%
40～44 歳	99	8.0%
45～49 歳	101	8.2%
50～54 歳	105	8.5%
55～59 歳	131	10.6%
60～64 歳	133	10.8%
65～69 歳	167	13.6%
70 歳以上	249	20.2%
無回答	14	1.1%
全体	1,231	100.0%



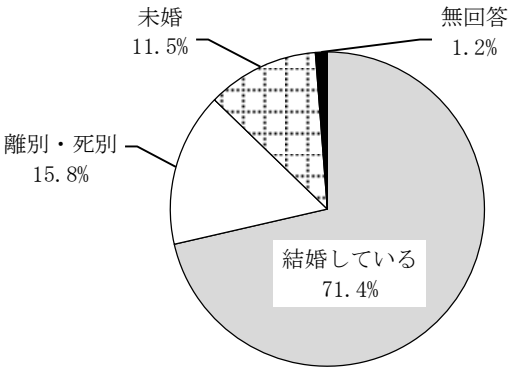
（3）職業

	人数	割合
自営業主	85	6.9%
家族従業員	28	2.3%
フルタイム正規雇用	391	31.8%
フルタイム非正規雇用	68	5.5%
パートタイム	204	16.6%
無職	432	35.1%
無回答	23	1.9%
全体	1,231	100.0%



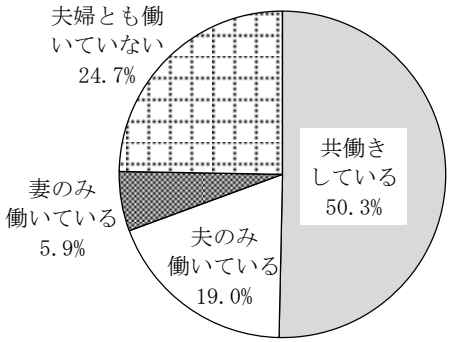
（4）結婚の有無

	人数	割合
結婚している	879	71.4%
離別・死別	195	15.8%
未婚	142	11.5%
無回答	15	1.2%
全体	1,231	100.0%



（5）共働きの有無

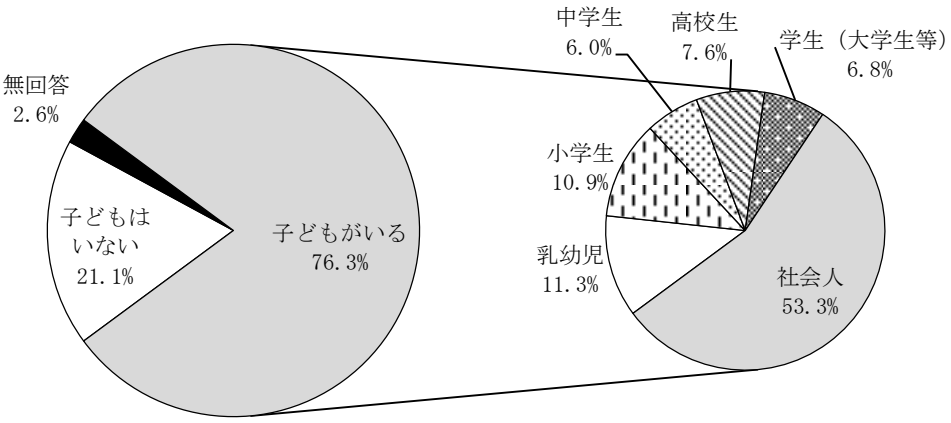
	人数	割合
共働きしている	444	50.3%
夫のみ働いている	168	19.0%
妻のみ働いている	52	5.9%
夫婦とも働いていない	218	24.7%
全体	882	100.0%



（6）子どもの有無と子どもの年代

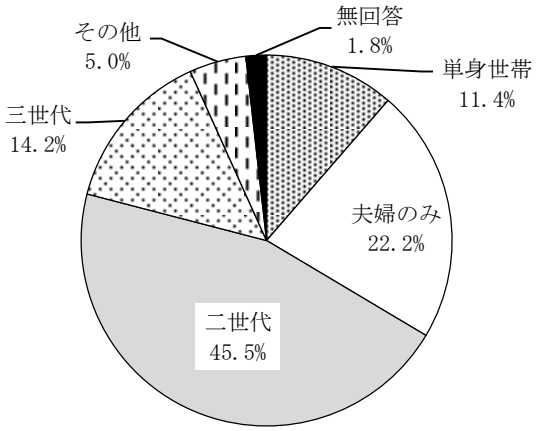
	人数	割合
子どもがいる	939	76.3%
子どもはいない	260	21.1%
無回答	32	2.6%
全体	1,231	100.0%

	人数	割合
乳幼児	136	11.3%
小学生	131	10.9%
中学生	72	6.0%
高校生	91	7.6%
学生（大学生等）	82	6.8%
社会人	639	53.3%



（7）世帯構成

	人数	割合
単身世帯	140	11.4%
夫婦のみ	273	22.2%
二世代（親と子）	560	45.5%
三世代（祖父母と親と子）	175	14.2%
その他	61	5.0%
無回答	22	1.8%
全体	1,231	100.0%



回答者の属性について、性別は男性が 511 人（41.5%）、女性が 706 人（57.4%）、その他が 0 人（0.0%）、無回答が 14 人（1.1%）であった。米子市の 20 歳以上の男女比率（男性 47.5%、女性 52.5%）と比較すると、男性より女性の方が回答率が高くなっている。

年齢では、回答者の年代と米子市の人口比率を比較すると下表のようになり、20 歳代で割合が低いが、30 歳代以上では高く、そのうち 60 歳代が最も高くなっている。

年　齢	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上
回答者の割合	6.1%	12.8%	16.2%	19.1%	24.4%	20.2%
米子市の人口比率	9.4%	12.3%	14.1%	11.6%	14.5%	19.4%

職業では、「無職」が 35.1%で最も多く、次いで「フルタイム正規雇用」（31.8%）、「パートタイム」（16.6%）の順となっている。

結婚と共働きの有無では、「結婚している」が 71.4%で最も多く、そのうち「共働きしている」は 50.3%でほぼ半数を占めている。また、「夫のみ働いている」が「妻のみ働いている」より 13.1%多くなっている。

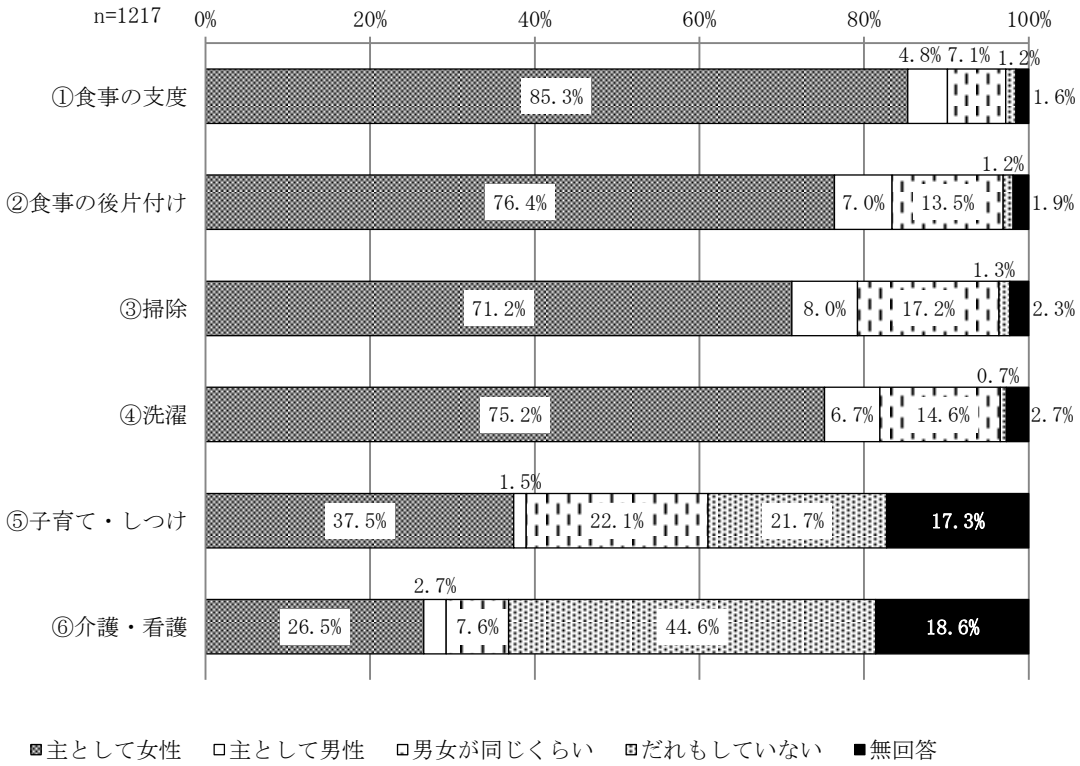
子どもの有無と子どもの年代では、「子どもがいる」が 76.3%で、その子どもの年代は「社会人」が半数以上の 53.3%で最も多く、次いで「乳幼児」（11.3%）、「小学生」（10.9%）の順となっている。

世帯構成では、「二世代（親と子）」が 45.5%と半数近くを占め、「夫婦のみ」が 22.2%、そして「三世代（祖父母と親と子）」（14.2%）、「単身世帯」（11.4%）となっている。

Ⅱ　家庭での役割について

（１）家庭での役割分担 [問８]

あなたの家庭では、①～⑥のような家庭での役割について、主に女性がしていますか、男性がしていますか。それぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んで番号に○をつけてください。



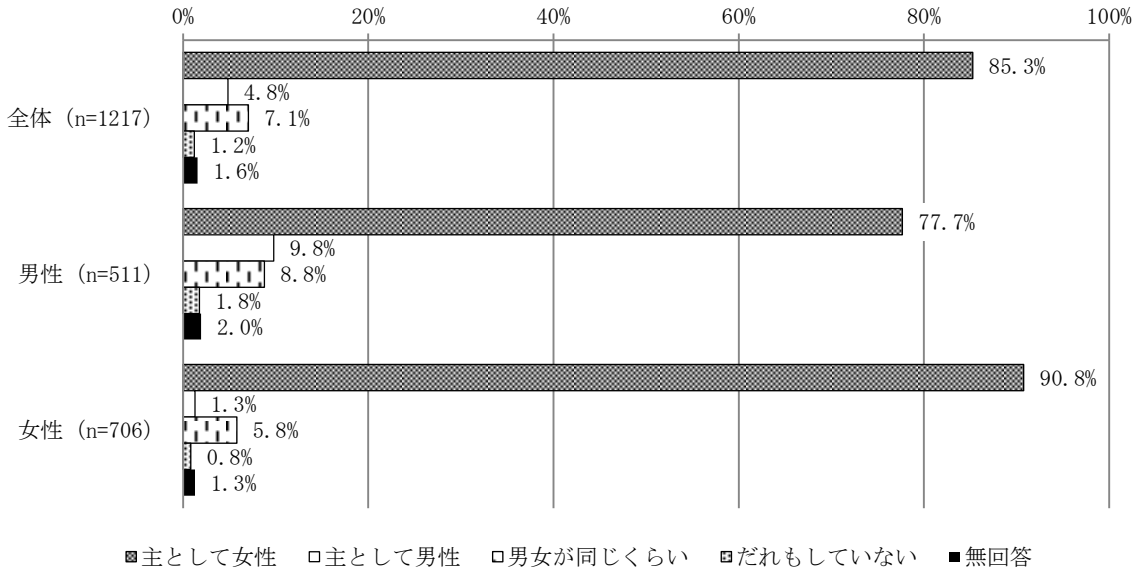
【全　体】

家庭での役割分担について、「主として女性」がするという割合が高いのが「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」となっており、いずれも 70%以上で、その中で最も高いのが「食事の支度」（85.3%）となっている。

そして、「主として男性」がするという割合はすべてについて 10%未満となっているが、「掃除」が 8.0%と最も高く、次いで「食事の後片付け」（7.0%）、「洗濯」（6.7%）の順となっている。

また、「男女が同じくらい」するという割合を見ると、「子育て・しつけ」が 22.1%と最も高く、次いで「掃除」（17.2%）、「洗濯」（14.6%）、「食事の後片付け」（13.5%）の順となっている。

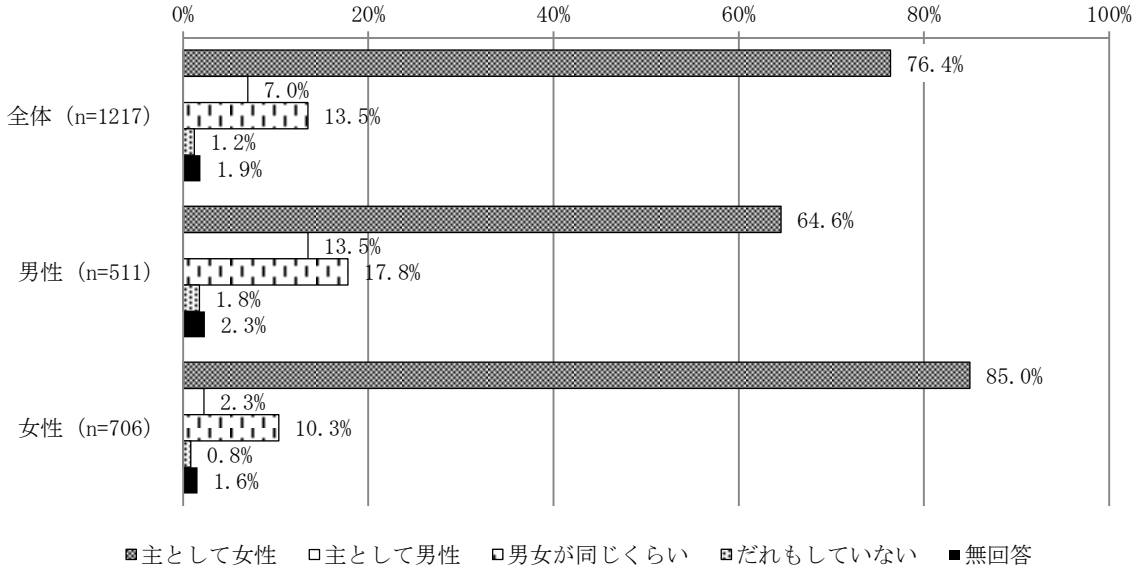
①食事の支度



「食事の支度」について、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が極端に高くなっているが、男性と女性ではその割合に 10 ポイント以上の開きがある。

そして、「主として男性」がしているという割合は、男性が 9.8%に対して女性は 1.3%と回答し、また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が 8.8%に対して女性は 5.8%と回答しており、いずれも女性より男性の方がポイントが高くなっている。

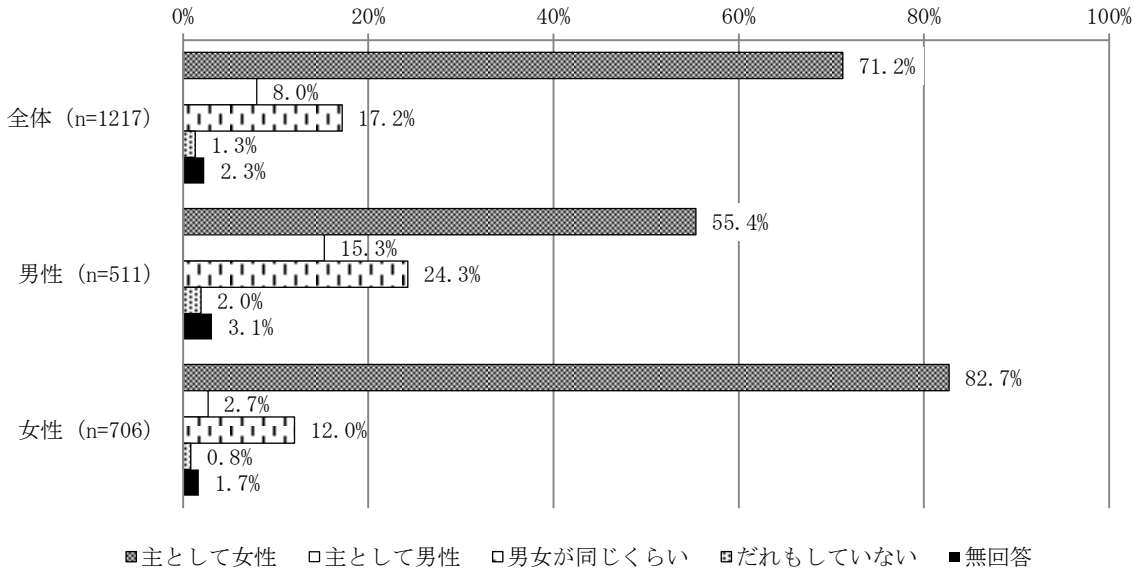
②食事の後片付け



「食事の後片付け」についても、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が高くなっているが、男性と女性ではその割合におよそ 20 ポイントの開きがある。

そして、「主として男性」がしているという割合は、男性が 13.5%に対して女性は 2.3%と回答し、また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が 17.8%に対して女性は 10.3%と回答しており、ここでも女性より男性の方がポイントが高くなっている。

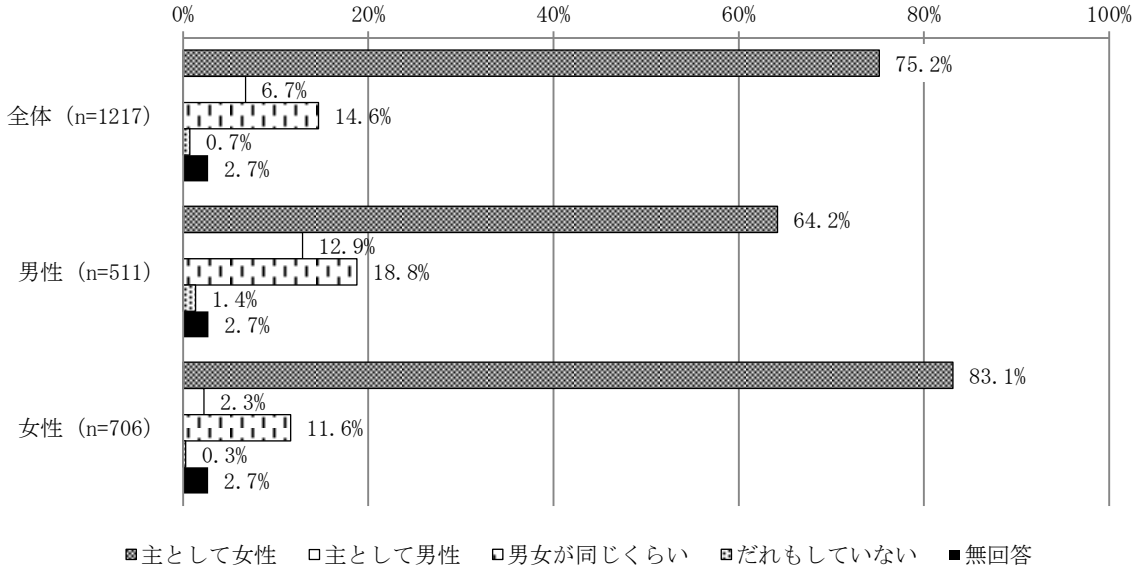
③掃除



「掃除」についても、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が高くなっているが、男性と女性では27.3ポイントの開きがある。

また、男性では「主として男性」「男女が同じくらい」を合わせた割合がおよそ40%と半数近くを占めているのに対して、女性では「主として男性」「男女が同じくらい」を合わせた割合がおよそ15%で、女性より男性の方がおよそ25ポイント高くなっている。

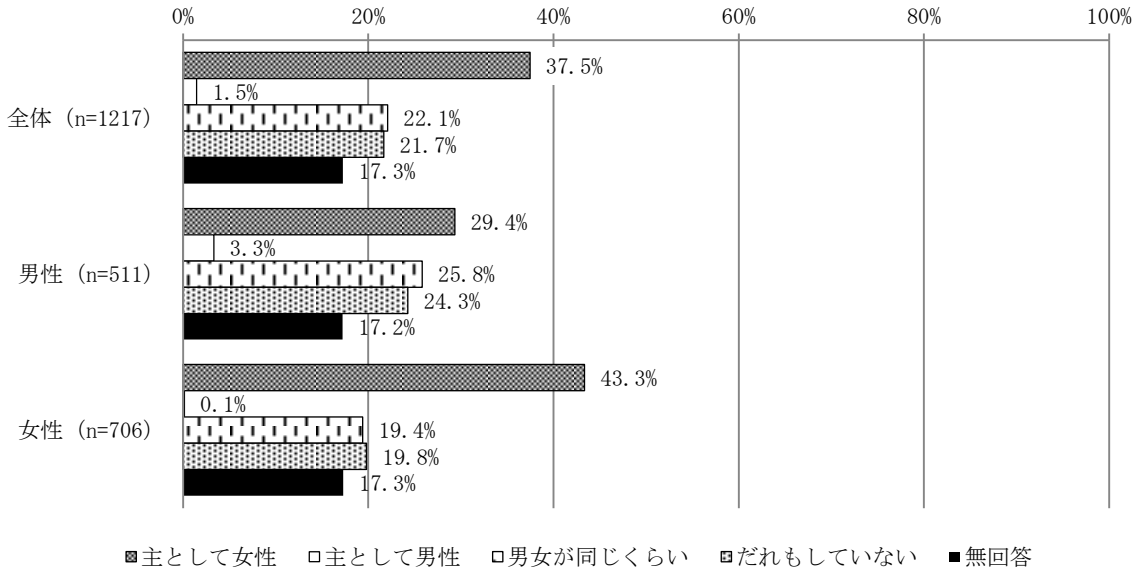
④洗濯（干す・取り入れる）



「洗濯（干す・取り入れる）」についても、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が高くなっているが、ここでも男性と女性ではその割合におよそ20ポイント近い開きがある。

そして、「主として男性」がしているという割合は、男性が12.9%に対して女性は2.3%と回答し、また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が18.8%に対して女性は11.6%と回答しており、ここでも女性より男性の方がポイントが高くなっている。

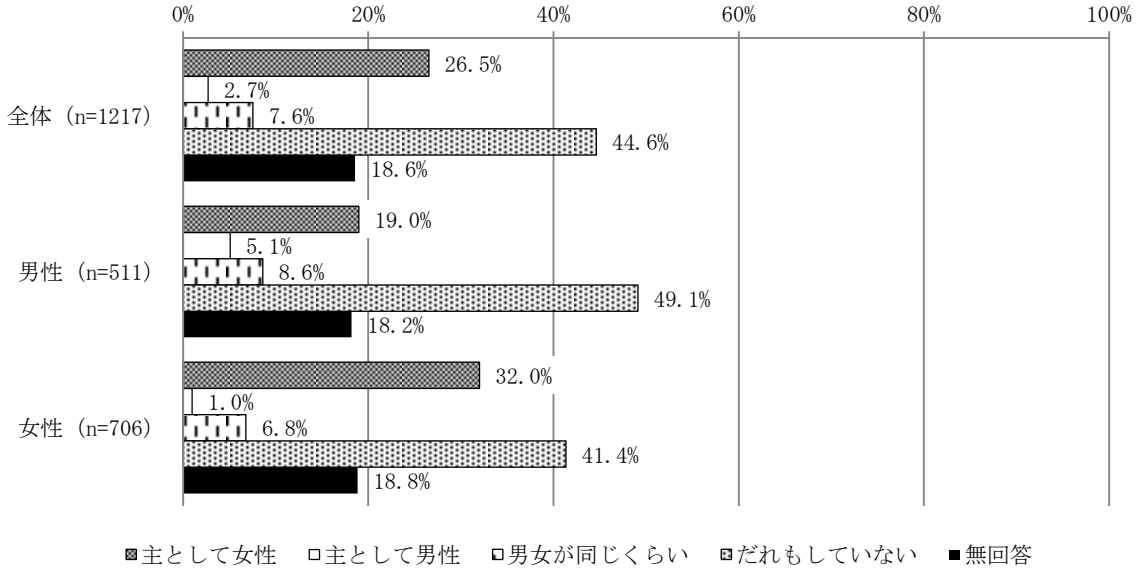
⑤子育て・しつけ



「子育て・しつけ」についても、男性、女性共に「主として女性」がしているという割合が高くなっているが、男性では「主として男性」「男女が同じくらい」を合わせた割合が 29.1%で、「主として女性」がしているという割合とほぼ同じとなっている。

しかし女性では、「主として男性」「男女が同じくらい」を合わせた割合は 19.5%で、「主として女性」がしているという割合に比べて 23.8 ポイント低くなっている。

⑥介護・看護



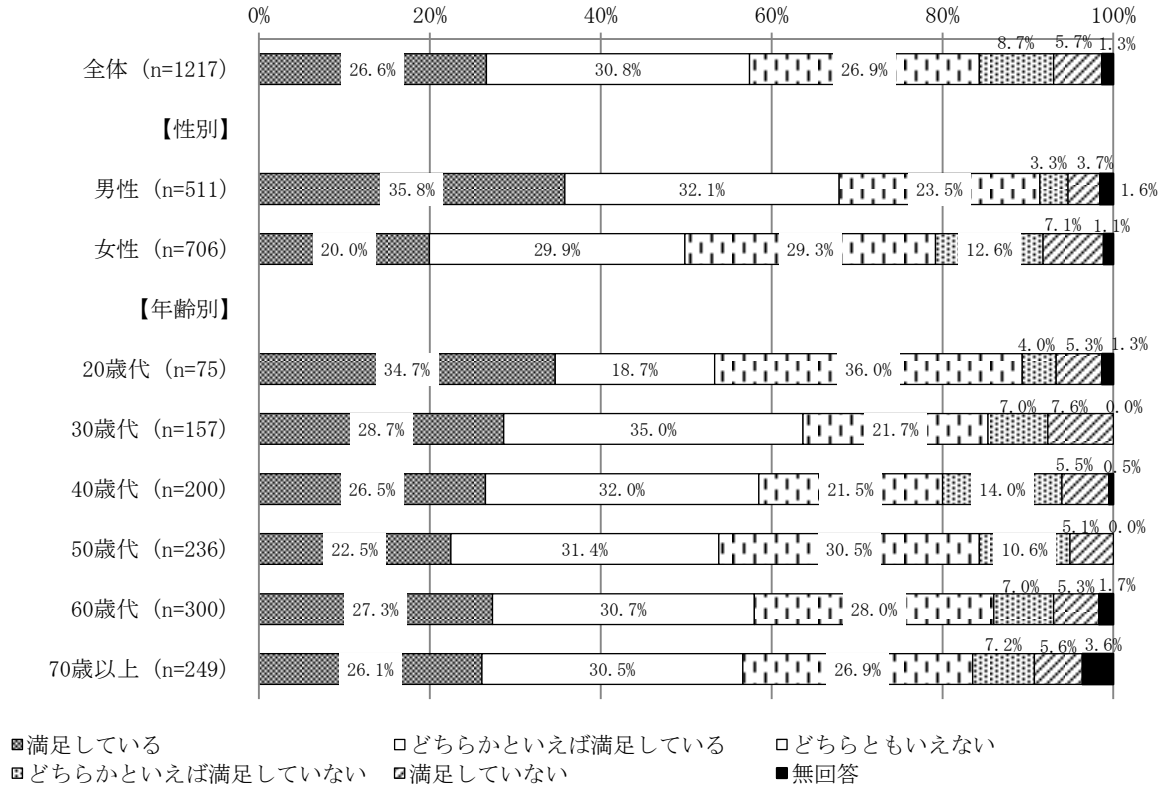
「介護・看護」については、男性、女性共に「だれもしていない」という割合が最も高くなっている。

そして、「主として女性」がしているという割合は男性が 19.0%に対して、女性は 32.0%となっており、男性と女性ではその割合に 13.0 ポイントの開きがある。

また、「男女が同じくらい」しているという割合は、男性が 8.6%に対して、女性は 6.8%となっており、あまり差は見られない。

（２）家庭での役割分担の満足度［問９］

あなたは、自分の家庭内での役割分担について満足していますか。あてはまるものを１つ選んで番号に○をつけてください。



【全体・性別】

全体では「どちらかといえば満足している」が 30.8%と最も高く、次いで「満足している」「どちらともいえない」がほぼ同じ割合となっている。

性別では、男性は「満足している」とする割合が女性より 15.8 ポイント高くなっており、それに対して女性は「どちらかといえば満足していない」「満足していない」を合わせた割合が男性より 12.7 ポイント高くなっている。

【年齢別】

「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせた割合が、世代を問わず高くなっている。また、「どちらかといえば満足していない」「満足していない」を合わせた割合が最も高いのが 40 歳代で 19.5%、次いで 50 歳代の 15.7%となっている。

【前回調査との比較】

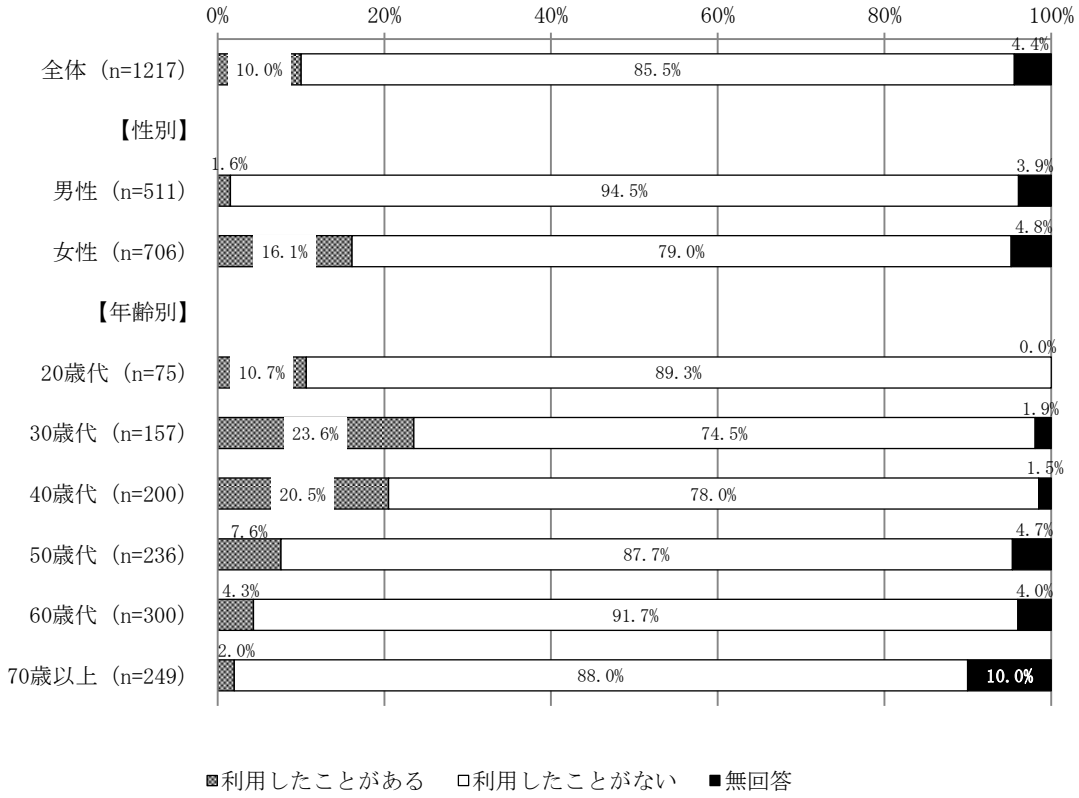
前回調査と比べて「満足している」とする割合が、全体では 7.4 ポイント減少しており、性別でも男性が 7.4 ポイント、女性が 6.1 ポイント、それぞれ減少している。

また、年齢別でも世代を問わず「満足している」とする割合が減少している。

Ⅲ　子育て、介護について

（1）育児休業制度の利用の有無 [問 10]

あなたは、「育児休業制度」を利用したことがありますか。１つ選んで番号に○をつけてください。



【全体】

「利用したことがある」とした割合は 10.0％で、85.5％が「利用したことがない」となっている。

【性別】

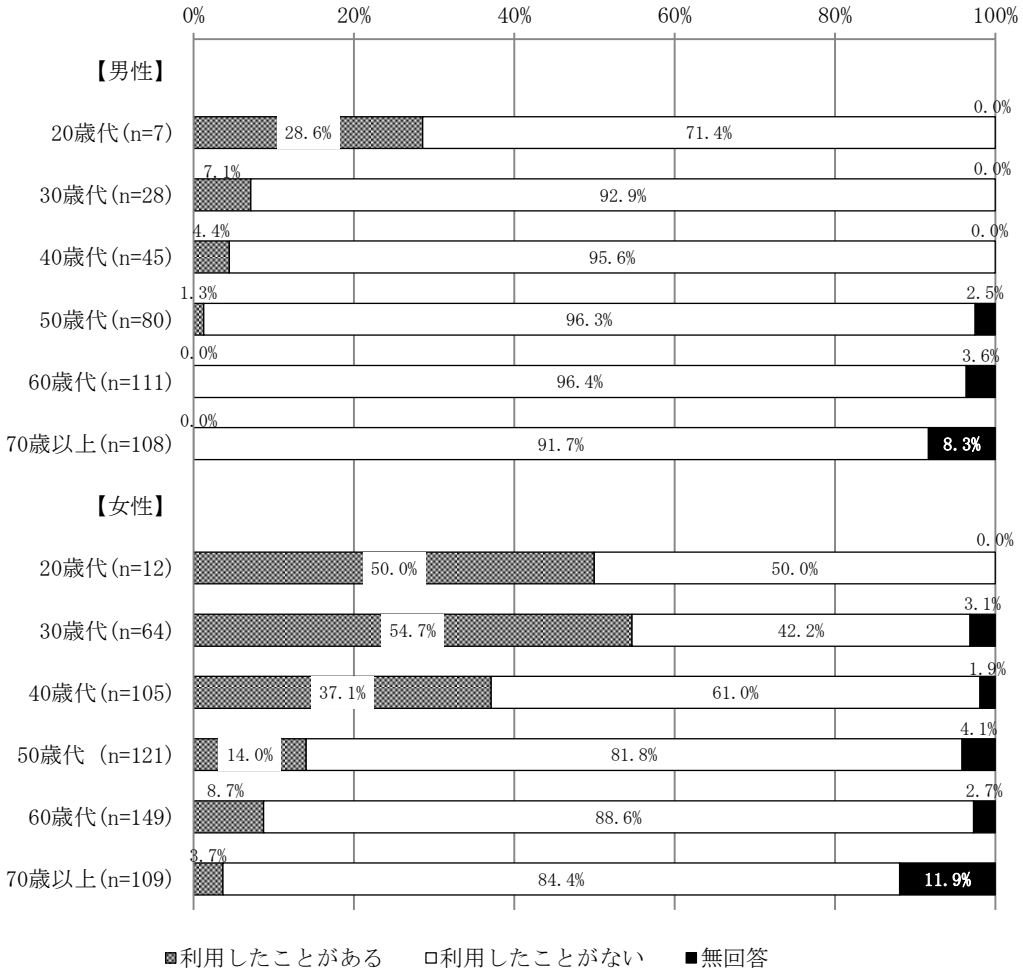
男性では「利用したことがある」とした割合が 1.6％で、94.5％が「利用したことがない」となっている。それに対して女性では、「利用したことがある」とした割合は 16.1％で、79.0％が「利用したことがない」となっている。

【年齢別】

「利用したことがある」とした割合が最も高いのは 30 歳代で 23.6％、次いで 40 歳代の 20.5％となっている。

また、20 歳代を除くと年代が上がるにつれて「利用したことがある」とした割合が低くなっている。

【子どもがいると回答した人に限定した性別・年齢別による分析】

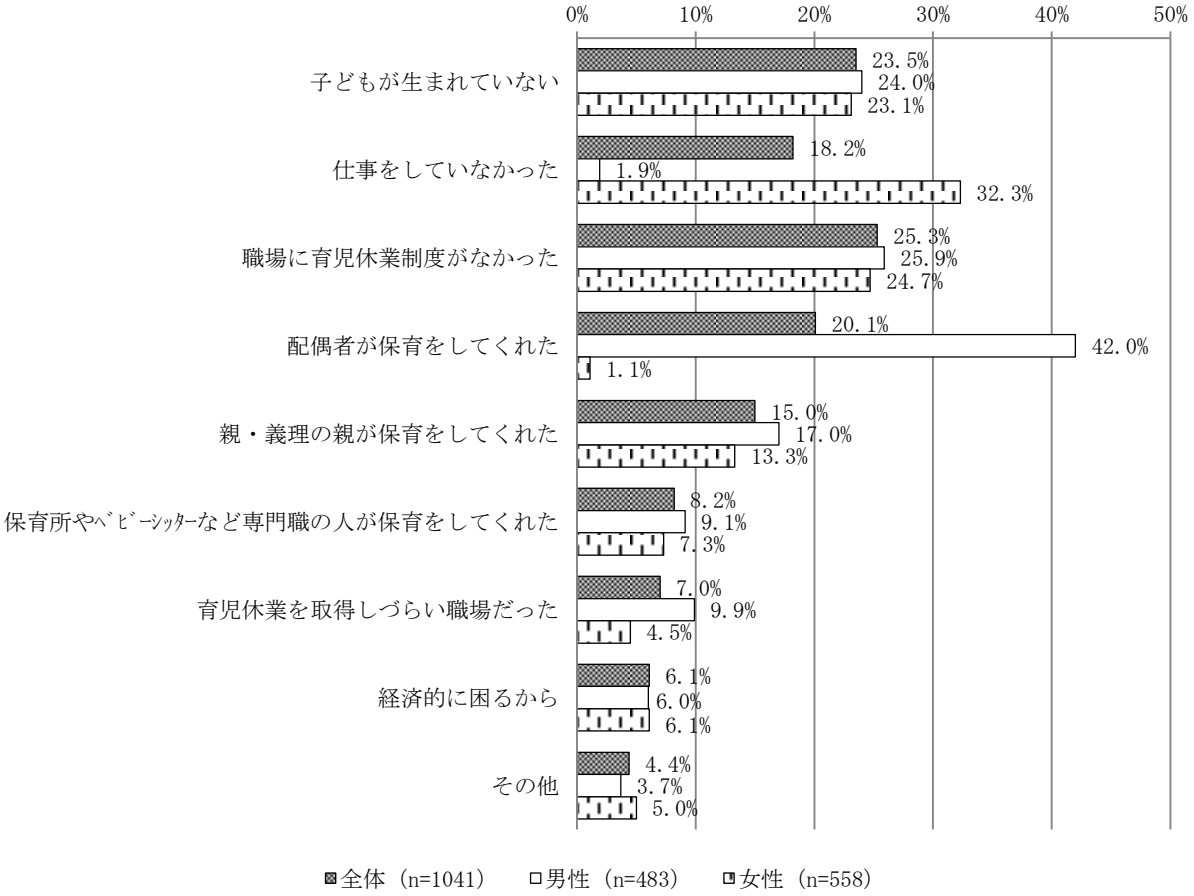


子どものいる回答者のみを、性別・年齢別に集計した結果、男性よりも女性で、また年齢が高い層より低い層で、「利用したことがある」の割合が大きくなる傾向があることがうかがえた。

20 歳代男性では「利用したことがある」が 28.6%と他の年齢層の男性より突出しているが、それでも女性に比べると男性においては育児休業取得が進んでいないことがわかる。

（2）育児休業制度を利用しなかった理由 [問 11]

あなたが、「育児休業制度」を利用しなかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



【全体】

「職場に育児休業制度がなかった」が 25.3%と最も高く、次いで「子どもが生まれていない」(23.5%)、「配偶者が保育をしてくれた」(20.1%) の順となっている。

また、「育児休業を取得しづらい職場だった」「経済的に困るから」とした割合は、それぞれ 7.0%、6.1%となっている。

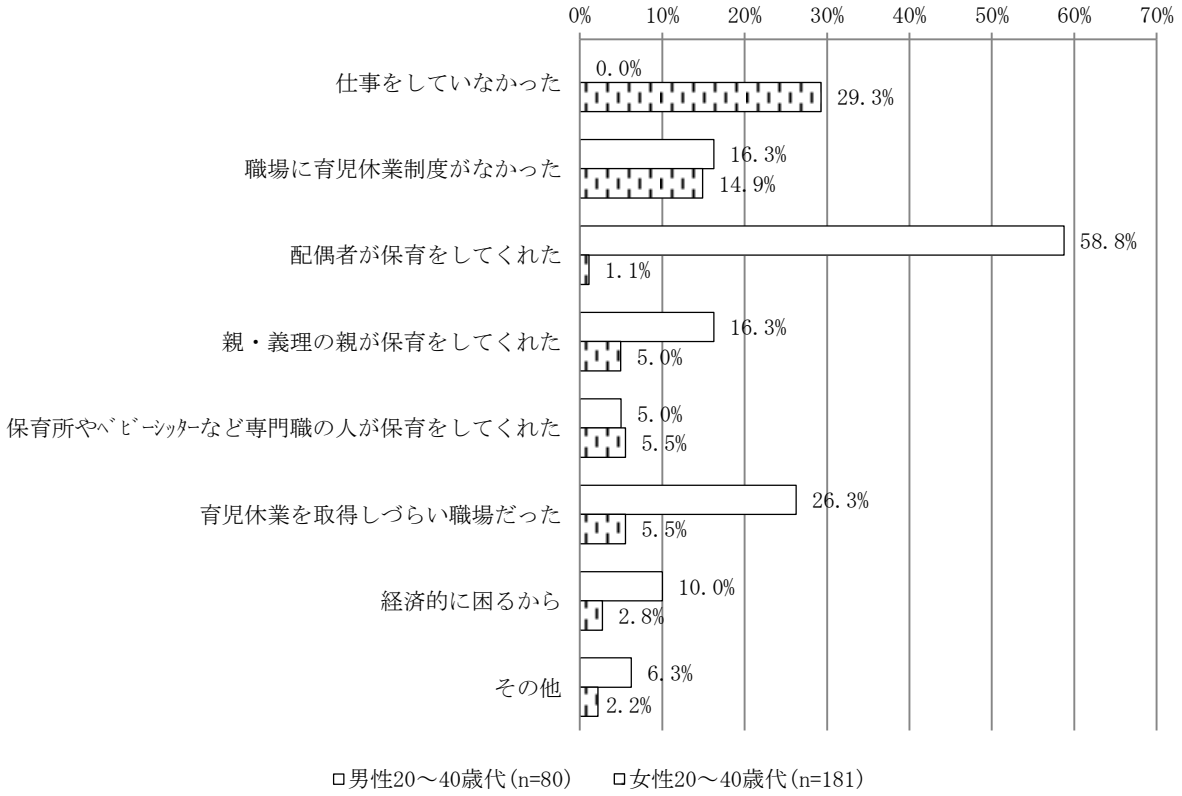
【性別】

男性では、「配偶者が保育をしてくれた」が 42.0%と最も高く、次いで「職場に育児休業制度がなかった」(25.9%)、「子どもが生まれていない」(24.0%) の順となっている。

そして女性では、「仕事をしていなかった」が 32.3%と最も高く、次いで「職場に育児休業制度がなかった」(24.7%)、「子どもが生まれていない」(23.1%) の順となっている。

また、男性で最も割合が低かったのは「仕事をしていなかった」で 1.9%、それに対して女性で最も割合が低かったのは「配偶者が保育をしてくれた」で 1.1%となっている。

【子どものいる 20～40 歳代に限った性別による分析】

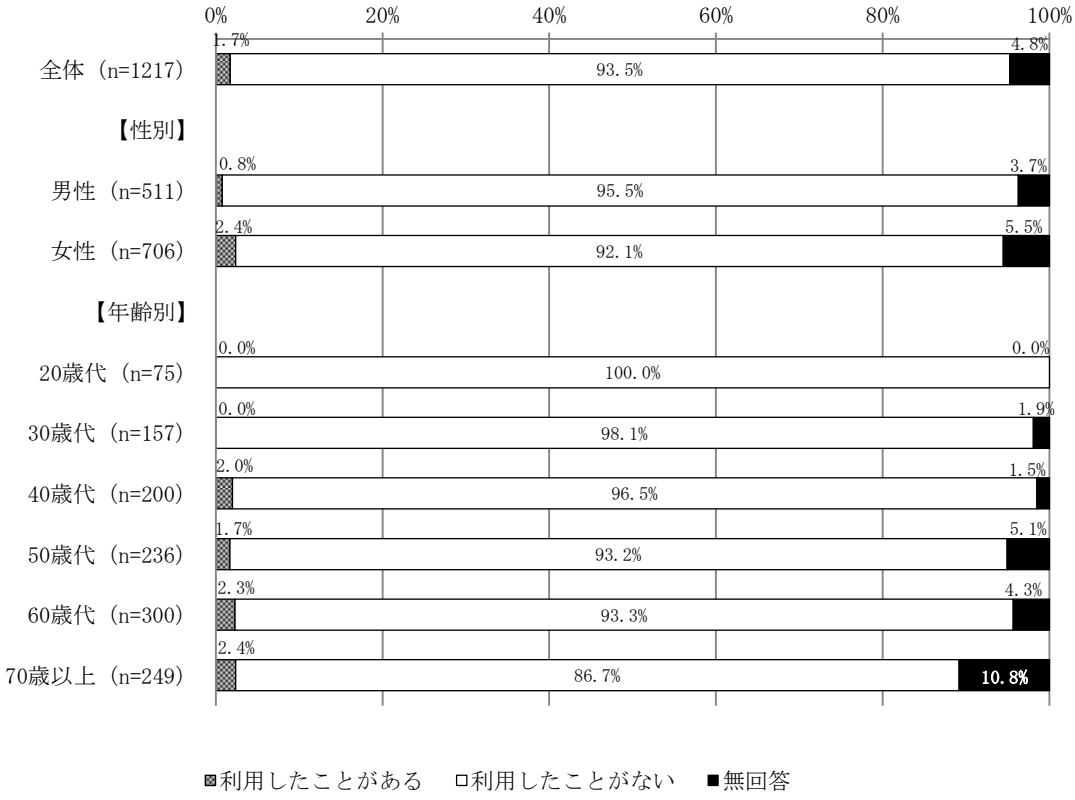


子どものいる男女で 20～40 歳代のみを分析対象とし、育児休業制度を利用しなかった理由をみてみた。上図に示すように、女性では「仕事をしていなかった」が最も選択されている一方で、男性では「配偶者が保育をしてくれた」が最も選択されている。いわゆる「夫は仕事、妻は家庭」の性別役割が反映されていることがうかがえる。

また、男性の「育児休業を取得しづらい職場だった」という割合も 26.3%と目立っている。

（3）介護休業制度の利用の有無 [問 12]

あなたは、「介護休業制度」を利用したことがありますか。１つ選んで番号に○をつけてください。



【全体】

「利用したことがある」とした割合は 1.7%と低い割合で、93.5%が「利用したことがない」となっている。

【性別】

「利用したことがある」とした割合は男性が 0.8%、女性が 2.4%といずれも低い割合となっている。

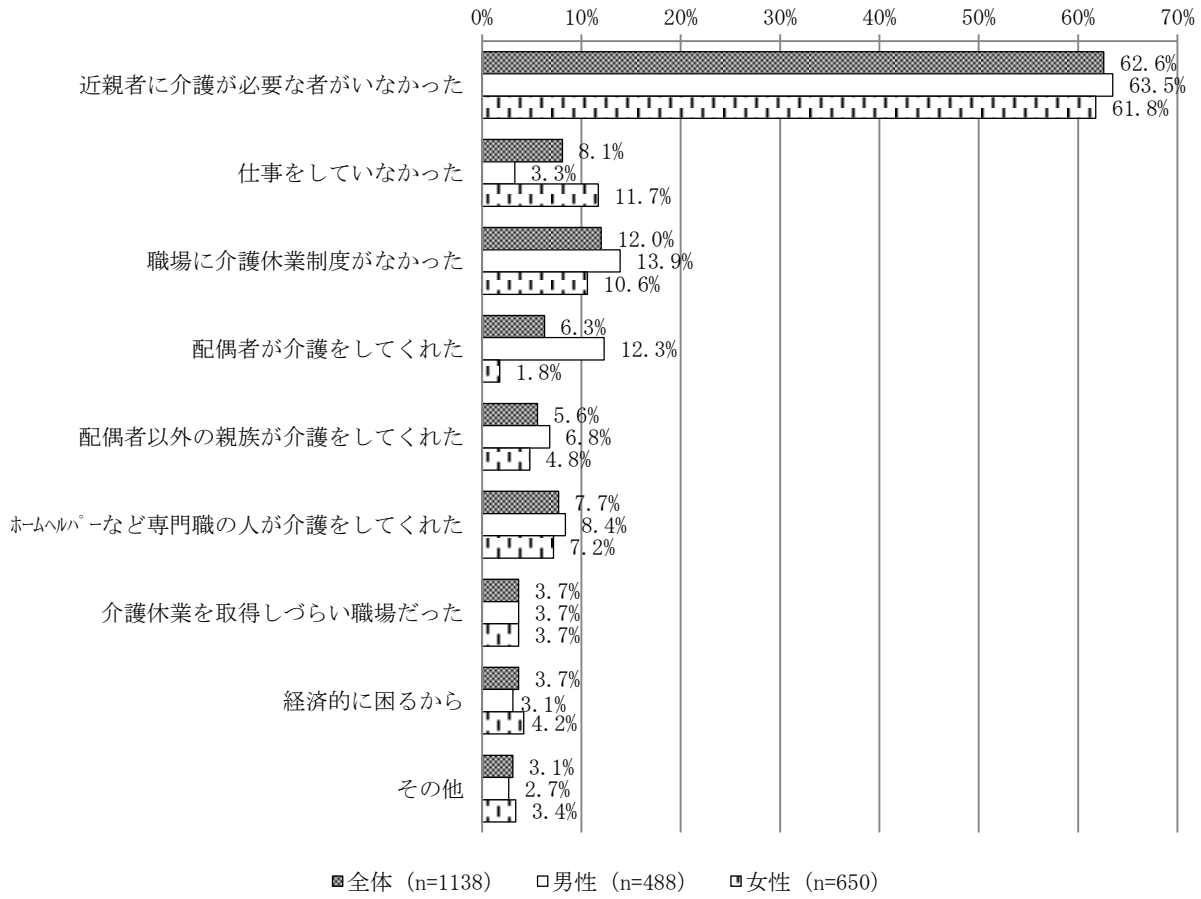
【年齢別】

「利用したことがある」とした割合が最も高いのは 70 歳以上で 2.4%、次いで 60 歳代の 2.3%、40 歳代の 2.0%となっている。

また、20 歳代と 30 歳代では「利用したことがある」とした人はいなかった。

（4）介護休業制度を利用しなかった理由 [問 13]

あなたが、「介護休業制度」を利用しなかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



【全体】

「近親者に介護が必要な者がいなかった」が 62.6%と最も高く、次いで「職場に介護休業制度がなかった」（12.0%）、「仕事をしていなかった」（8.1%）の順となっている。

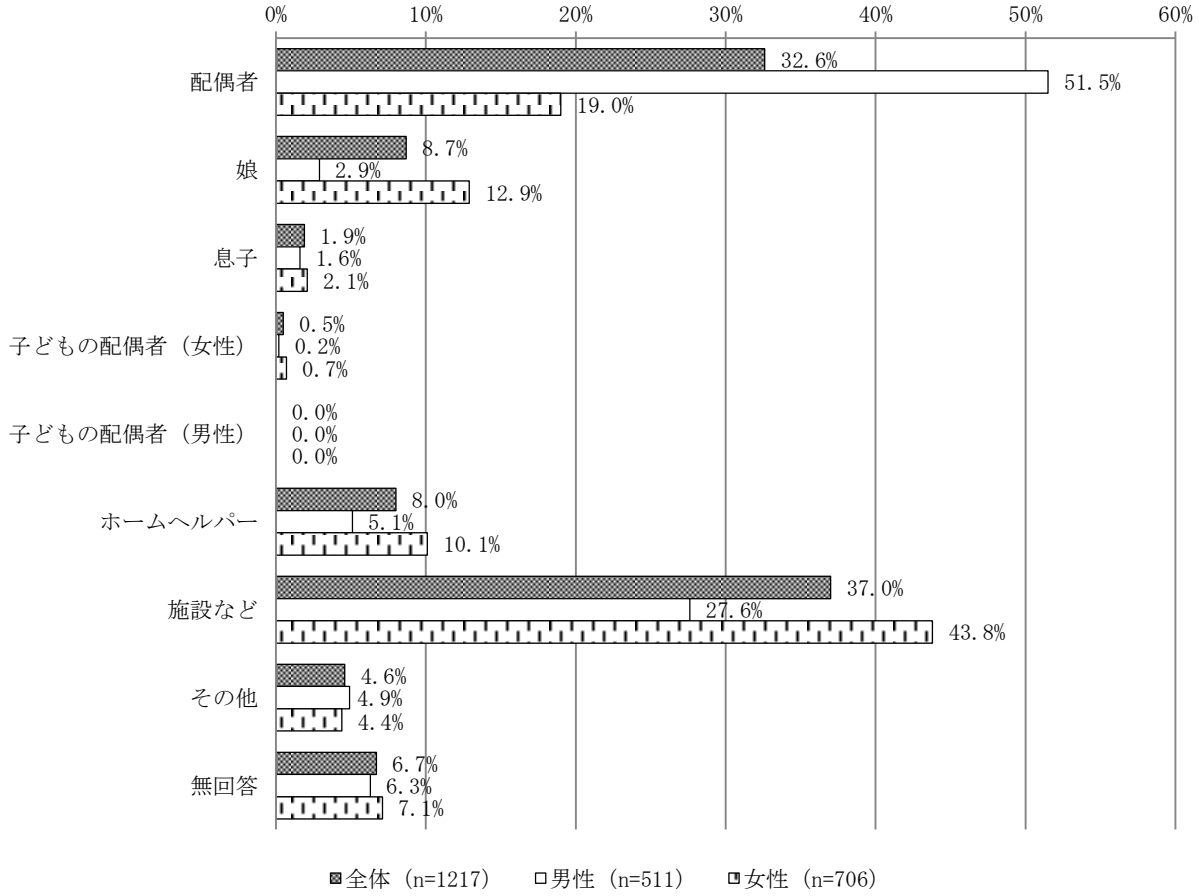
また、「介護休業を取得しづらい職場だった」「経済的に困るから」とした割合は、いずれも 3.7%となっている。

【性別】

男性、女性共に「近親者に介護が必要な者がいなかった」が 60%以上で最も高くなっている。そして男性では、「職場に介護休業制度がなかった」（13.9%）、「配偶者が介護をしてくれた」（12.3%）の順となっており、それに対して女性では、「仕事をしていなかった」（11.7%）、「職場に介護休業制度がなかった」（10.6%）の順となっている。

（5）介護が必要になった場合の希望 [問 14]

あなた自身に介護が必要になった場合、主に誰に介護してもらいたいですか。１つ選んで番号に○をつけてください。



【全体】

「施設など」が 37.0%と最も高く、次いで「配偶者」(32.6%)、「娘」(8.7%)、「ホームヘルパー」(8.0%) の順となっている。

【性別】

男性では、「配偶者」が 51.5%と最も高く、次いで「施設など」(27.6%) の順となっており、それに対して女性では、「施設など」が 43.8%と最も高く、次いで「配偶者」(19.0%)、「娘」(12.9%) の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査では「配偶者」が全体、男性、女性のいずれにおいても最も高かったが、それと比べて全体で 13.3 ポイント、男性で 10.4 ポイント、女性で 13.3 ポイント、それぞれ減少している。

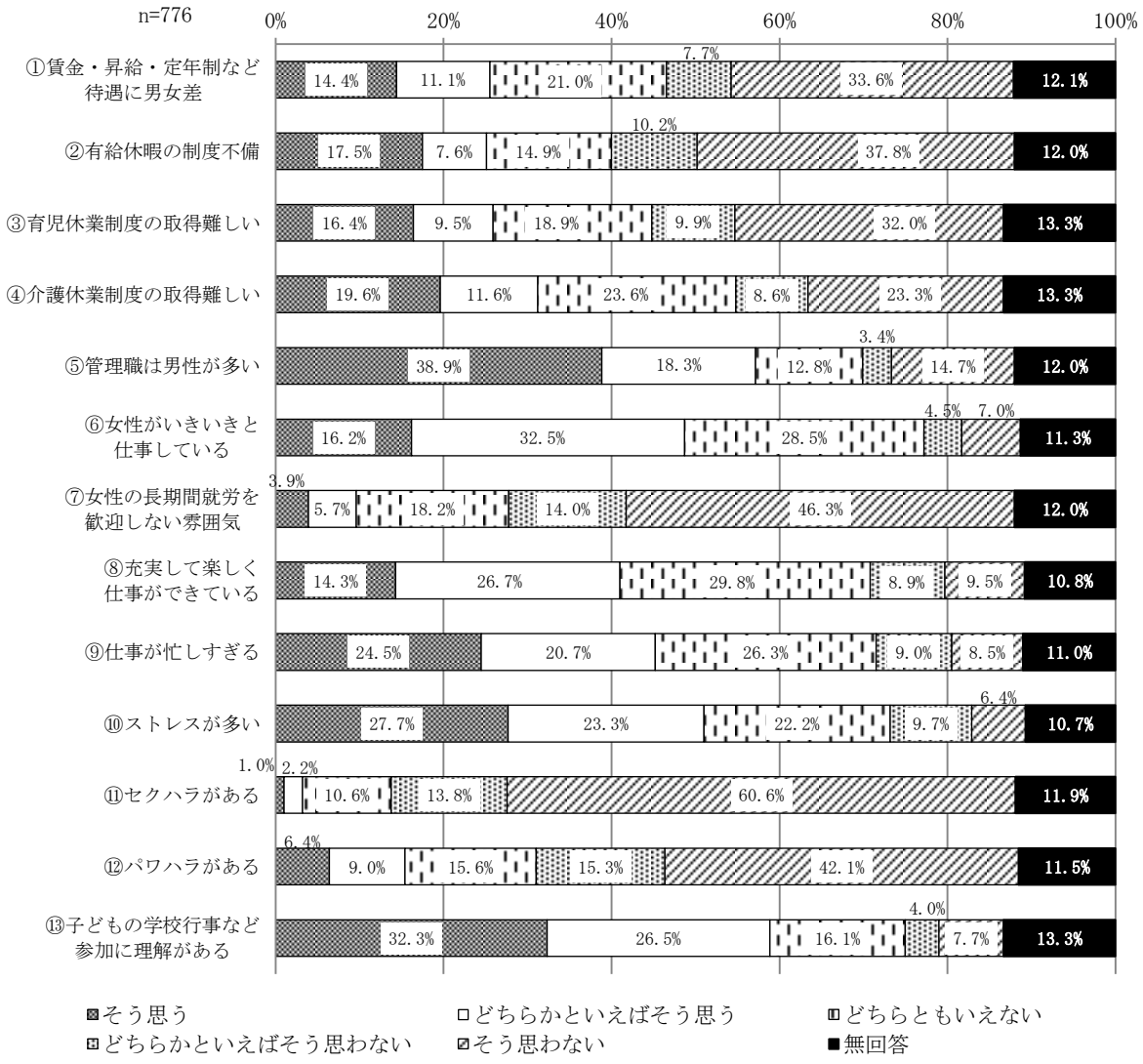
そして「施設など」が全体で 11.4 ポイント、男性で 7.0 ポイント、女性で 13.9 ポイント、それぞれ増加している。

また男性では、前回、今回共に「配偶者」が最も高くなっている。

Ⅳ　就労について

（1）職場の現状 [問 15]

あなたの職場は、①～⑬のようなことがあてはまりますか。それぞれについて１つずつ選んで番号に○をつけてください。

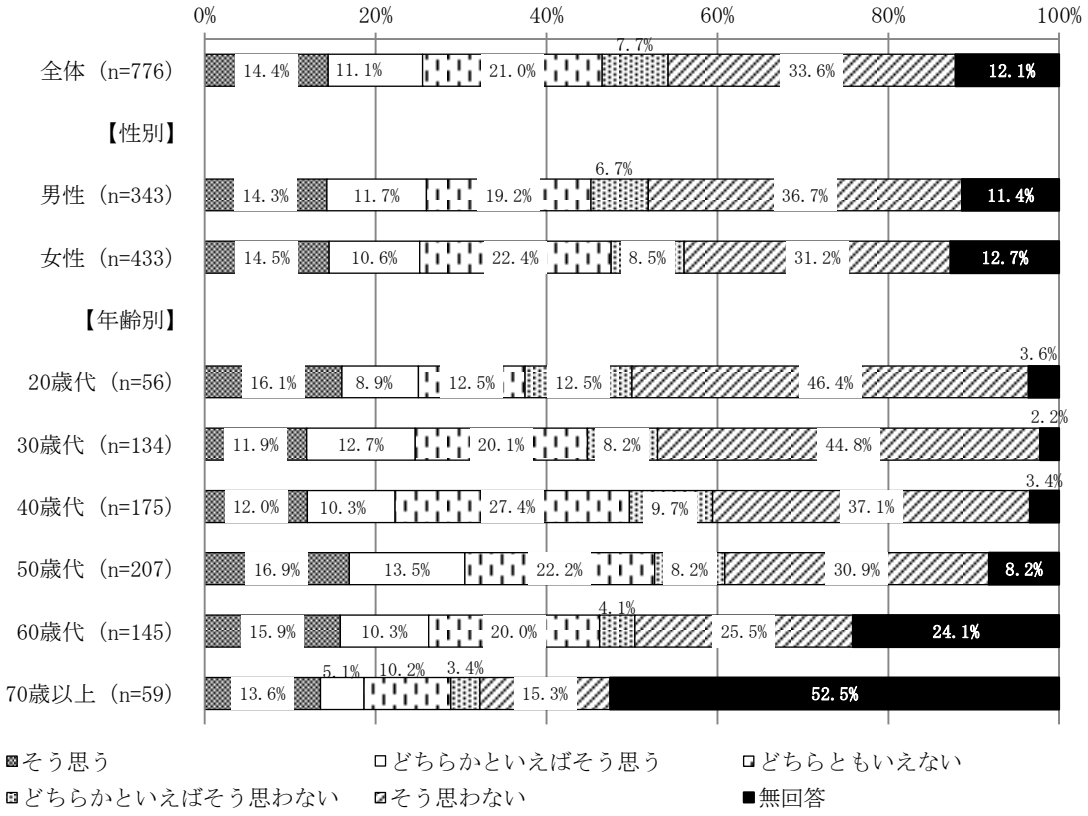


【全体】

職場の現状について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、「子どもの学校行事など参加に理解がある」が 58.8％と最も高く、次いで「管理職は男性が多い」(57.2％)、「ストレスが多い」（51.0％)、「女性がいきいきと仕事している」（48.7％）の順となっている。

また、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた割合を見ると、「セクハラがある」が 74.4％で最も高く、次いで「女性の長期間就労を歓迎しない雰囲気」（60.3％)、「パワハラがある」（57.4％)、「有給休暇の制度不備」（48.0％）の順となっている。

①賃金、昇給、定年制など待遇に男女差がある



【全体・性別】

全体では「そう思わない」が 33.6%で最も高く、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合（25.5%）を上回っている。

また、男性、女性共に「そう思わない」が男性（36.7%）、女性（31.2%）と最も高く、いずれも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を上回っている。

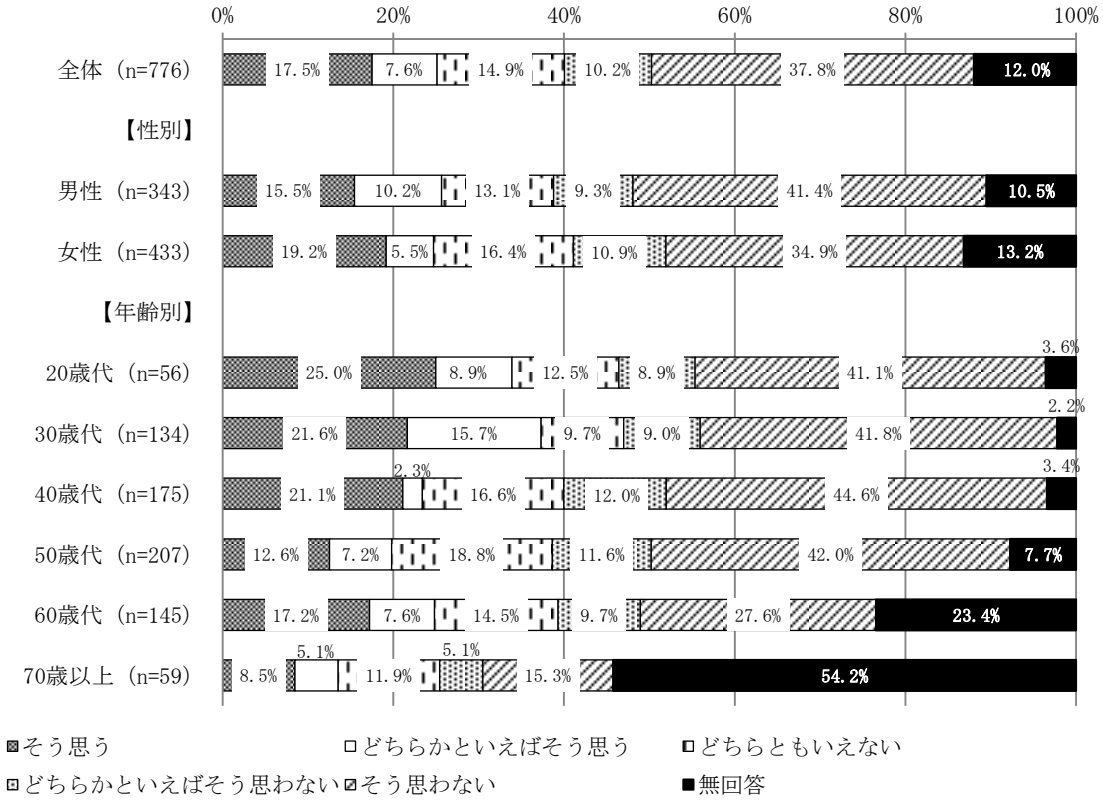
【年齢別】

「そう思わない」が世代を問わず高い割合となっているが、年代が上がるにつれてその割合は低くなっている。ただし、70 歳以上では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合と、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合がいずれも 18.7%で同じ割合となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」とする割合が全体で 4.2 ポイント、男性で 1.8 ポイント、女性で 6.7 ポイント、それぞれ減少している。

②有給休暇の制度が不備



【全体・性別】

全体では「そう思わない」が 37.8%と最も高く、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合（25.1%）を上回っている。

また、男性、女性共に「そう思わない」が男性（41.4%）、女性（34.9%）と最も高く、いずれも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を上回っている。

【年齢別】

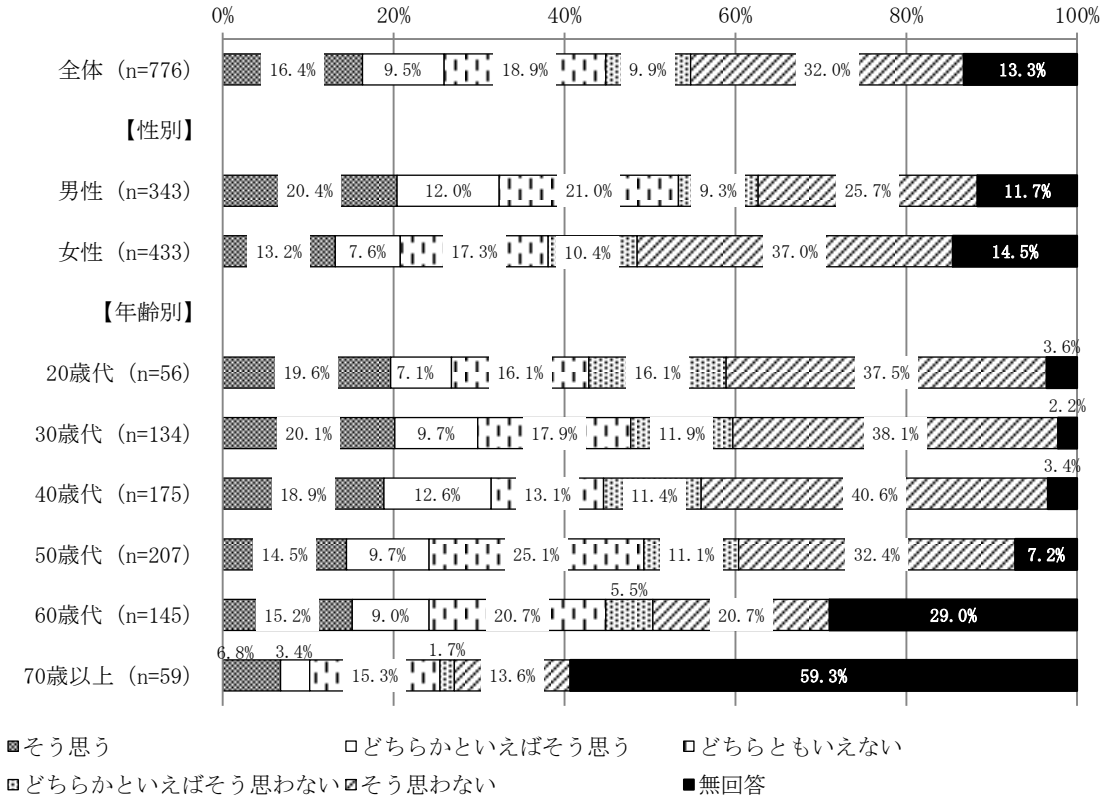
「そう思わない」が世代を問わず高い割合となっており、特に 20 歳代から 50 歳代ではいずれも 40%以上となっている。

また、「そう思う」は 20 歳代で最も高く 25.0%となっており、30 歳代と 40 歳代でもいずれも 20%を越えている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて、全体、男性、女性のいずれも、それぞれの割合に大きな差はないが、その中で「そう思わない」が女性で 5.2 ポイント減少している。

③育児休業制度の取得が難しい



【全体・性別】

全体では「そう思わない」が 32.0%で最も高く、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合（25.9%）を上回っている。

また、男性、女性共に「そう思わない」が男性（25.7%）、女性（37.0%）と最も高くなっているが、男性では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が 32.4%と高くなっている。

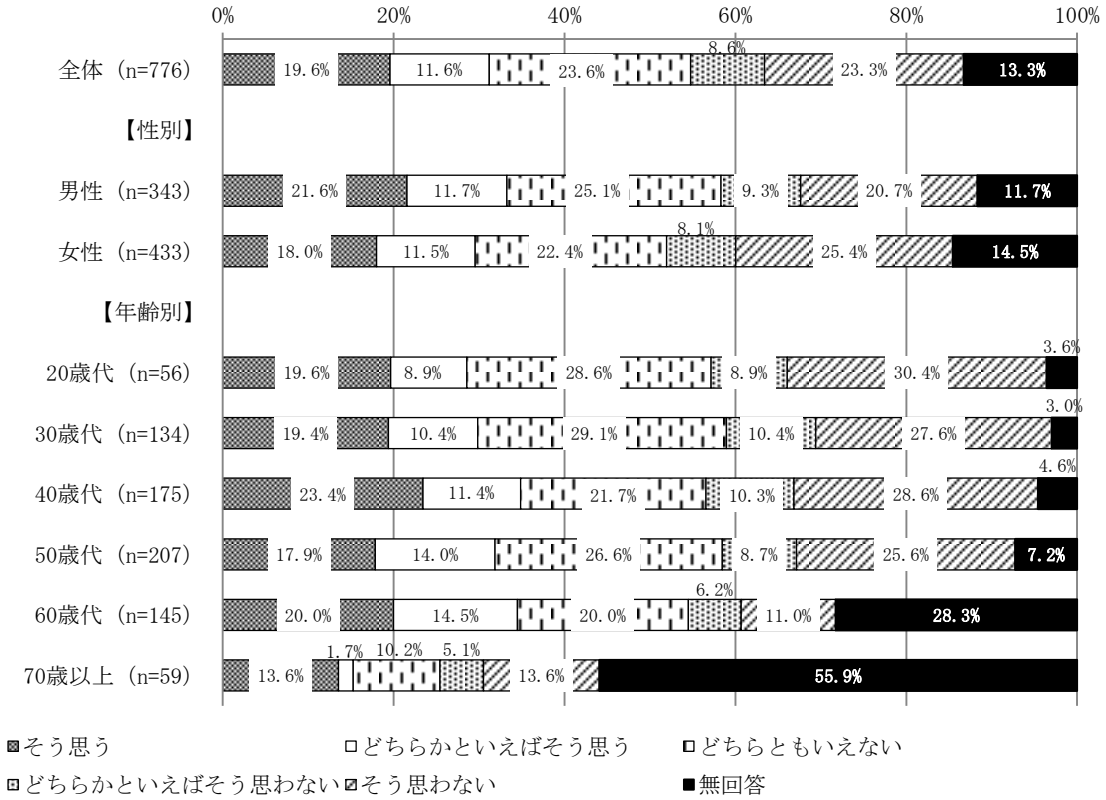
【年齢別】

「そう思わない」が世代を問わず高い割合となっており、特に 40 歳代が 40.6%と最も高くなっている。ただし、40 歳代は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が 31.5%と各年代の中でもっとも高い割合となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて、全体、男性、女性のいずれも、それぞれの割合に大きな差はないが、その中で「そう思わない」が男性で 8.2 ポイント減少している。

④介護休業制度の取得が難しい



【全体・性別】

全体では「どちらともいえない」が 23.6%で最も高く、次いで「そう思わない」（23.3%）の順となっている。

また、男性でも「どちらともいえない」が 25.1%と最も高くなっているが、女性では「そう思わない」が 25.4%で「どちらともいえない」の 22.4%を上回っている。

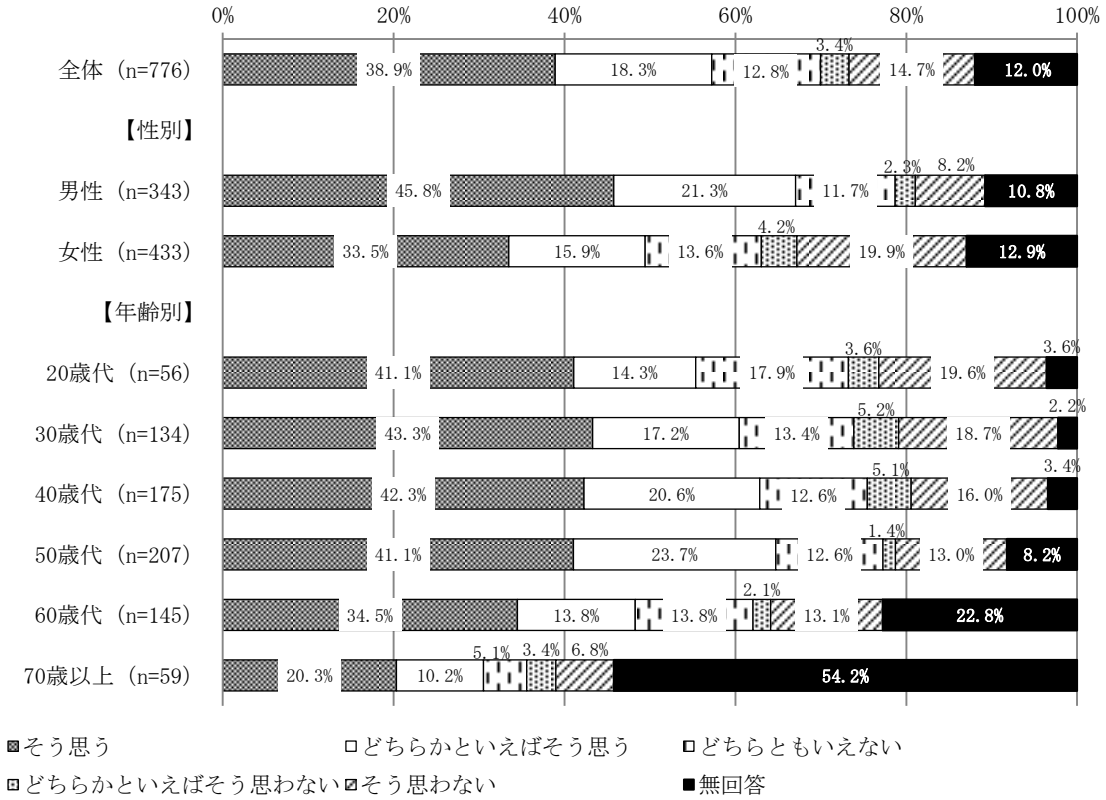
【年齢別】

「そう思わない」が最も高いのは 20 歳代（30.4%）と 40 歳代（28.6%）で、「そう思う」が最も高いのは 40 歳代（23.4%）となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて、全体、男性、女性のいずれも、それぞれの割合に大きな差はないが、その中で「そう思わない」が男性で 4.5 ポイント減少している。

⑤管理職は男性が多い



【全体・性別】

全体では「そう思う」が 38.9%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が 18.3%となっており、両方を合わせた割合が 50%を越えている。

男性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が女性より 17.7 ポイント高くなっており、これに対して女性は「そう思わない」が男性より 11.7 ポイント高くなっている。

【年齢別】

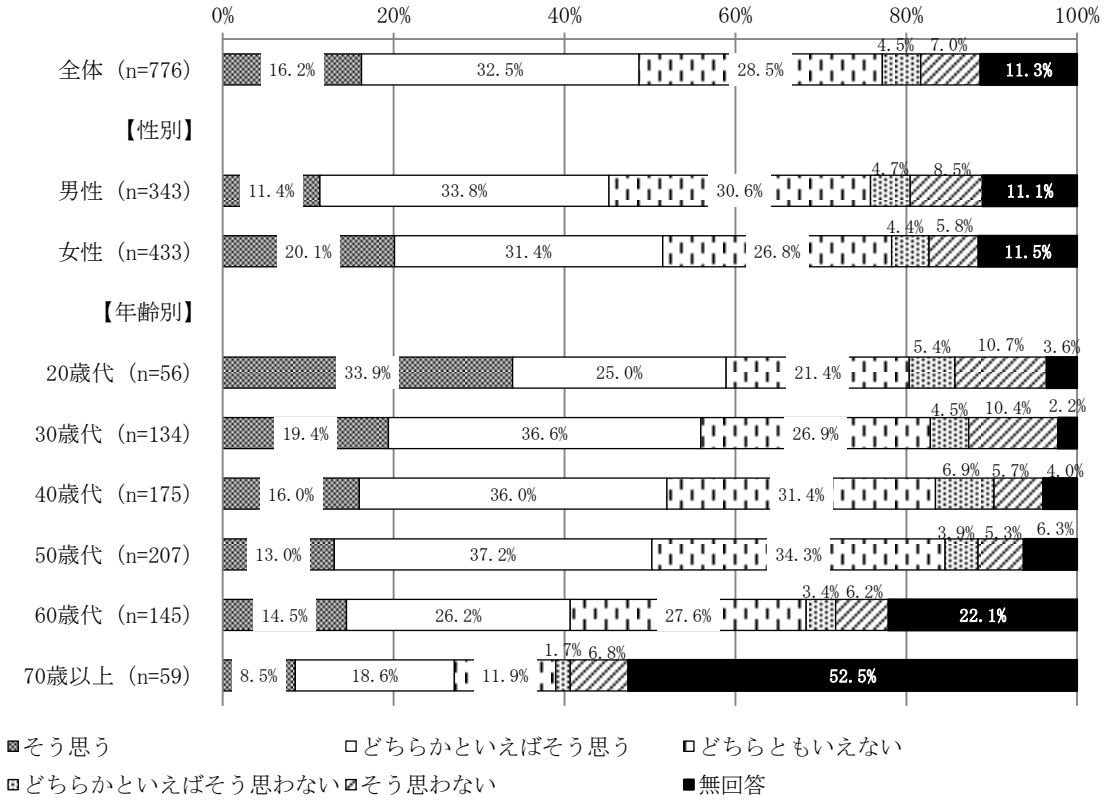
「そう思う」が世代を問わず高い割合となっており、特に 30 歳代から 50 歳代では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、いずれも 60%を越えている。

また、「そう思わない」が最も高いのは 20 歳代で 19.6%となっており、次いで 30 歳代（18.7%）の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」とする割合が全体で 4.5 ポイント、男性で 4.0 ポイント、女性で 3.1 ポイント、それぞれ減少している。

⑥女性がいきいきと仕事をしている



【全体・性別】

全体では「どちらかといえばそう思う」が 32.5%で最も高く、次いで「どちらともいえない」(28.5%）の順となっている。

また、女性は「そう思う」とする割合が男性より 8.7 ポイント高くなっている。

【年齢別】

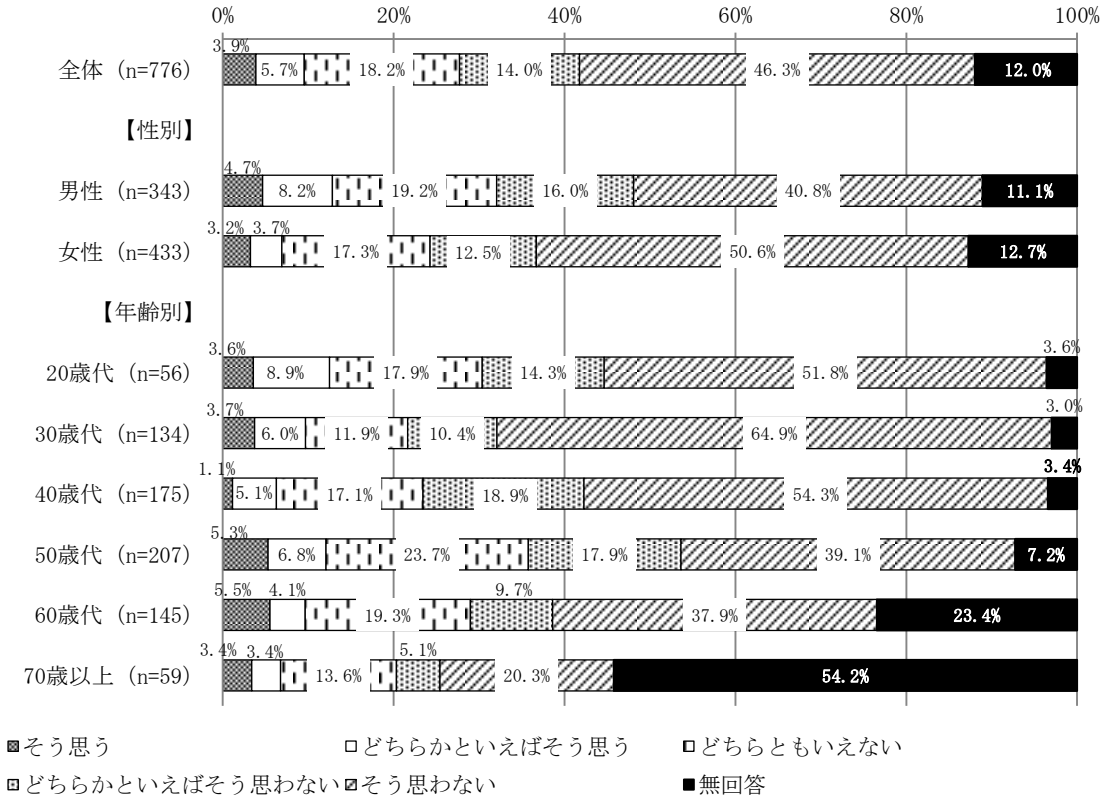
「どちらかといえばそう思う」が 30 歳代から 70 歳代で最も高くなっている。

また、20 歳代では「そう思う」が 33.9%で最も高くなっているが、同時に「そう思わない」とする割合も 10.7%で、他の年代と比べて最も高くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」とする割合が全体で 7.1 ポイント、男性で 5.9 ポイント、女性で 9.7 ポイント、それぞれ減少しているが、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると男性で 2.4 ポイント増加し、女性で 4.6 ポイント減少している。

⑦女性が長期間就労することを歓迎しない雰囲気がある



【全体・性別】

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が、全体で 60.3%、男性で 56.8%、女性で 63.1%となっている。

また、女性は「そう思わない」とする割合が男性より 9.8 ポイント高くなっている。

【年齢別】

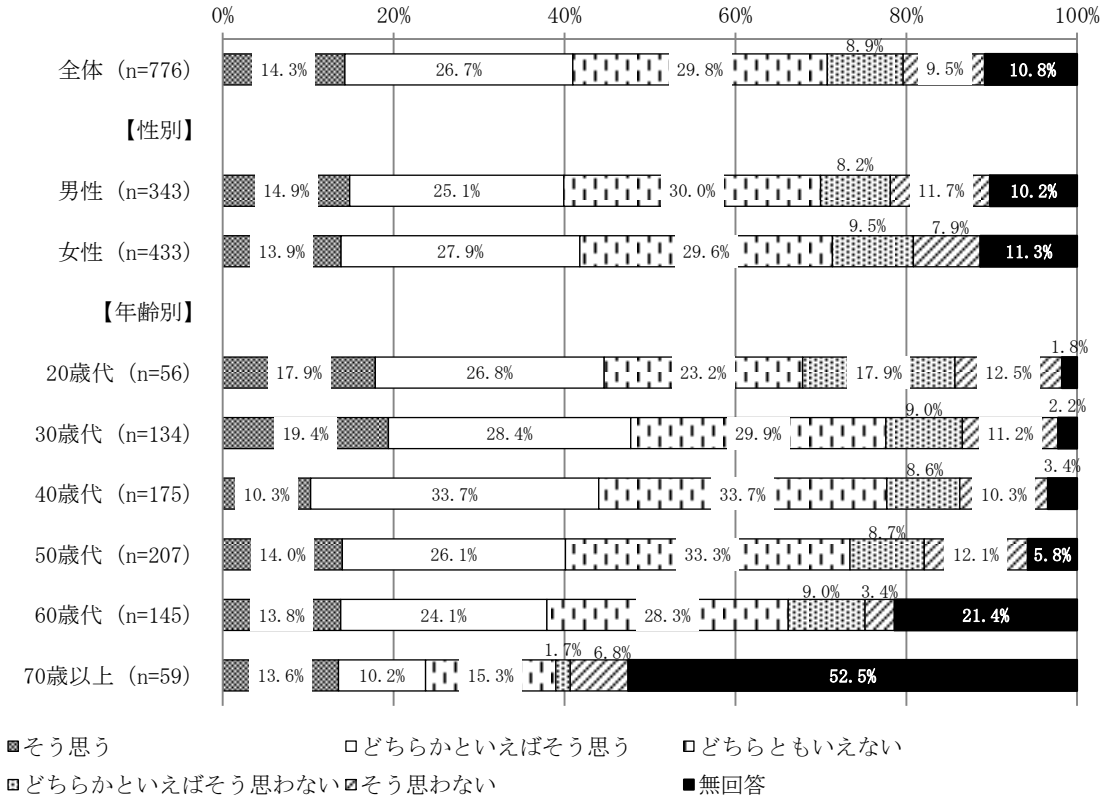
「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が、世代を問わず高くなっている。

また、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は 20 歳代が最も高く 12.5%、次いで 50 歳代が 12.1%の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が全体で 4.1 ポイント、男性で 4.8 ポイント、女性で 4.4 ポイント減少している。

⑧充実して楽しく仕事ができている



【全体・性別】

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が 41.0%で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合（18.4%）を上回っている。

また、性別では男女間でほとんど差は見られないが、「そう思わない」とする割合が女性より男性の方が 3.8 ポイント高くなっている。

【年齢別】

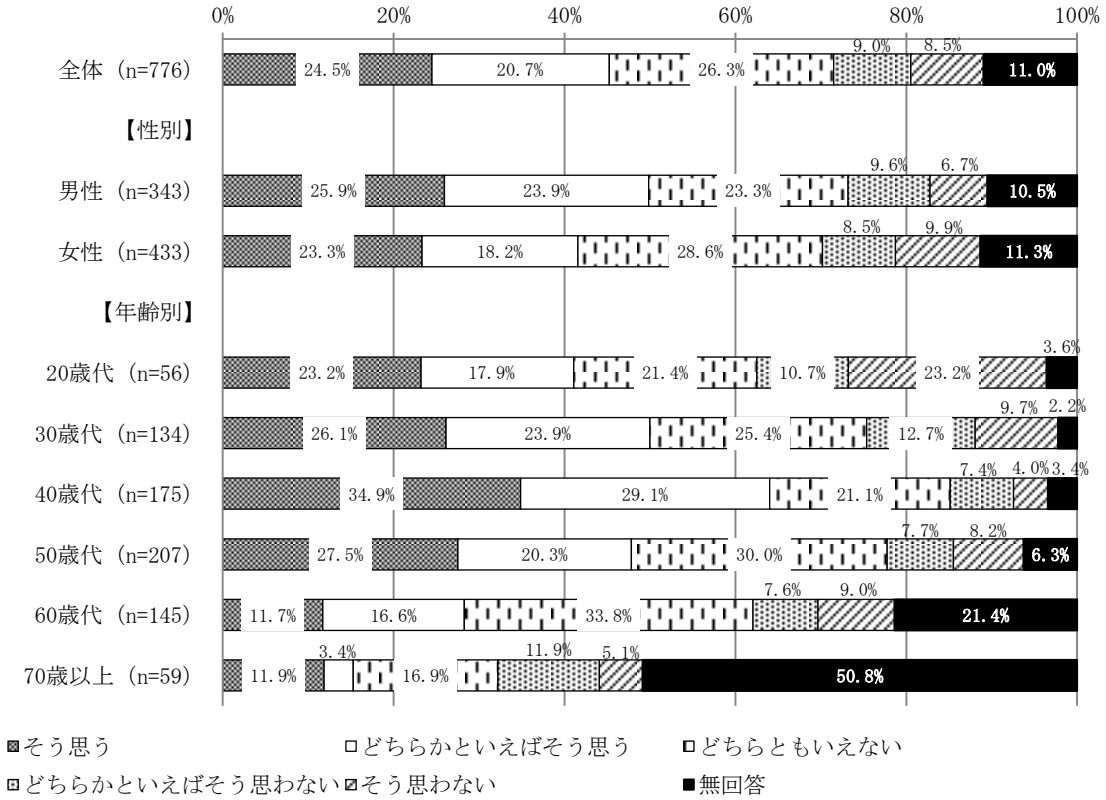
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、20 歳代から 50 歳代でいずれも 40%を越えている。

また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で、30.4%となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて、全体、男性、女性のいずれでも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合がおよそ 40%となっており、ほとんど差がみられない。

⑨仕事が忙しすぎる



【全体・性別】

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が 45.2%で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合（17.5%）を上回っている。

また、男性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、女性より 8.3 ポイント高くなっている。

【年齢別】

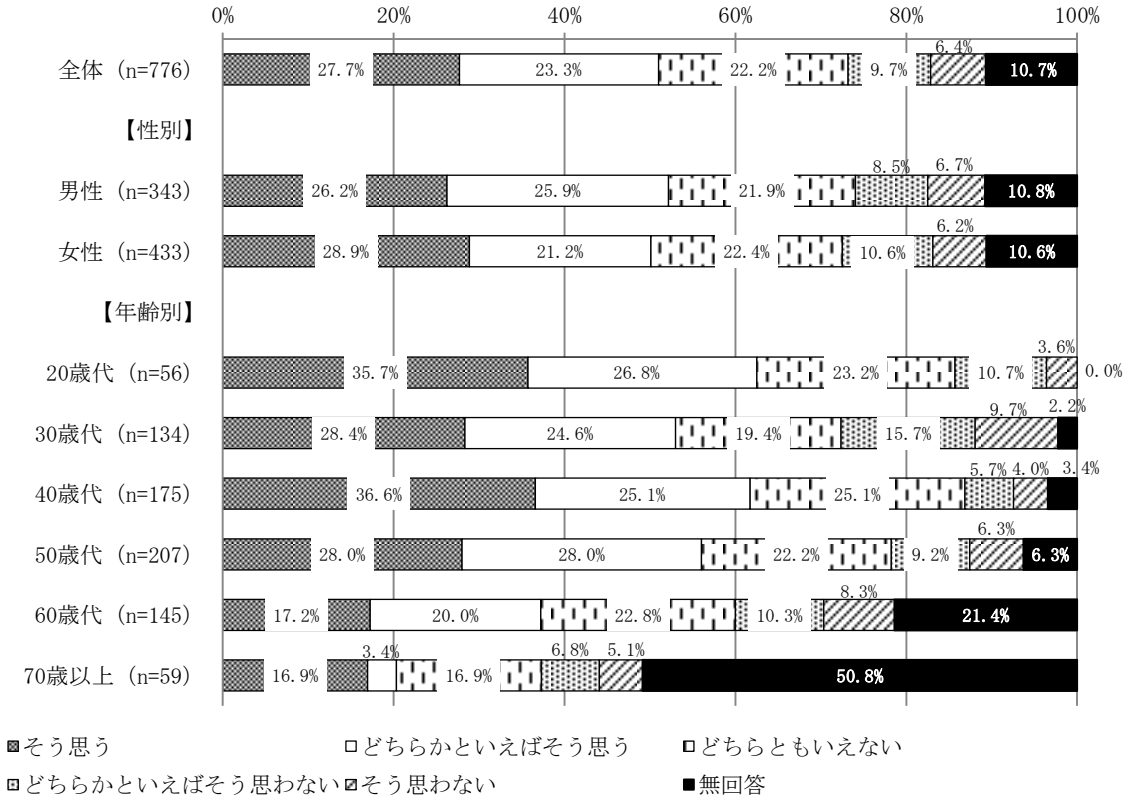
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 40 歳代で 64.0%、次いで 30 歳代（50.0%）、50 歳代（47.8%）の順となっている。

また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 33.9%、次いで 30 歳代（22.4%）の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査でも全体、男性、女性のいずれも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が 40%を越えており、ほとんど差がみられない。

⑩ストレスが多い



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、全体（51.0%）、男性（52.1%）、女性（50.1%）といずれも50%を越えている。

【年齢別】

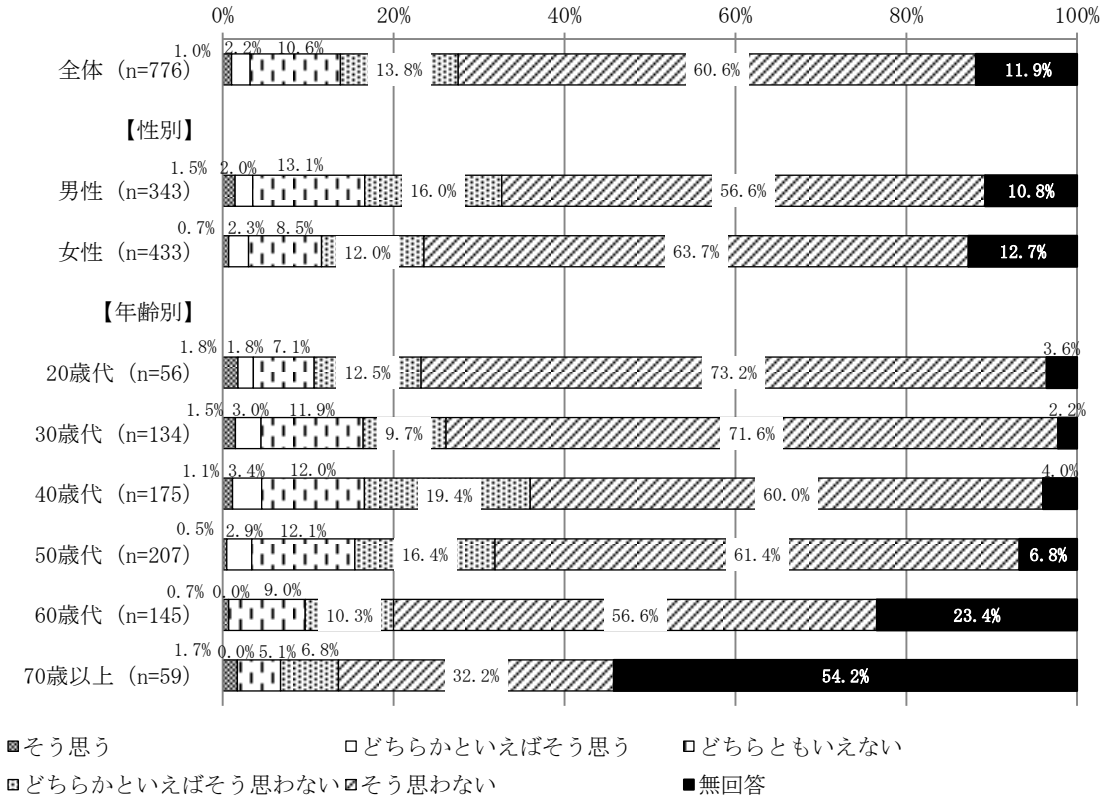
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、20歳代から50歳代でいずれも50%を越えており、最も高いのは20歳代で62.5%、次いで40歳代で61.7%となっている。

それに対して「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、30歳代が最も高く25.4%となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で6.7ポイント、男性で6.1ポイント、女性で7.1ポイント、それぞれ減少している。

⑪セクハラ（性的嫌がらせ）がある



【全体・性別】

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が 3.2%となっており、これに対して「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 74.4%となっている。

また、性別では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が女性より男性の方が 0.5 ポイント高くなっている。

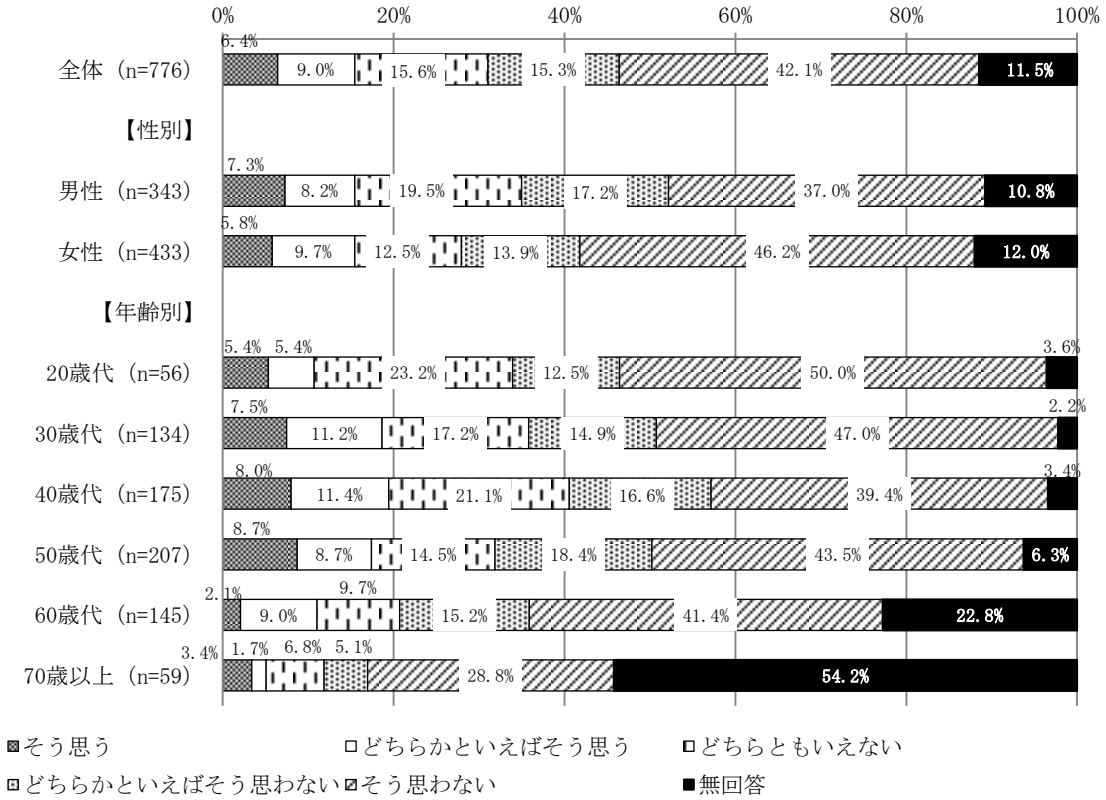
【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 30 歳代と 40 歳代で、いずれも 4.5%、次いで 20 歳代で 3.6%、50 歳代で 3.4%の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 1.6 ポイント、男性で 0.5 ポイント、女性で 3.0 ポイント、ぞれぞれ減少している。

⑫パワハラ（上司によるいじめ、嫌がらせ）がある



【全体・性別】

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が 15.4%となっており、これに対して「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は 57.4%となっている。

また、性別では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が男性、女性共に 15.5%となっている。

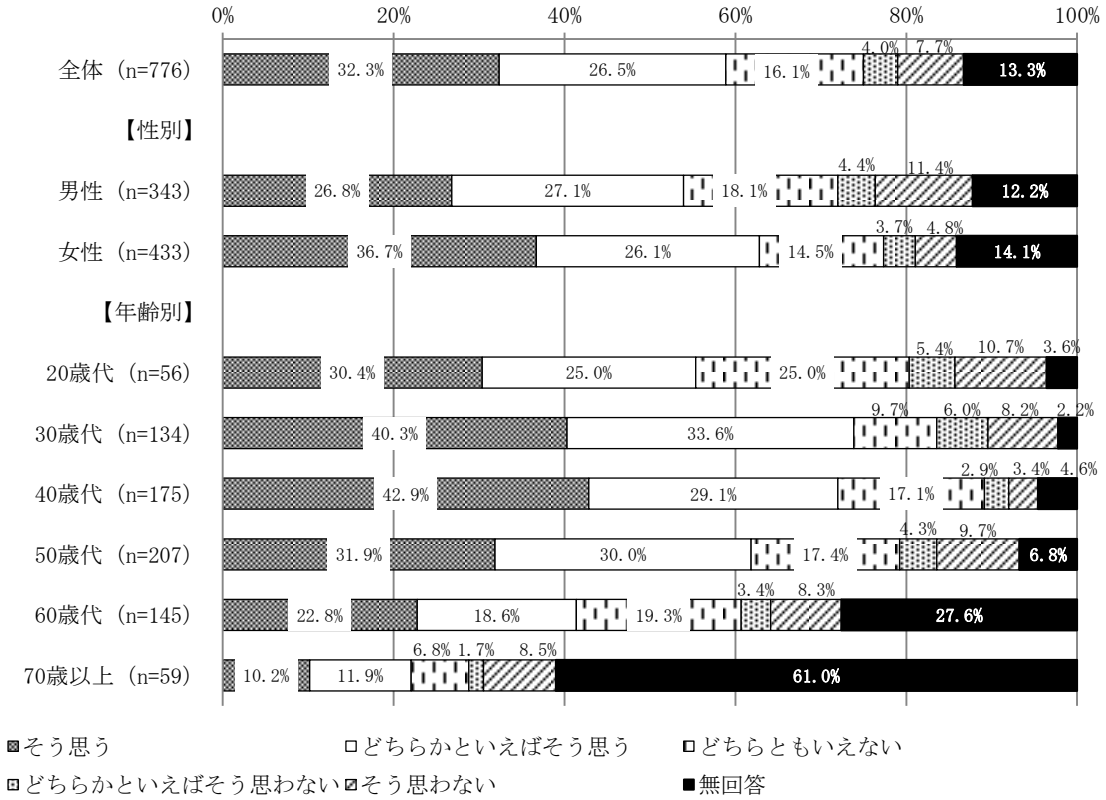
【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 40 歳代で 19.4%、次いで 30 歳代で 18.7%、50 歳代で 17.4%の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 1.1 ポイント、男性で 0.7 ポイント、女性で 1.7 ポイント、ぞれぞれ増加している。

⑬子どもの学校行事などへ参加するため休暇を取ることに理解がある



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、全体（58.8%）、男性（53.9%）、女性（62.8%）といずれも50%を越えており、男性より女性の方が8.9ポイント高くなっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは30歳代で73.9%、次いで40歳代で72.0%、50歳代で61.9%の順となっている。

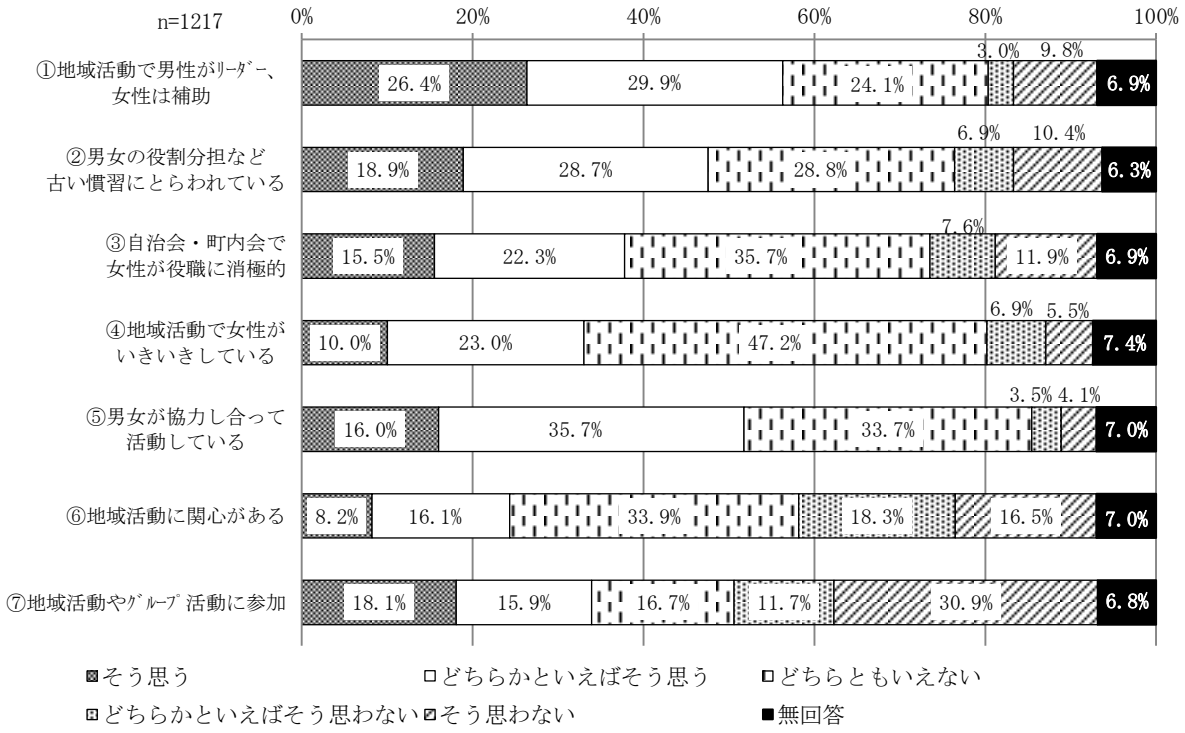
【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」とする割合が全体で7.5ポイント、男性で7.4ポイント、女性で9.3ポイント、それぞれ減少している。

Ⅴ　地域活動などについて

（1）地域の現状 [問 16]

あなたがお住まいの地域についてお尋ねします。①～⑦のそれぞれについて、１つずつ選んで番号に○をつけてください。

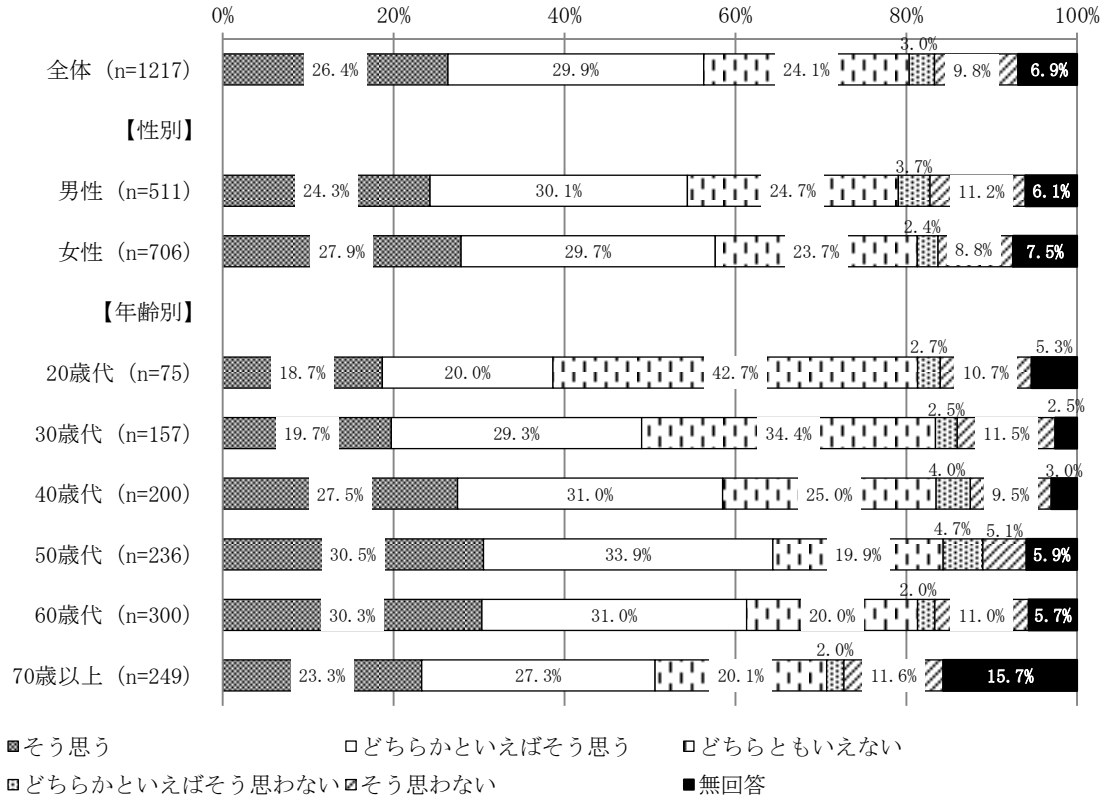


【全体】

地域の現状について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、「地域活動で男性がリーダー、女性は補助」が 56.3%と最も高く、次いで「男女が協力し合って活動している」（51.7%）、「男女の役割分担など古い慣習にとらわれている」（47.6%）の順となっている。

また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合をみると、「地域活動やグループ活動に参加」が 42.6%と最も高く、次いで「地域活動に関心がある」（34.8%）、「自治会・町内会で女性が役職に消極的」（19.5%）の順となっている。

①地域活動では、会長などリーダーは男性で、女性は補助的な役割になる



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(56.3%)、男性(54.4%)、女性（57.6%）で、いずれも 50%を越えている。

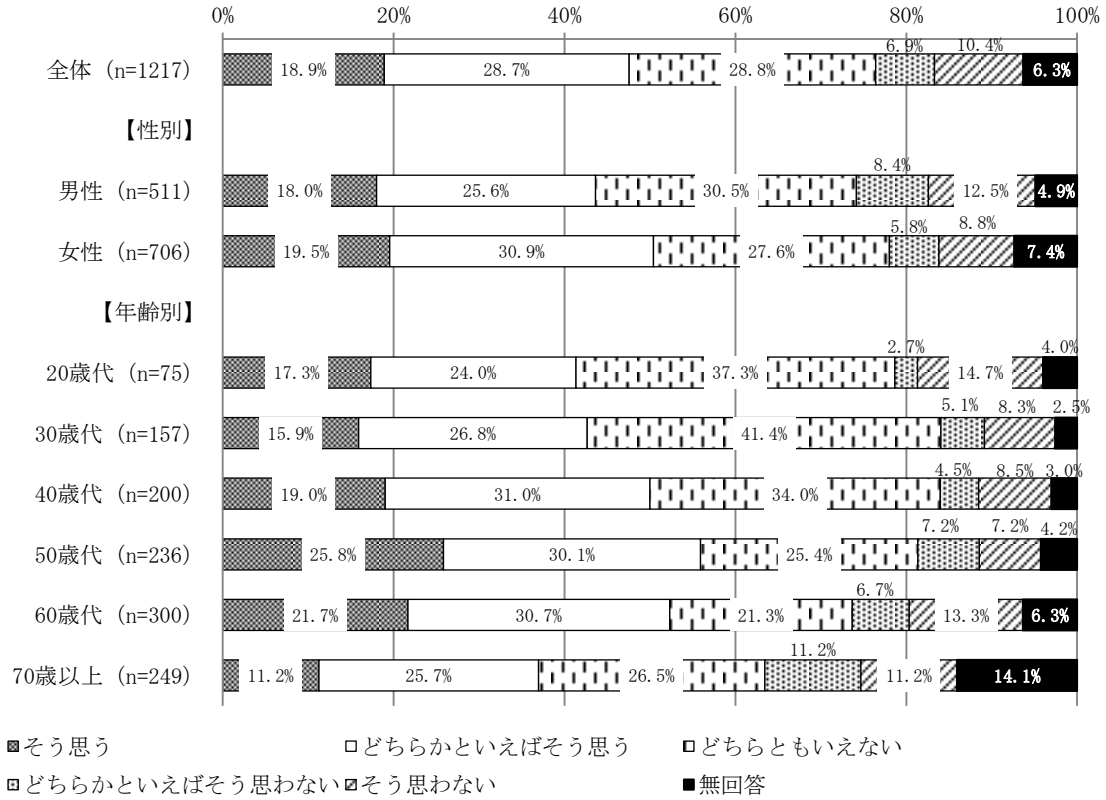
【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 50 歳代で 64.4%、次いで 60 歳代（61.3%）、40 歳代（58.5%）の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」が全体で 10.1 ポイント、男性で 12.0 ポイント、女性で 8.9 ポイント、それぞれ減少している。

②男女の役割分担など、古い慣習やしきたりにとらわれることが多い



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(47.6%)、男性(43.6%)、女性（50.4%）となっており、女性の方が男性より 6.8 ポイント高くなっている。

【年齢別】

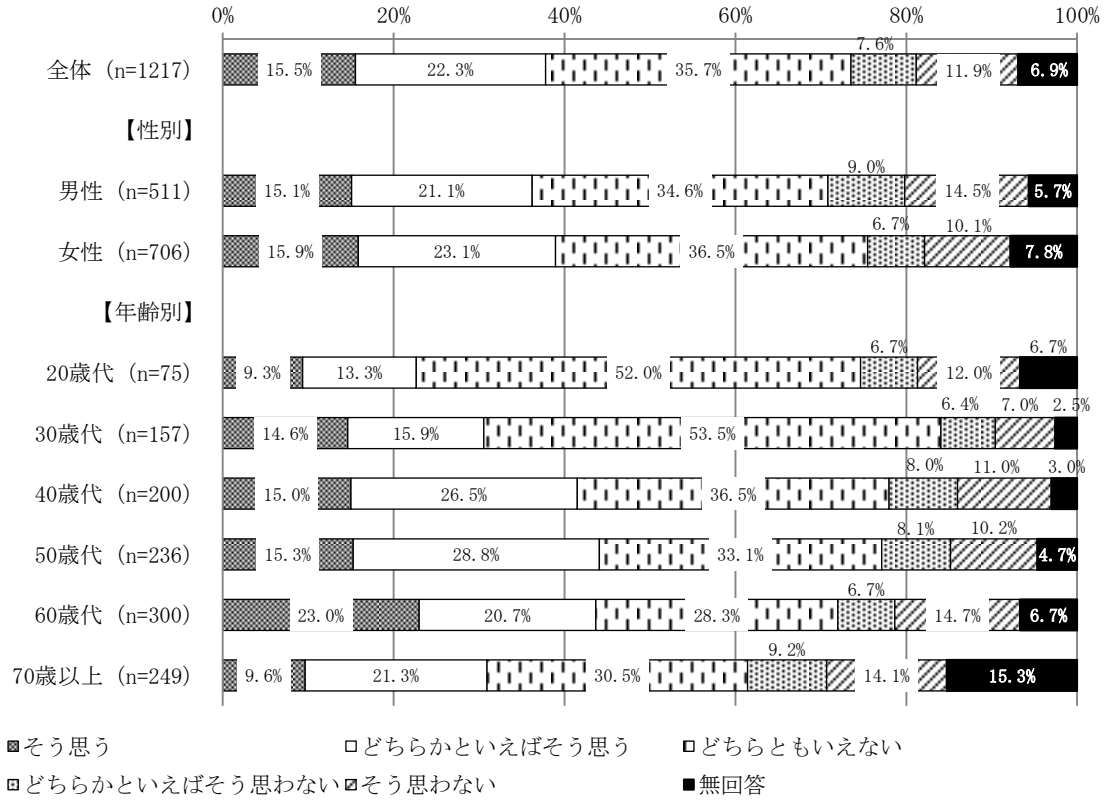
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 50 歳代で 55.9%、次いで 60 歳代（52.4%）、40 歳代（50.0%）の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 22.4%、次いで 60 歳代（20.0%）、20 歳代（17.4%）の順となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見るとほとんど差は見られないが、全体で 1.3 ポイント、女性で 2.1 ポイント、それぞれ増加しているのに対して、男性では 0.6 ポイント減少している。

③自治会・町内会の活動では、女性が役職に就くことに消極的



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(37.8%)、男性(36.2%)、女性（39.0%）となっているが、いずれも「どちらともいえない」とする割合とほとんど差がみられない。

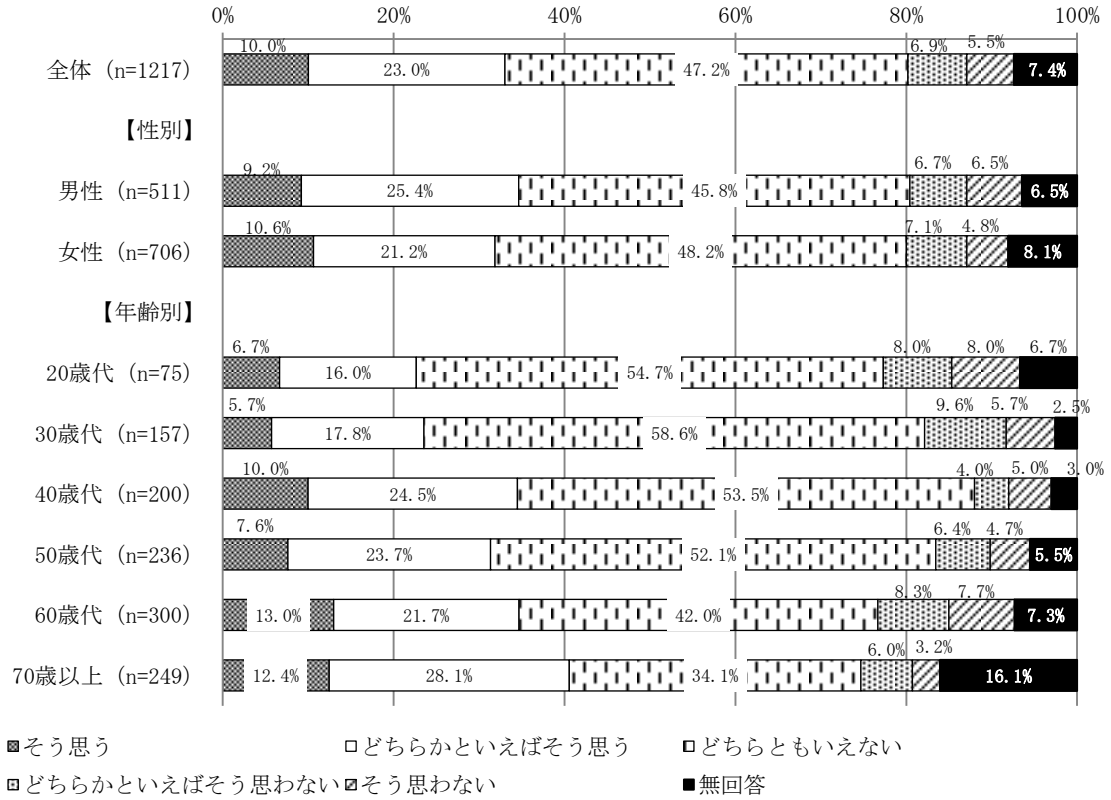
【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 50 歳代で 44.1%、次いで 60 歳代（43.7%）、40 歳代（41.5%）の順となっているが、特に 60 歳代では「そう思う」とする割合が 23.0%で、他の年代と比較して高い割合となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見るとほとんど差は見られないが、全体で 3.5 ポイント、男性で 6.0 ポイント、女性で 1.5 ポイント、それぞれ減少している。

④地域活動では、女性がいきいきしている



【全体・性別】

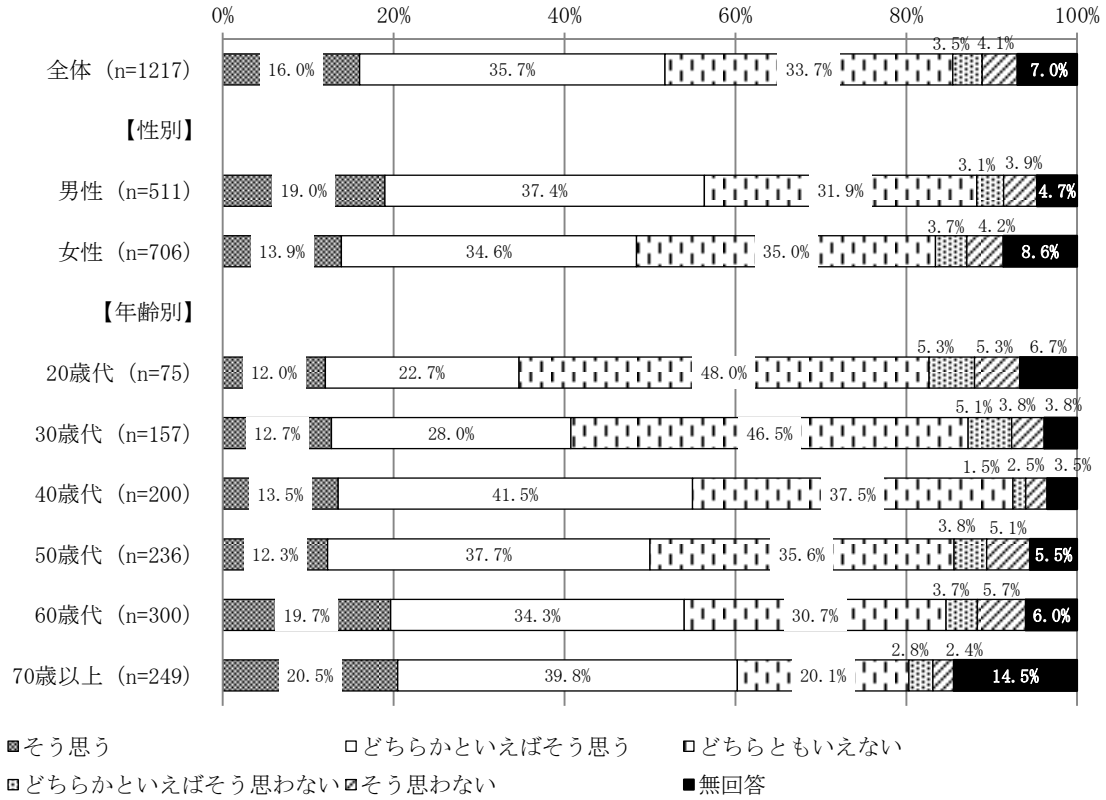
「どちらともいえない」とする割合が全体、男性、女性のいずれでも最も高い割合となっており、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、全体（33.0%）、男性（34.6%）、女性（31.8%）となっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは70歳以上で40.5%、次いで60歳代（34.7%）、40歳代（34.5%）の順となっている。

また、「どちらともいえない」とする割合で見ると、20歳代から50歳代でいずれも50%を越えている。

⑤男女が協力し合って活動している



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(51.7%)、男性(56.4%)、女性（48.5%）となっており、女性より男性の方が 7.9 ポイント高くなっている。

【年齢別】

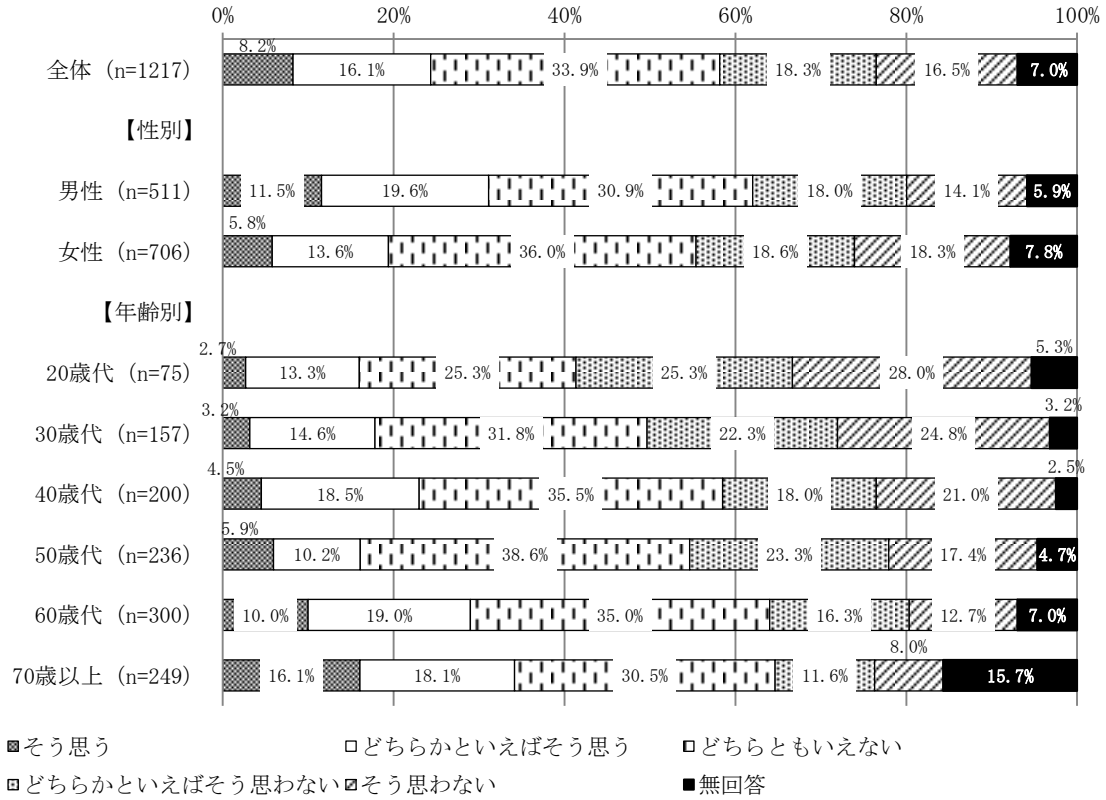
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 60.3%、次いで 40 歳代（55.0%）、60 歳代（54.0%）、50 歳代（50.0%）の順となっている。

また、20 歳代、30 歳代では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合より「どちらともいえない」とする割合が高くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体で 2.8 ポイント、男性で 8.7 ポイント、それぞれ増加しているが、女性では 1.4 ポイント減少している。

⑥私は、地域活動に関心がある



【全体・性別】

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合より 10.5 ポイント低くなっている。

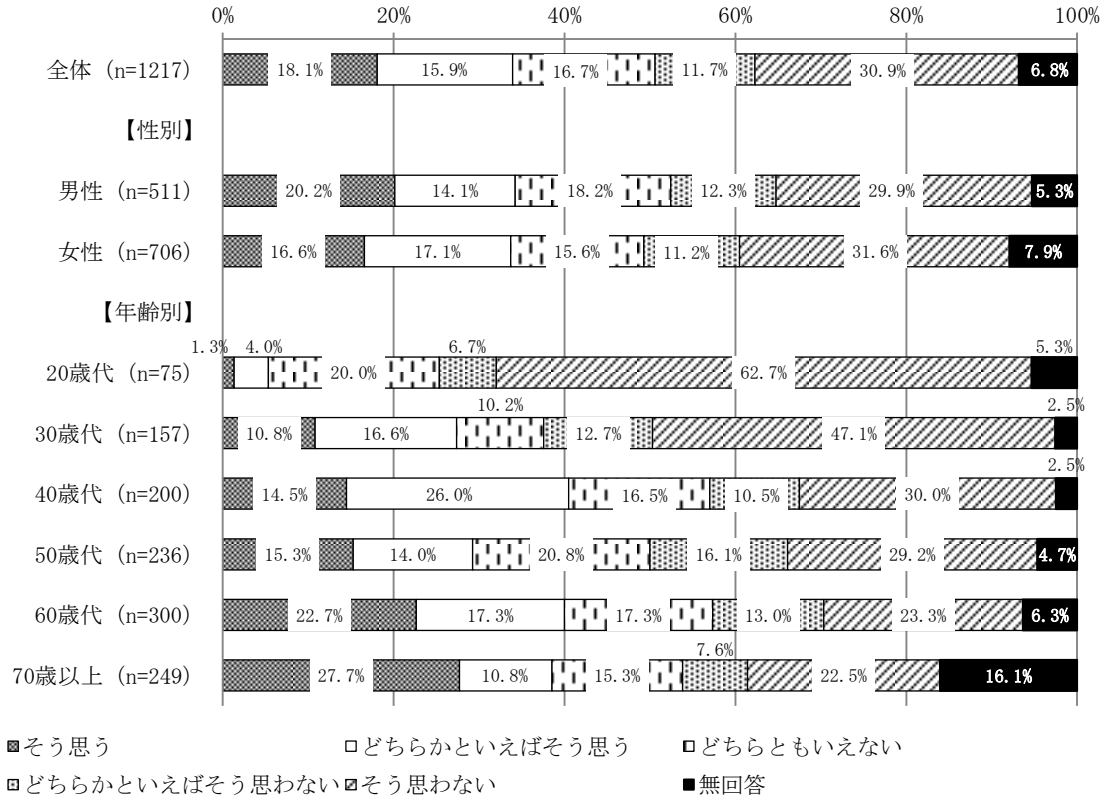
また、男性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、女性より 11.7 ポイント高くなっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 34.2%、次いで 60 歳代（29.0%）、40 歳代（23.0%）の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 53.3%、次いで 30 歳代（47.1%）、50 歳代（40.7%）の順となっている。

⑦私は、地域活動やグループ活動（自治会、ＰＴＡ、趣味の教室等）に参加している



【全体・性別】

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合より 8.6 ポイント低くなっている。

また、男女別でも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合より、男性が 7.9 ポイント、女性が 9.1 ポイント低くなっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 40 歳代で 40.5%、次いで 60 歳代（40.0%）、70 歳以上（38.5%）の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 69.4%、次いで 30 歳代（59.8%）、50 歳代（45.3%）の順となっている。

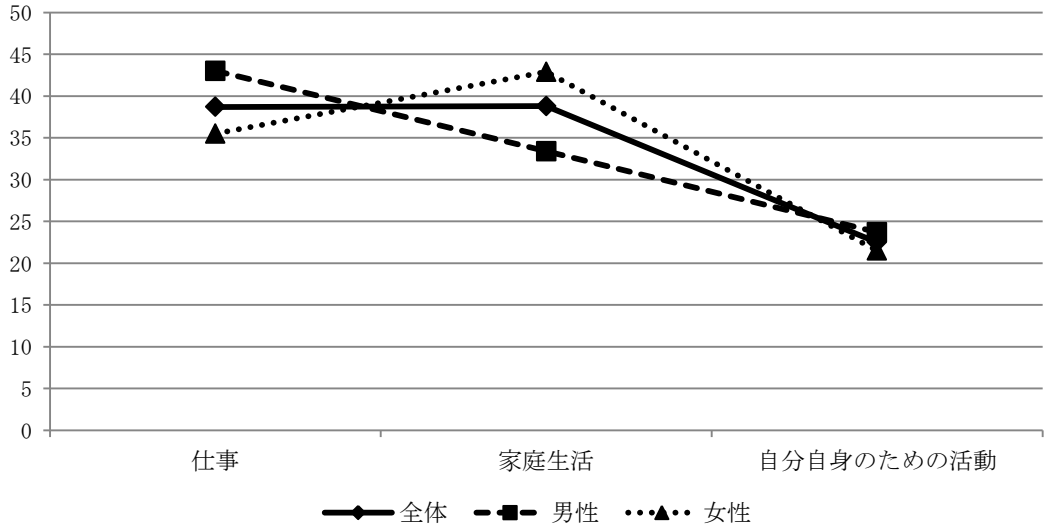
Ⅵ　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

（1）「仕事」「家庭」「自分自身のための活動」のバランスの理想 [問 17(1)]

「仕事」「家庭生活」「趣味など自分自身のための活動」の３つの間のバランスとして、あなたはどのような理想をもっていますか。理想とするそれぞれの比率について、数字を記入してください（合計が 100 パーセントになるようにしてください）。

	全体（n=1129）	男性（n=482）	女性（n=647）
仕　　事	38.7	43.0	35.5
家庭生活	38.8	33.4	42.9
自分自身のための活動	22.5	23.7	21.5

※表中のそれぞれの数値は、回答者の平均値



【全体】

「仕事」と「家庭生活」の理想とする割合がほぼ同じで、「趣味など自分自身のための活動」の理想とする割合がおよそ 16 ポイント低くなっている。

【性別】

男性では「仕事」の理想とする割合が、「家庭生活」の理想とする割合より 9.6 ポイント高くなっている。

これに対して、女性では「家庭生活」の理想とする割合が、「仕事」の理想とする割合より 7.4 ポイント高くなっている。

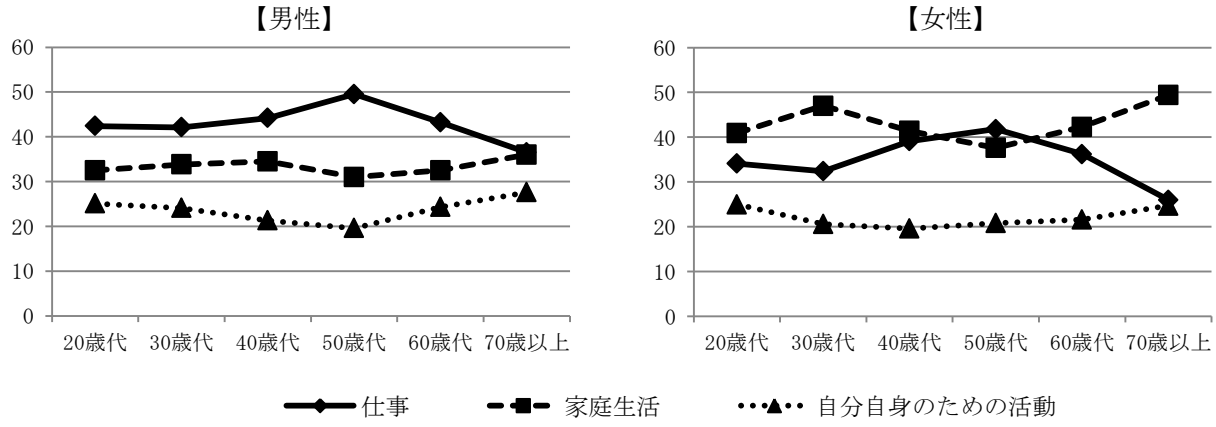
また、「趣味など自分自身のための活動」の理想とする割合で見ると、男性は女性より 2.2 ポイント高くなっている。

性別・年齢別

【男性】	20 歳代(n=34)	30 歳代(n=52)	40 歳代(n=65)	50 歳代(n=101)	60 歳代(n=123)	70 歳以上(n=107)
仕　　事	42.4	42.1	44.2	49.5	43.2	36.5
家庭生活	32.5	33.8	34.5	31.0	32.5	36.0
自分自身のための活動	25.1	24.1	21.3	19.6	24.3	27.6

【女性】	20 歳代(n=39)	30 歳代(n=101)	40 歳代(n=126)	50 歳代(n=127)	60 歳代(n=155)	70 歳以上(n=99)
仕　　事	34.1	32.4	39.1	41.8	36.2	26.0
家庭生活	40.9	47.0	41.4	37.6	42.3	49.4
自分自身のための活動	25.0	20.6	19.6	20.8	21.6	24.7

※表中のそれぞれの数値は、回答者の平均値



【年齢別・男性】

「仕事」の理想とする割合が最も高いのは 50 歳代で 49.5、次いで 40 歳代(44.2)、60 歳代(43.2)の順となっている。

そして、「家庭生活」の理想とする割合が最も高いのは 70 歳以上で 36.0、次いで 40 歳代(34.5)、30 歳代（33.8）の順となっている。

また、「趣味など自分自身のための活動」の理想とする割合が最も高いのは 70 歳以上で 27.6、これに対して最も低いのは 50 歳代で 19.6 となっている。

【年齢別・女性】

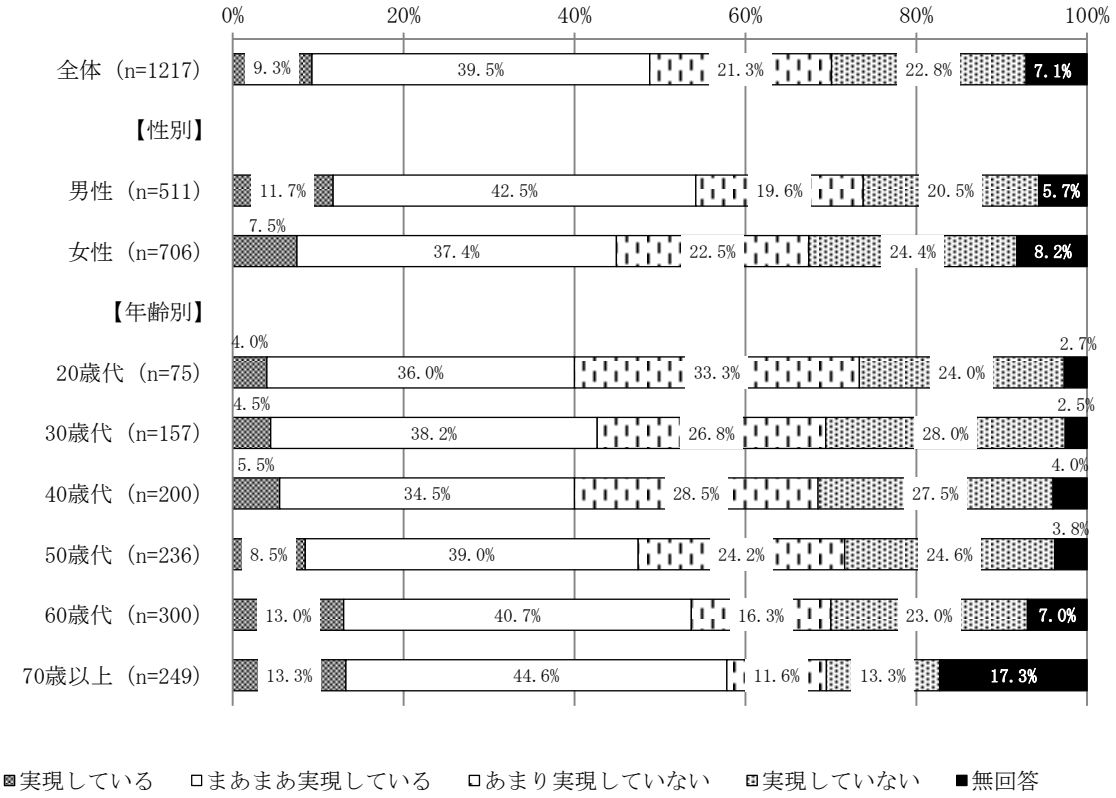
「仕事」の理想とする割合が最も高いのは 50 歳代で 41.8、次いで 40 歳代(39.1)、60 歳代(36.2)の順で、男性と同じ傾向となっている。

そして、「家庭生活」の理想とする割合が最も高いのは 70 歳以上で 49.4、次いで 30 歳代(47.0)、60 歳代（42.3）の順となっている。

また、「趣味など自分自身のための活動」の理想とする割合が最も高いのは 20 歳代で 25.0、これに対して最も低いのは 40 歳代で 19.6 となっている。

（2）「仕事」「家庭」「自分自身のための活動」のバランスの実現度 [問 17(2)]

問 17（1）で答えたバランスは実現していますか。１つ選んで番号に○をつけてください。



【全体・性別】

全体では「まあまあ実現している」とする割合が最も高く 39.5%で、「実現している」と合わせた割合は 48.8%となっている。

また、男性は「実現している」「まあまあ実現している」を合わせた割合が、女性より 9.3 ポイント高くなっている。それに対して、女性は「実現していない」「あまり実現していない」を合わせた割合が、男性より 6.8 ポイント高くなっている。

【年齢別】

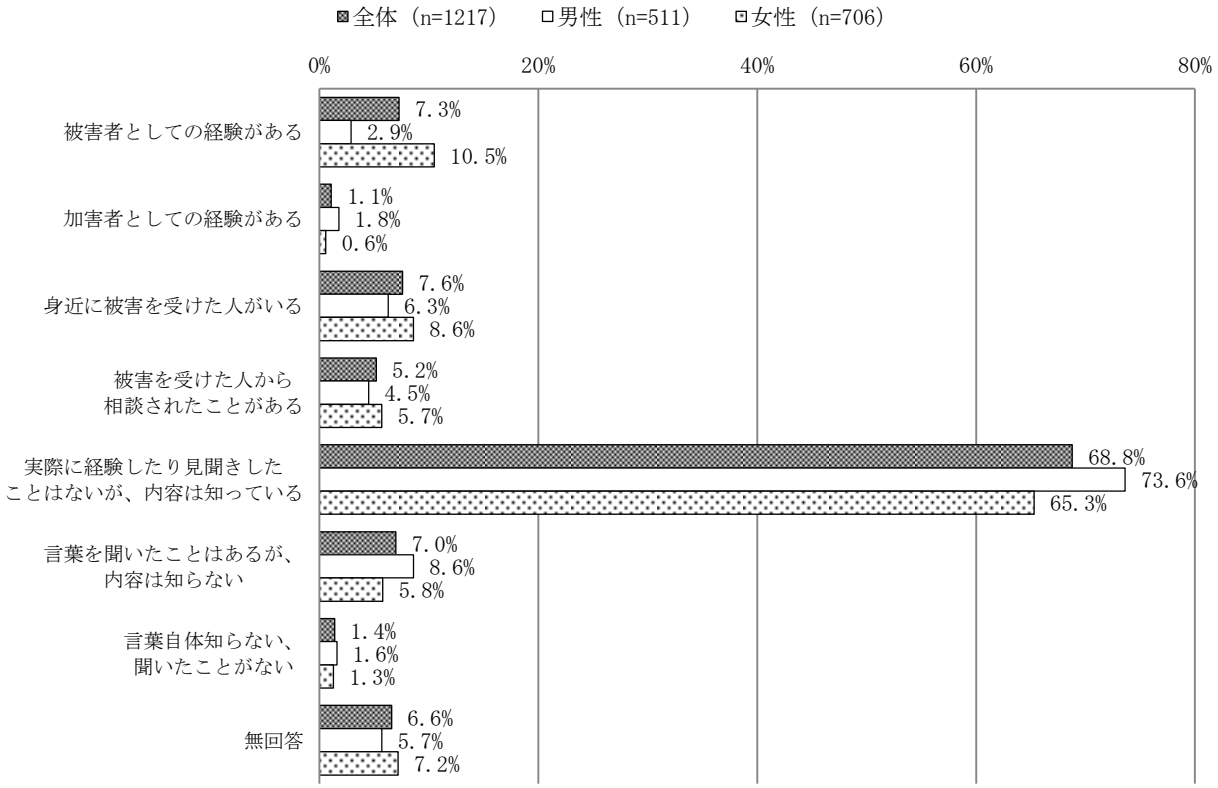
「実現している」「まあまあ実現している」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 57.9%、次いで 60 歳代（53.7%）、50 歳代（47.5%）の順となっている。

それに対して、「実現していない」「あまり実現していない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 57.3%、次いで 40 歳代（56.0%）、30 歳代（54.8%）の順となっている。

Ⅶ　ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて

（1）ドメスティック・バイオレンスの経験・認知 [問 18]

あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV、配偶者やパートナーなどからの精神的・身体的暴力）について、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



【全体】

「実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている」とする割合が 68.8%で最も高くなっている。

【性別】

「実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている」とする割合が男性、女性共に最も高く、それぞれ 73.6%、65.3%となっている。

また、「被害者としての経験がある」とする割合は男性で 2.9%、女性で 10.5%、「加害者としての経験がある」とする割合は男性で 1.8%、女性で 0.6%となっている。

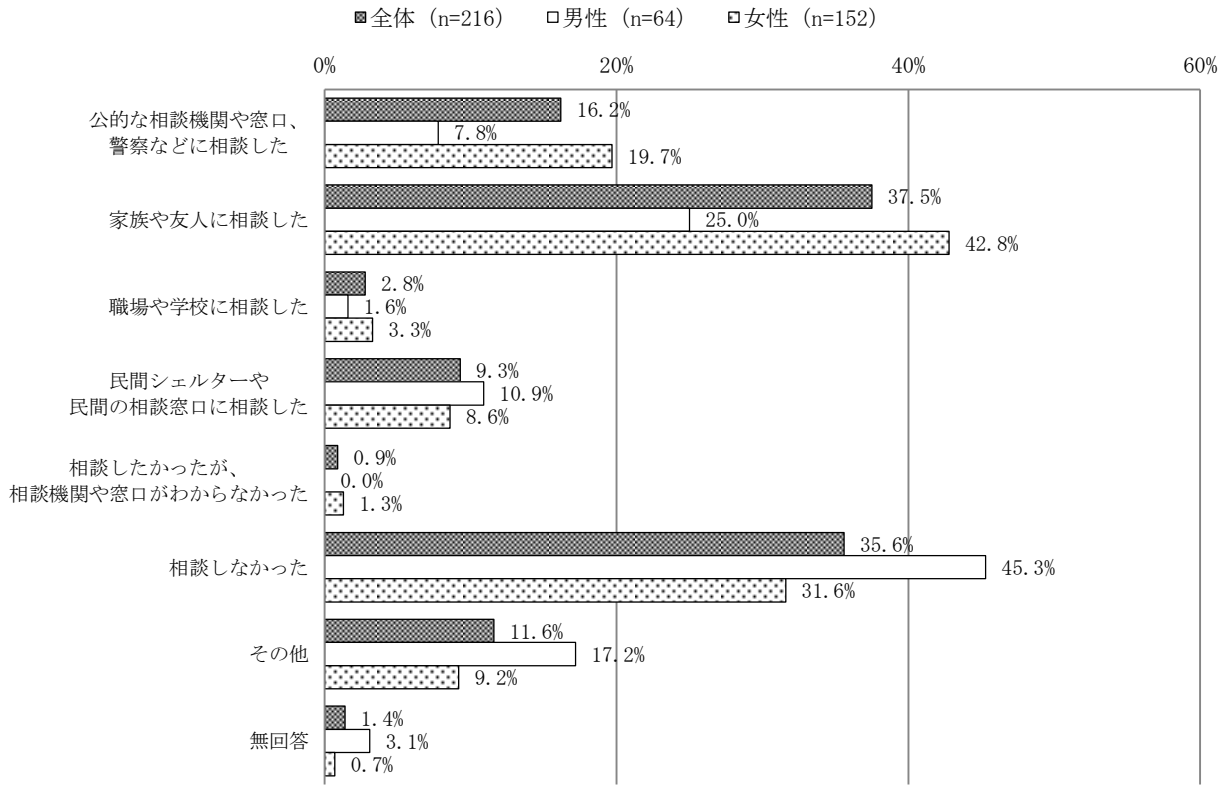
「身近に被害を受けた人がいる」「被害を受けた人から相談されたことがある」とする割合は、いずれも男性より女性の方が高くなっている。

【前回調査との比較】

「被害者としての経験がある」とする割合は、前回調査では全体（7.0%）、男性（3.0%）、女性（10.4%）でいずれも今回とほぼ同じ割合となっている。

（2）ドメスティック・バイオレンスに対する相談先 [問 19]

問 18 で１～４のいずれかに○がついた方にお聞きします。あなたは、そのことについて誰かに相談しましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



【全体】

「家族や友人に相談した」とする割合が 37.5%で最も高く、次いで「相談しなかった」(35.6%)、「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」（16.2%）の順となっている。

【性別】

男性では「相談しなかった」とする割合が 45.3%で最も高く、次いで「家族や友人に相談した」(25.0%）となっている。

それに対して、女性では「家族や友人に相談した」とする割合が 42.8%で最も高く、次いで「相談しなかった」(31.6%)、「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」（19.7%）の順となっている。

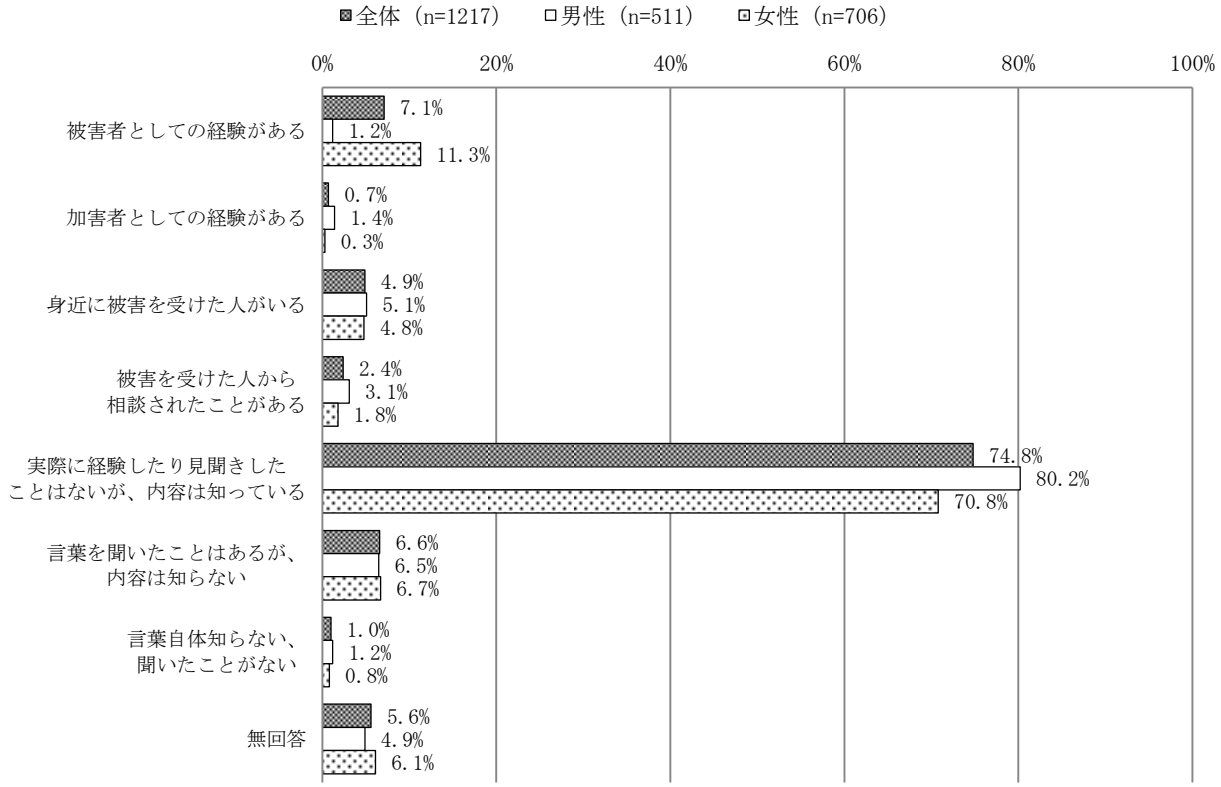
【前回調査との比較】

前回調査と比べて、男性では「家族や友人に相談した」「相談しなかった」とする割合が、それぞれ 6.8 ポイント、7.6 ポイント増加している。それに対して、女性では「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」とする割合が 9.1 ポイント増加し、「相談しなかった」とする割合が 8.4 ポイント減少している。

また、「相談したかったが、相談機関や窓口がわからなかった」とする割合が、全体で 6.7 ポイント、男性で 10.4 ポイント、女性で 5.0 ポイント、それぞれ減少している。

（3）セクシャル・ハラスメントの経験・認知 [問 20]

あなたは、セクシャル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）について、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



【全体】

「実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている」とする割合が 74.8%で最も高くなっている。

【性別】

「実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている」とする割合が男性、女性共に最も高く、それぞれ 80.2%、70.8%となっている。

また、「被害者としての経験がある」とする割合は男性で 1.2%、女性で 11.3%、「加害者としての経験がある」とする割合は男性で 1.4%、女性で 0.3%となっている。

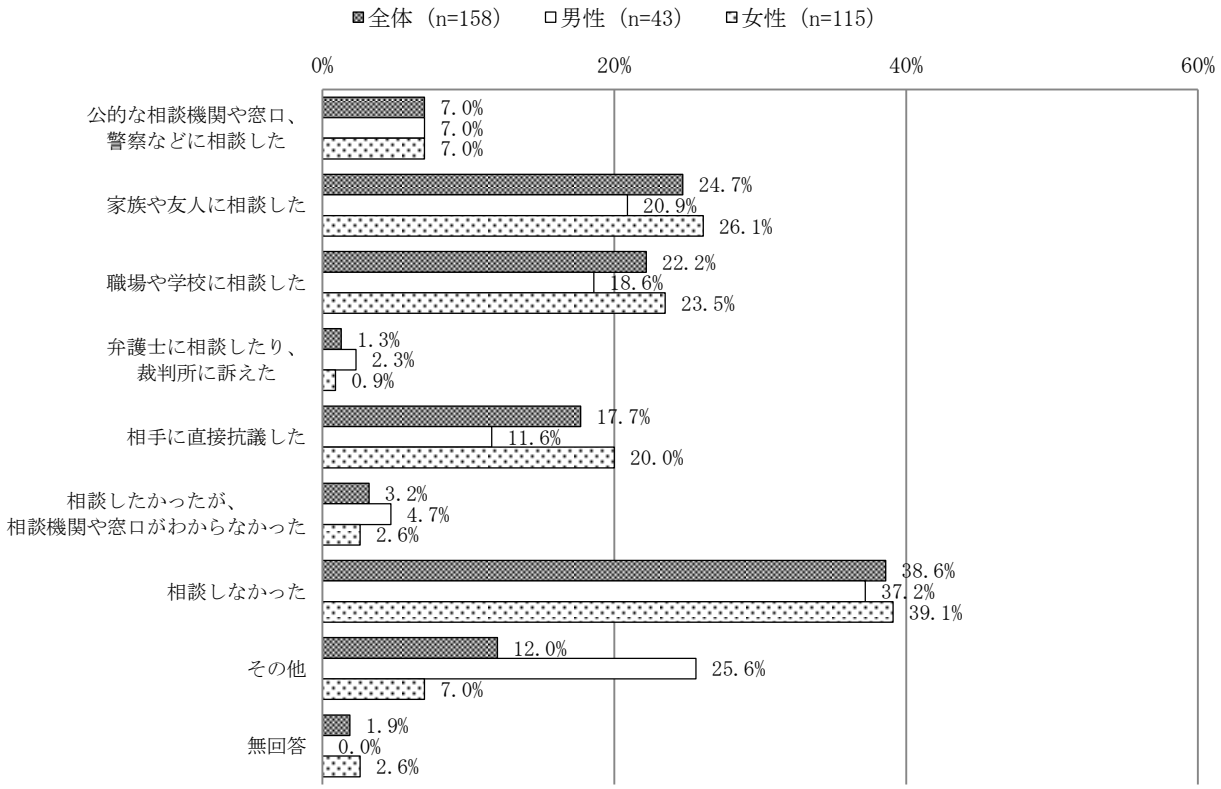
「身近に被害を受けた人がいる」「被害を受けた人から相談されたことがある」とする割合は、いずれも女性より男性の方が高くなっている。

【前回調査との比較】

「被害者としての経験がある」とする割合は、前回調査では全体（7.2%）、男性（1.2%）、女性（12.5%）でいずれも今回とあまり差は見られない。

（4）セクシャル・ハラスメントに対する対応 [問 21]

問 20 で１～４のいずれかに○がついた方にお聞きします。あなたは、その後どのような対応をしましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



【全体】

「相談しなかった」とする割合が 38.6％で最も高く、次いで「家族や友人に相談した」（24.7％）、「職場や学校に相談した」（22.2％）の順となっている。

【性別】

男性では「相談しなかった」とする割合が 37.2％で最も高く、次いで「その他」（25.6％）、「家族や友人に相談した」（20.9％）、「職場や学校に相談した」（18.6％）の順となっている。

また、女性では「相談しなかった」とする割合が 39.1％で最も高く、次いで「家族や友人に相談した」（26.1％）、「職場や学校に相談した」（23.5％）の順となっている。

【前回調査との比較】

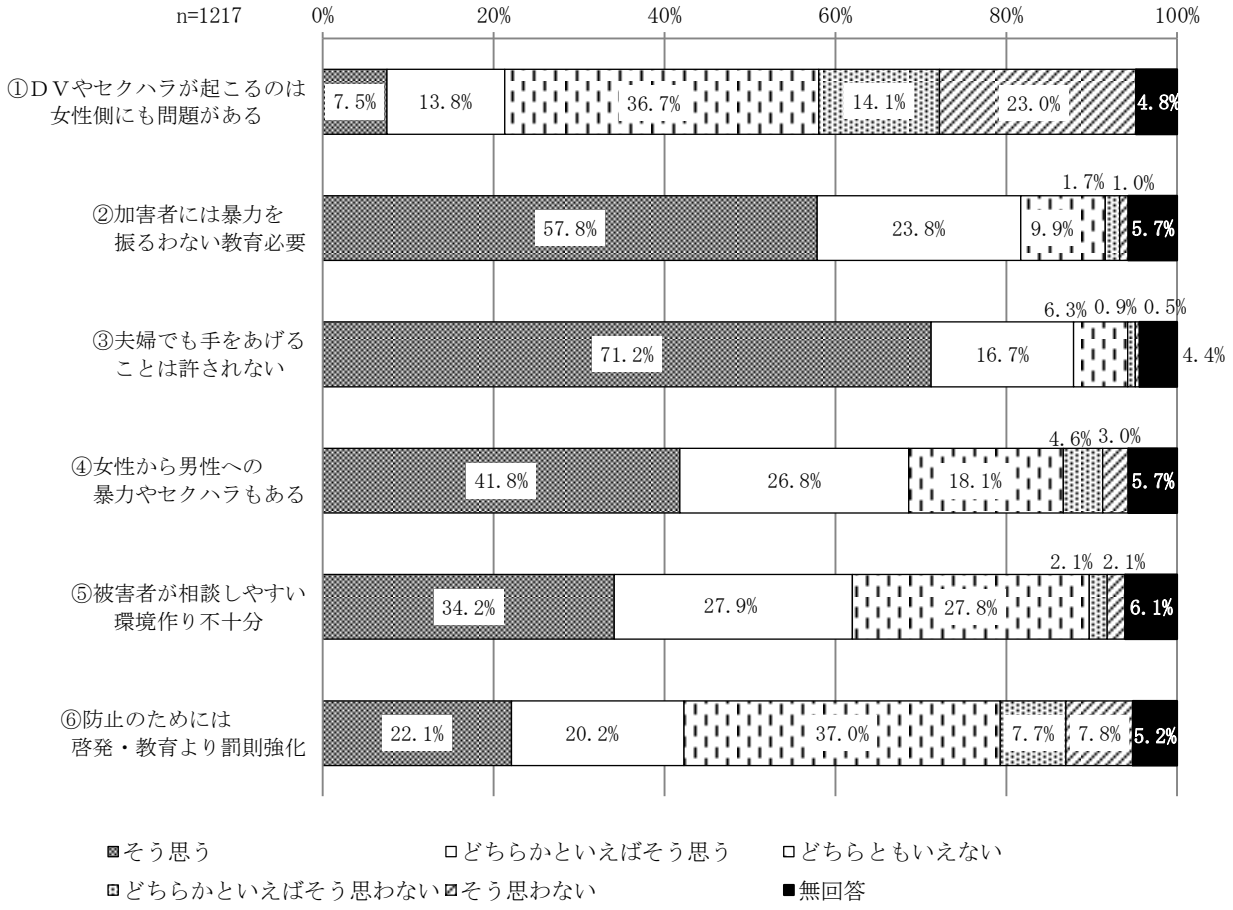
前回調査と比べて「相談しなかった」とする割合が全体で 12.3 ポイント、男性で 15.7 ポイント、女性で 10.3 ポイント、それぞれ増加している。

また、男性では「職場や学校に相談した」とする割合が 13.7 ポイント減少し、女性では「家族や友人に相談した」とする割合が 8.3 ポイント減少している。

「相手に直接抗議した」とする割合は、全体で 5.5 ポイント、男性で 3.8 ポイント、女性で 7.2 ポイント、それぞれ減少している。

（5）ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントに対する考え方 [問 22]

あなたは、DV やセクハラなどに対する①～⑥のような考え方について、どのように思われますか。それぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んで番号に○をつけてください。

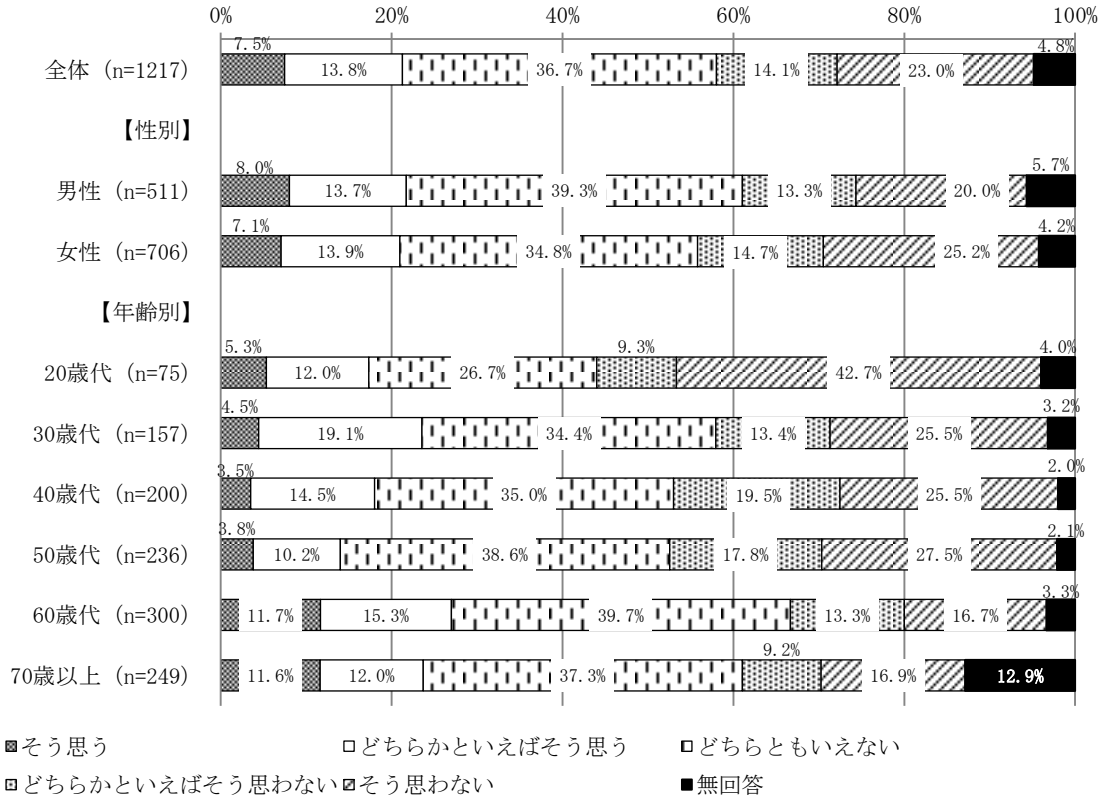


【全体】

ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントに対する考え方について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、「夫婦でも手をあげることは許されない」が 87.9%と最も高く、次いで「加害者には暴力を振るわない教育必要」（81.6%）、「女性から男性への暴力やセクハラもある」（68.6%）、「被害者が相談しやすい環境作り不十分」（62.1%）の順となっている。

また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合を見ると、「ＤＶやセクハラが起こるのは女性側にも問題がある」が 37.1%と最も高く、次いで「防止のためには啓発・教育より罰則強化」（15.5%）となっている。

①ＤＶやセクハラなどが起こるのは、女性の側にも問題がある



【全体・性別】

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体（37.1%）、男性（33.3%）、女性（39.9%）となっており、男性より女性の方が 6.6 ポイント高くなっている。

【年齢別】

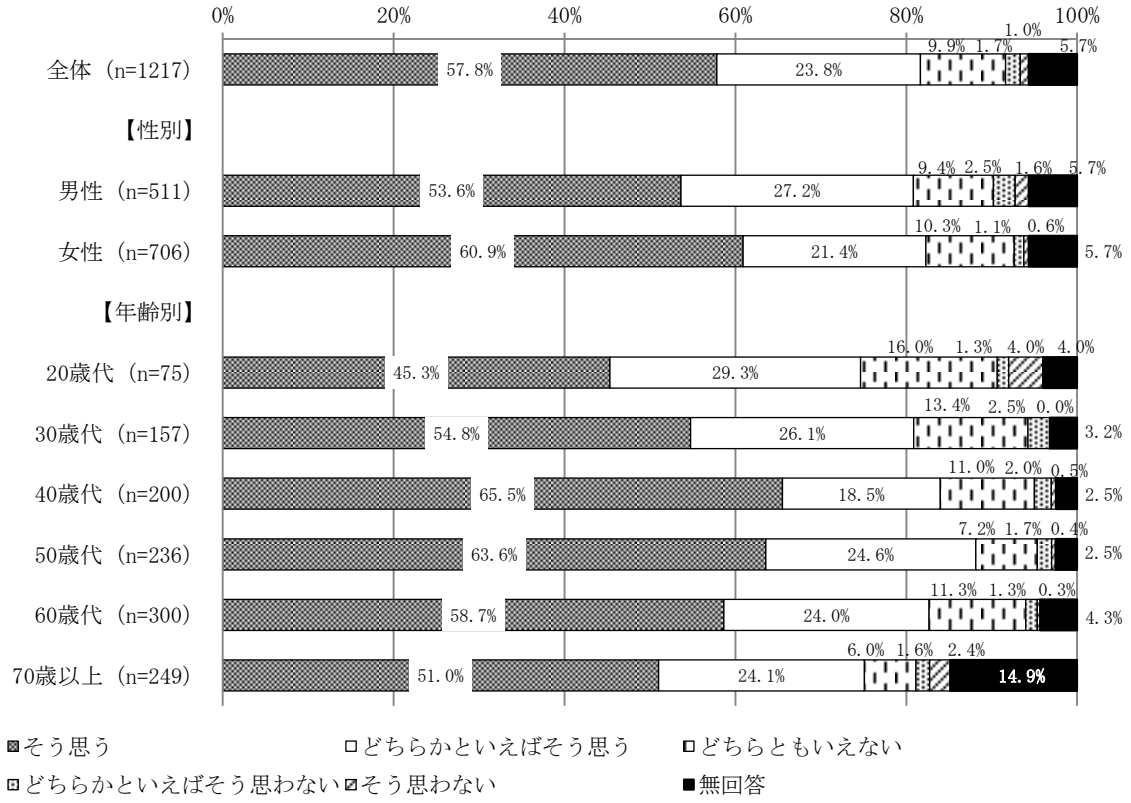
「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 52.0%、次いで 50 歳代（45.3%）、40 歳代（45.0%）の順となっている。

それに対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 60 歳代で 27.0%、次いで 30 歳代と 70 歳以上がいずれも 23.6%となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が、全体で 8.9 ポイント、男性で 7.5 ポイント、女性で 9.8 ポイント、それぞれ増加している。

②加害者には暴力を振るわないようにするための教育が必要



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(81.6%)、男性(80.8%)、女性（82.3%）となっている。

【年齢別】

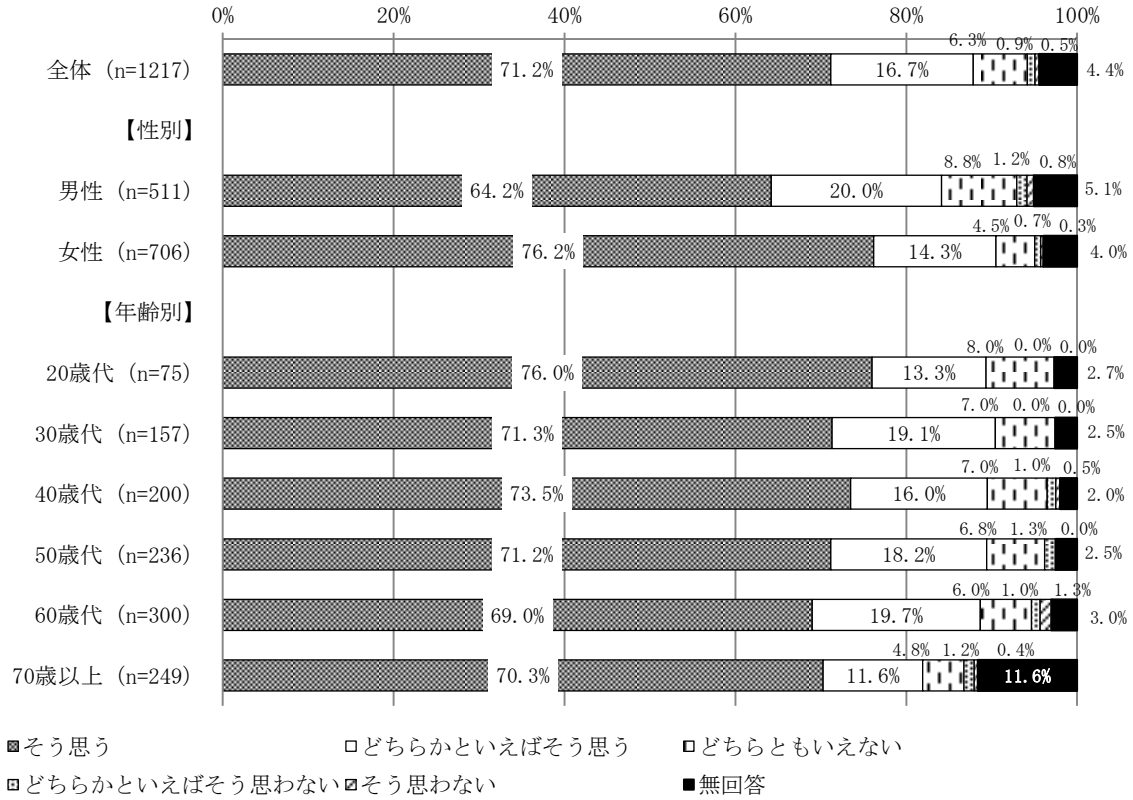
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは50歳代で88.2%、次いで40歳代（84.0%）、60歳代（82.7%）、30歳代（80.9%）の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは20歳代で5.3%となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で7.2ポイント、男性で7.9ポイント、女性で6.2ポイント、それぞれ増加している。

③たとえ夫婦であっても、手をあげることは許されない



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(87.9%)、男性(84.2%)、女性（90.5%）となっている。

また、「そう思う」とする割合では、男性より女性の方が 12.0 ポイント高くなっている。

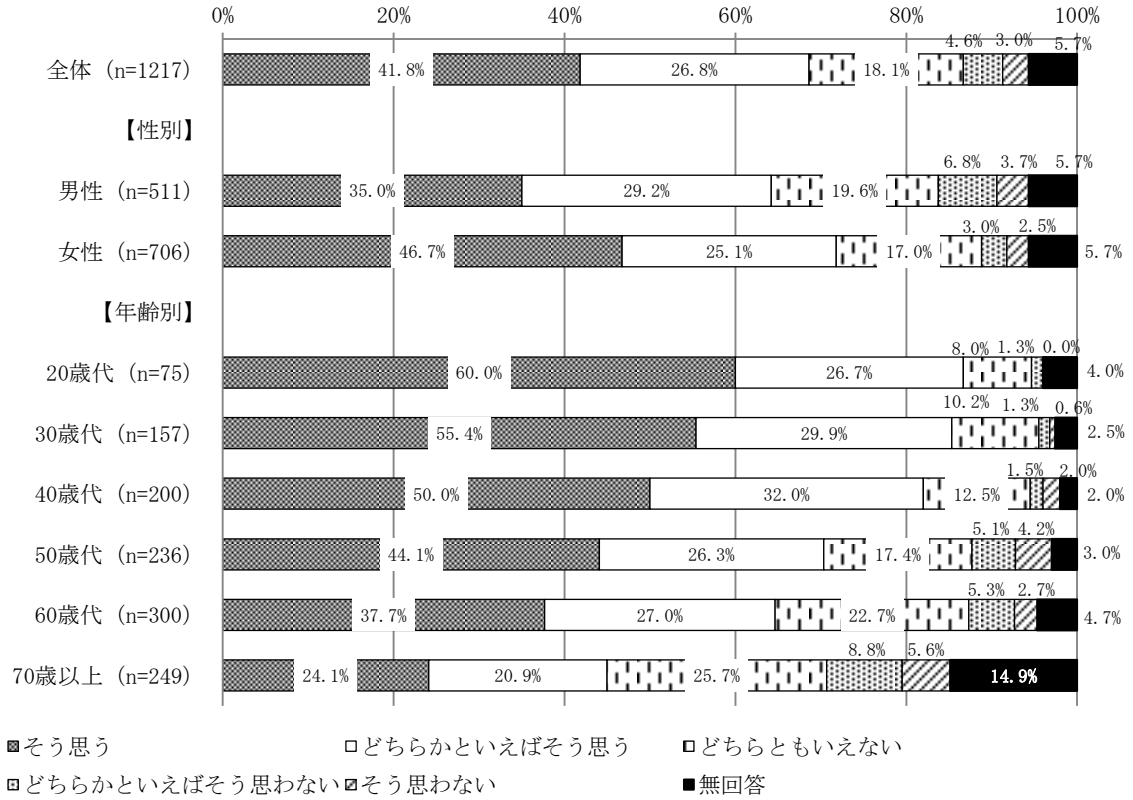
【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 30 歳代で 90.4%で、その他でも世代を問わず 80%と高い割合となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 4.6 ポイント、男性で 4.3 ポイント、女性で 4.1 ポイント、それぞれ増加している。

④女性から男性への暴力やセクハラもある



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(68.6%)、男性(64.2%)、女性（71.8%）となっている。

また、「そう思う」とする割合では、男性より女性の方が 11.7 ポイント高くなっている。

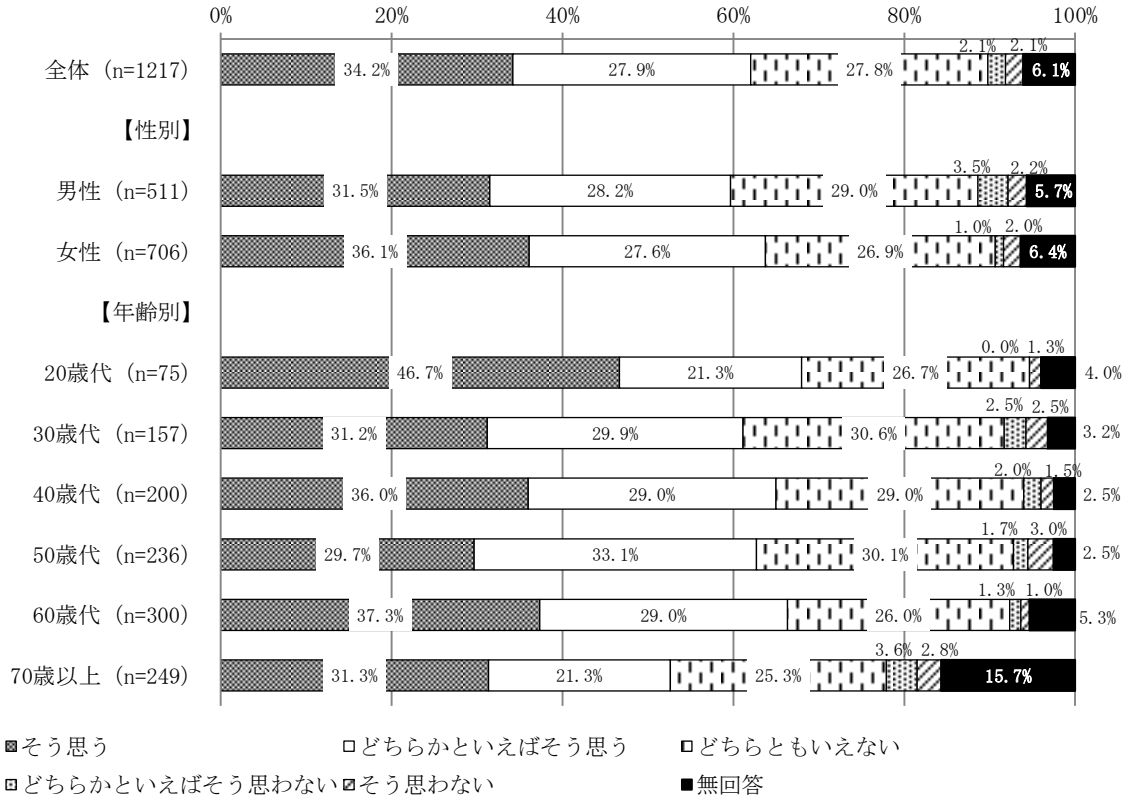
【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 86.7%、次いで 30 歳代（85.3%）、40 歳代（82.0%）の順となっており、年代が上がるにつれて割合は低くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、男性では 1.8 ポイント増加とほとんど差はないが、女性では 10.8 ポイント増加している。

⑤相談窓口など、被害者が相談しやすい環境作りが不十分



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(62.1%)、男性(59.7%)、女性（63.7%）となっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは20歳代で68.0%で、30歳代から60歳代まではいずれも60%を越えている。

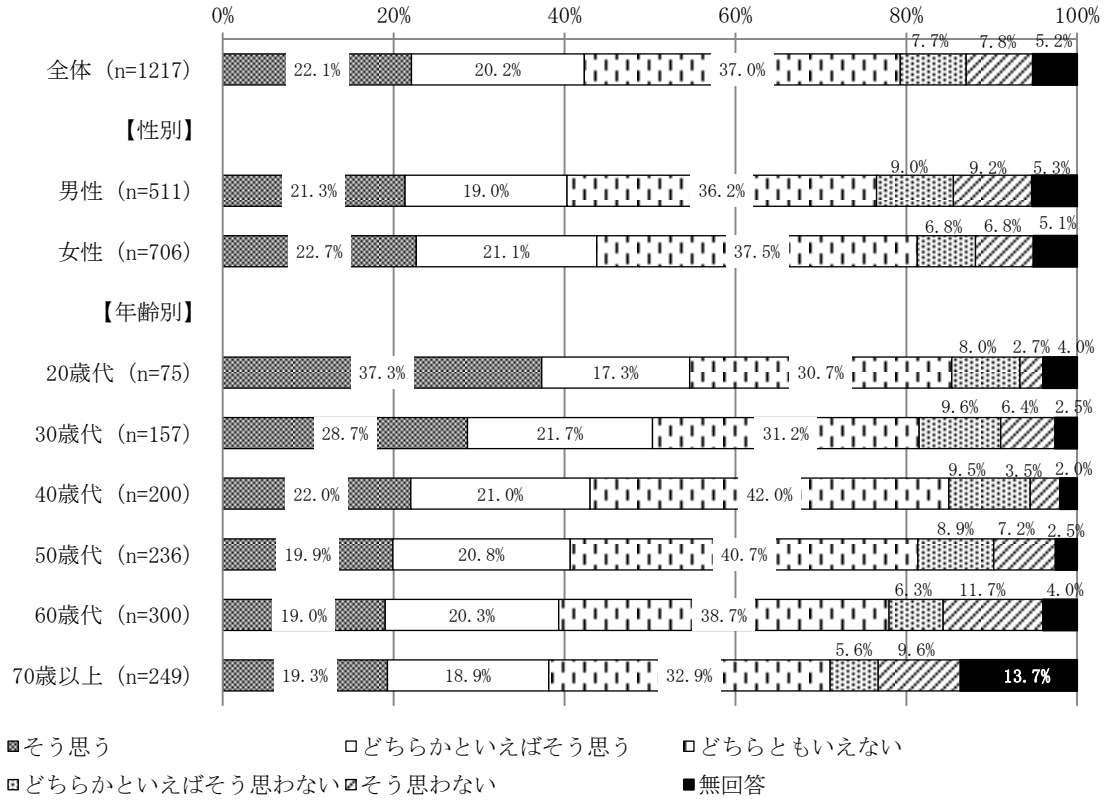
また、「そう思う」とする割合に限って見ても、20歳代が46.7%と最も高くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で5.5ポイント、男性で5.2ポイント、女性で6.3ポイント、それぞれ減少している。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は全体で0.6ポイント、男性で1.3ポイント、女性で0.2ポイントと、それぞれわずかな増加となっている。

⑥防止のためには啓発や教育よりも罰則強化に重点をおくべき



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(42.3%)、男性(40.3%)、女性（43.8%）となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体（15.5%)、男性（18.2%)、女性（13.6%）となっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは20歳代で54.6%、次いで30歳代（50.4%)、40歳代（43.0%）の順となっており、年代が上がるにつれて割合は低くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは60歳代で18.0%、次いで50歳代（16.1%)、30歳代（16.0%）の順となっている。

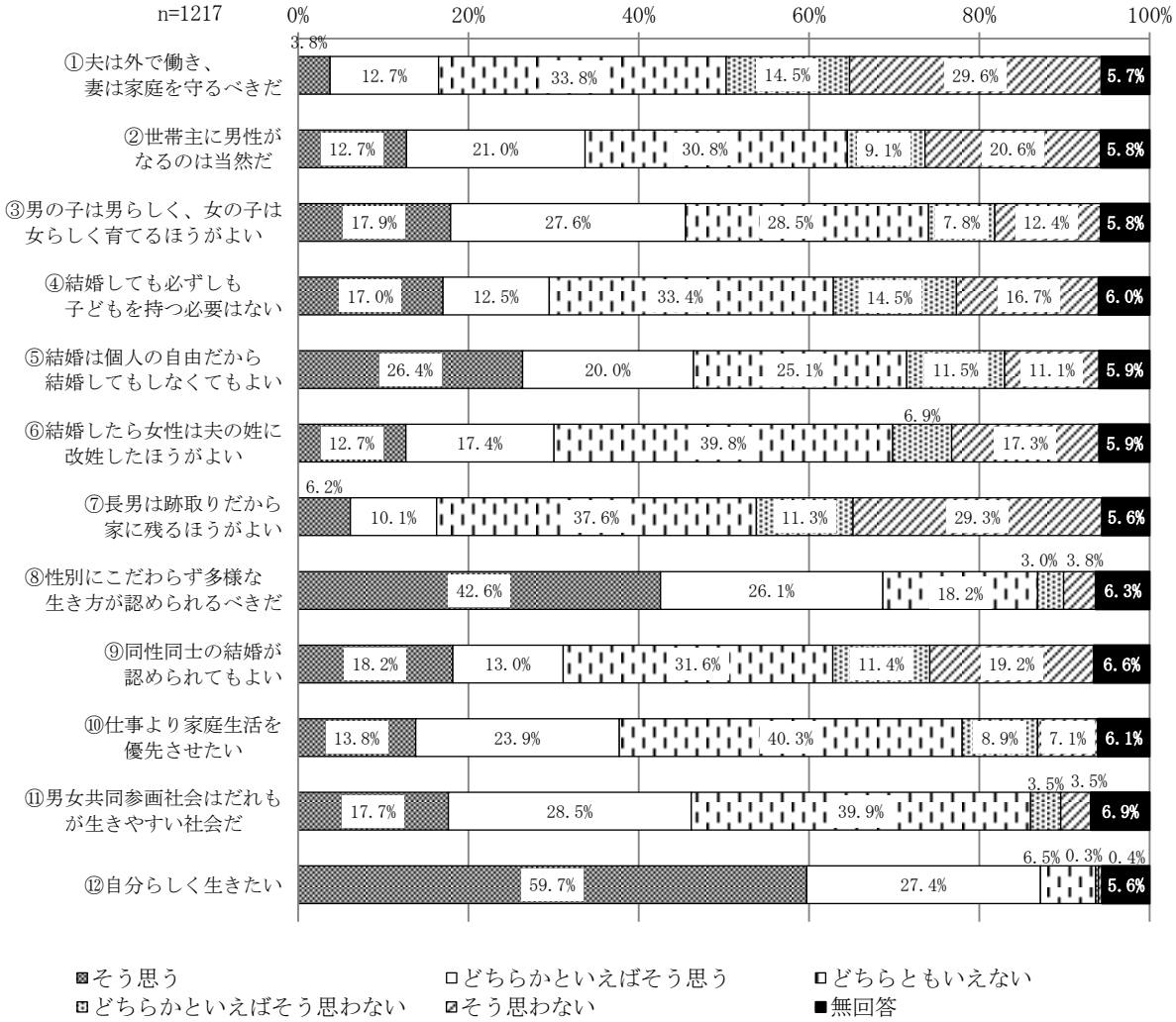
【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は全体で0.5ポイント、男性で1.0ポイント、女性で0.3ポイント、それぞれ減少で、ほとんど差は見られない。

Ⅷ　男女共同参画に関する意識や考え方について

（1）男女のあり方についての考え方 [問 23]

あなたは、次の①～⑫のような考えや思いについて、どのように思われますか。それぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んで番号に○をつけてください。



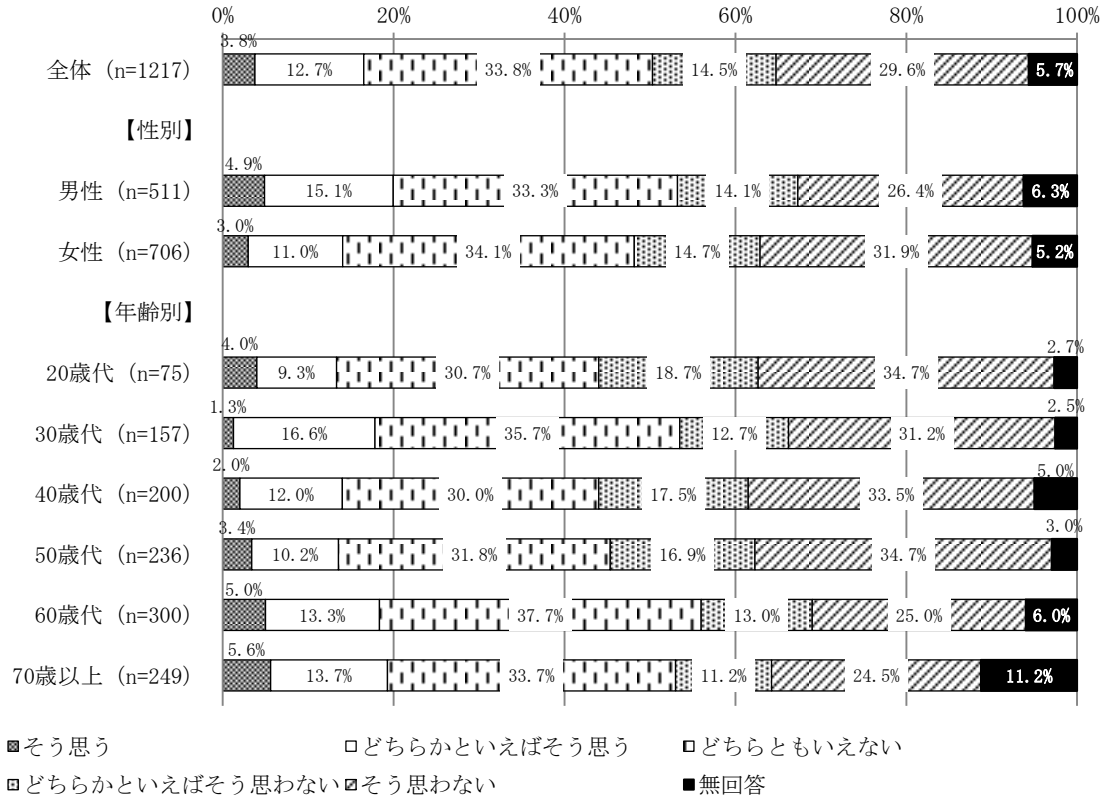
【全体】

男女のあり方についての考え方について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、「自分らしく生きたい」が 87.1％で最も高く、次いで「性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ」(68.7％)、「結婚は個人の自由だから結婚してもしなくてもよい」(46.4％)、「男女共同参画社会はだれもが生きやすい社会だ」（46.2％）の順となっている。

また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合を見ると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」が 44.1％で最も高く、次いで「長男は跡取りだから家に残るほうがよい」（40.6％）、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」（31.2％）の順となっている。

そして、「同性同士の結婚が認められてもよい」について見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合（31.2％）と「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合（30.6％）がほぼ同じとなっている。

①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ



【全体・性別】

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体（44.1%）、男性（40.5%）、女性（46.6%）となっており、男性より女性の方が 6.1 ポイント高くなっている。

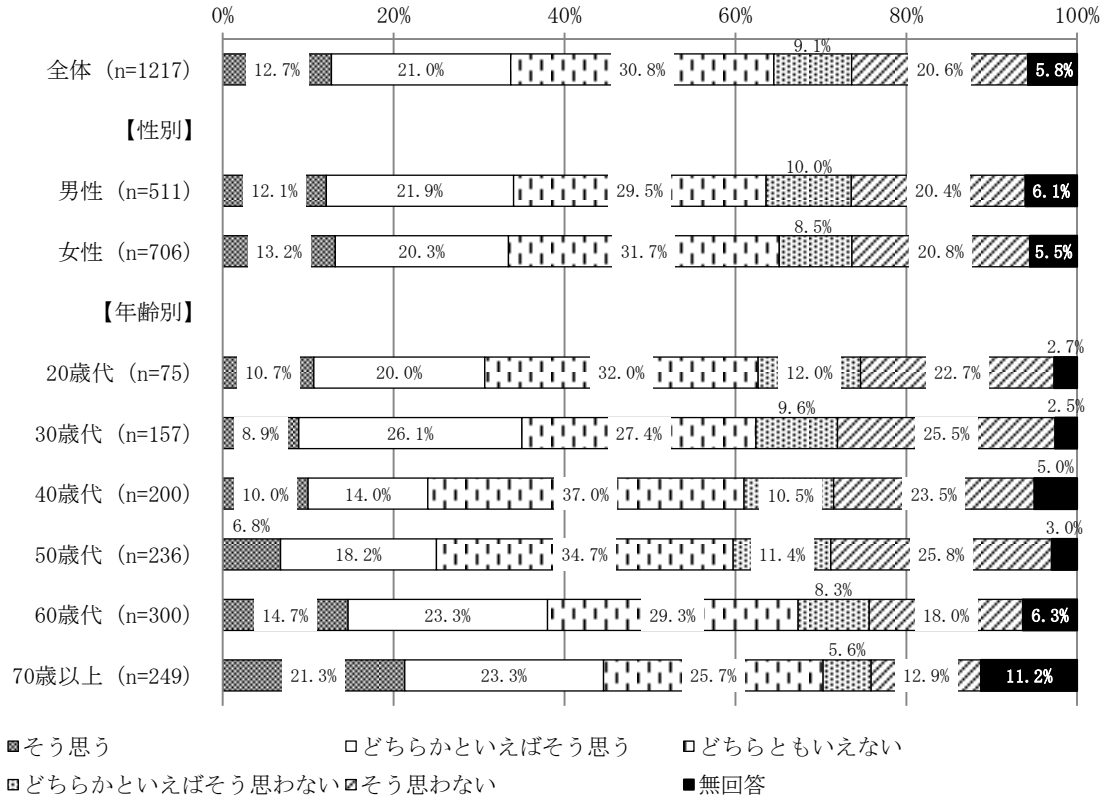
【年齢別】

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 53.4%、次いで 50 歳代（51.6%）、40 歳代（51.0%）の順となっており、年代を問わず「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が全体で 7.5 ポイント、男性で 7.6 ポイント、女性で 6.6 ポイント、それぞれ増加している。

②世帯主に男性がなるのは当然だ



【全体・性別】

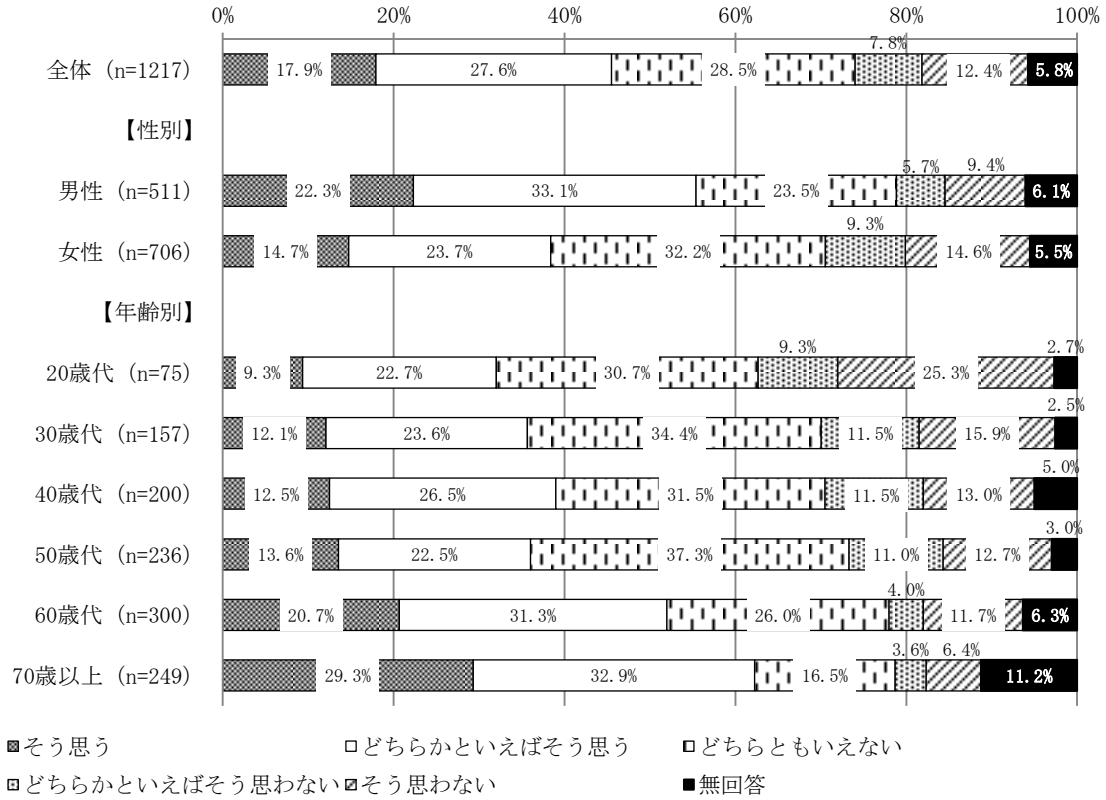
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合よりも全体で 4.0 ポイント、男性で 3.6 ポイント、女性で 4.2 ポイント、それぞれ高くなっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 44.6%、次いで 60 歳代（38.0%）、30 歳代（35.0%）、20 歳代（30.7%）の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 50 歳代で 37.2%、次いで 30 歳代（35.1%）、40 歳代（34.0%）の順となっている。

③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(45.5%)、男性(55.4%)、女性（38.4%）となっており、女性より男性の方が 17.0 ポイント高くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、男性より女性の方が 8.8 ポイント高くなっている。

【年齢別】

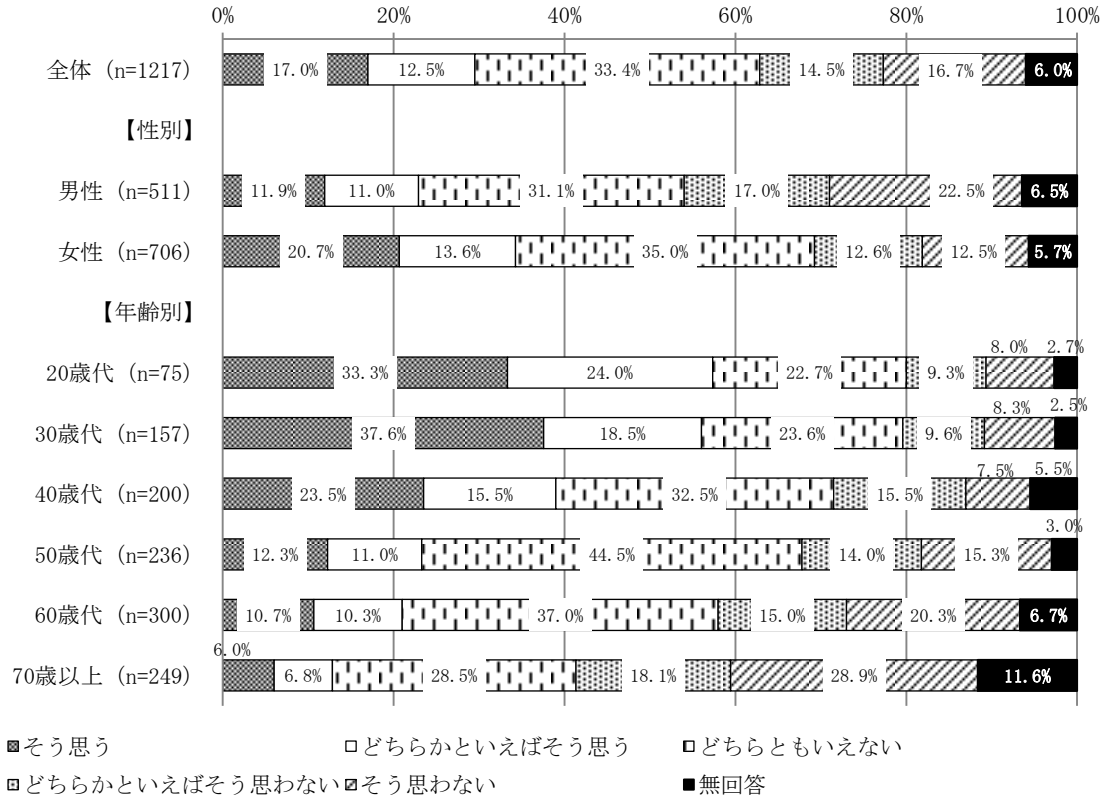
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 62.2%、次いで 60 歳代（52.0%）、40 歳代（39.0%）の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代の 34.6%で、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 14.0 ポイント、男性で 12.4 ポイント、女性で 13.9 ポイント、それぞれ減少している。

④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(29.5%)、男性(22.9%)、女性（34.3%）となっており、男性より女性の方が 11.4 ポイント高くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体（31.2%)、男性（39.5%)、女性（25.1%）となっており、女性より男性の方が 14.4 ポイント高くなっている。

【年齢別】

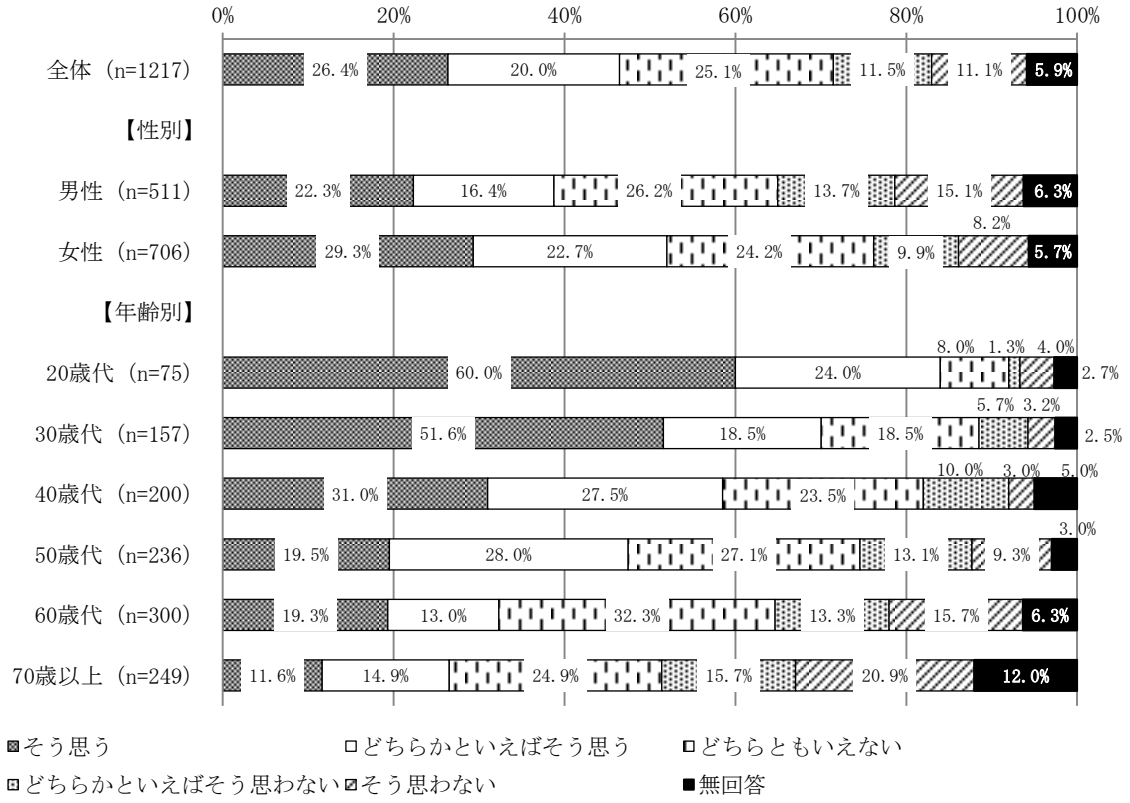
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 57.3%、次いで 30 歳代（56.1%)、40 歳代（39.0%）となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 47.0%、次いで 60 歳代（35.3%)、50 歳代（29.3%）の順となっており、年代が下がるにつれて割合が低くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 5.7 ポイント、男性で 3.0 ポイント、女性で 7.0 ポイント、それぞれ増加している。

⑤結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(46.4%)、男性(38.7%)、女性（52.0%）となっており、男性より女性の方が 13.3 ポイント高くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体（22.6%)、男性（28.8%)、女性（18.1%）となっており、女性より男性の方が 10.7 ポイント高くなっている。

【年齢別】

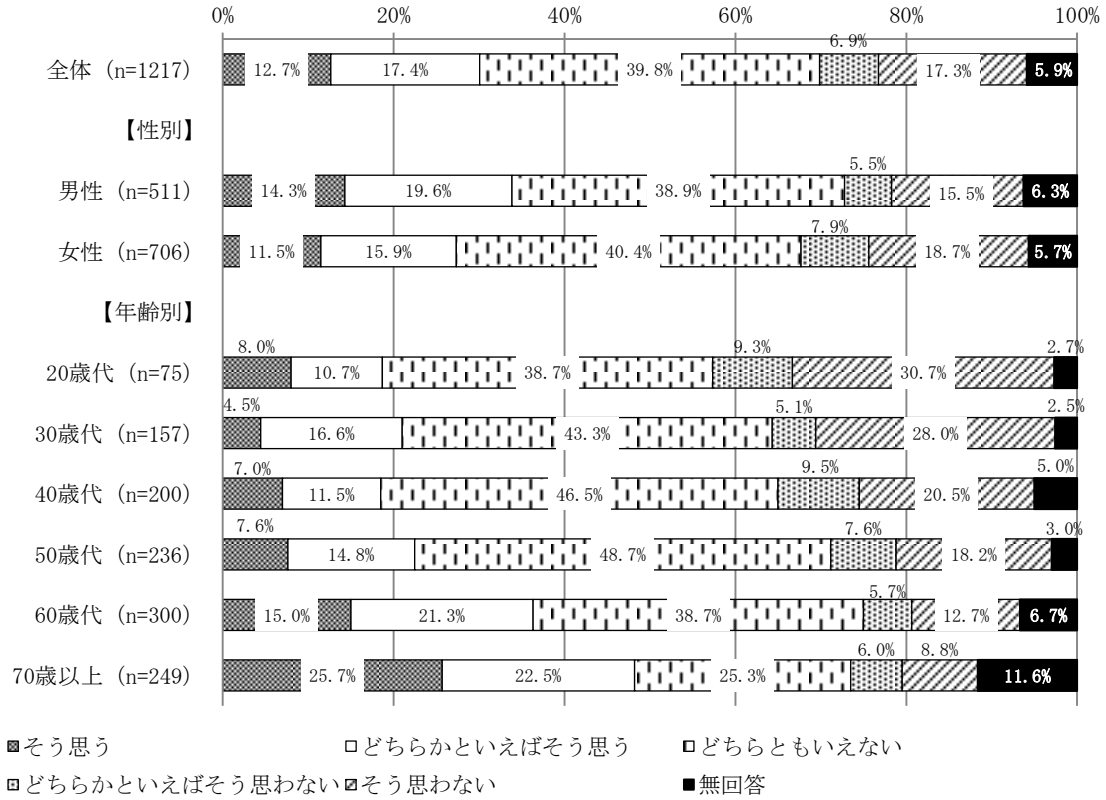
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 20 歳代で 84.0%、次いで 30 歳代（70.1%)、40 歳代（58.5%）となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 36.6%、次いで 60 歳代（29.0%)、50 歳代（22.4%）の順となっており、年代が下がるにつれて割合が低くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 2.9 ポイント、男性で 2.2 ポイント、女性で 2.1 ポイント、それぞれ増加している。

⑥結婚したら、女性は夫の姓に改姓したほうがよい



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(30.1%)、男性(33.9%)、女性（27.4%）となっており、女性より男性の方が 6.5 ポイント高くなっている。

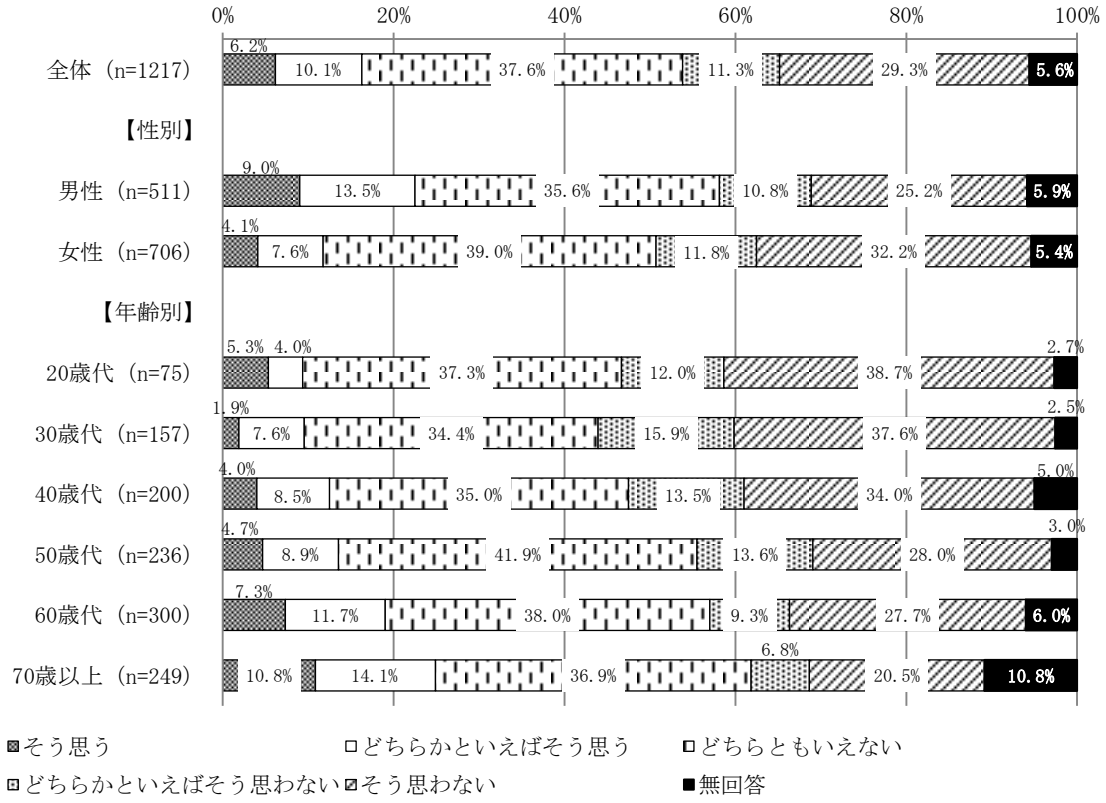
それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体（24.2%)、男性（21.0%)、女性（26.6%）となっており、男性より女性の方が 5.6 ポイント高くなっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのが 70 歳以上で 48.2%、次いで 60 歳代（36.3%)、50 歳代（22.4%）の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのが 20 歳代で 40.0%、次いで 30 歳代（33.1%)、40 歳代（30.0%）の順となっている。

⑦長男は跡取りであるから家に残るほうがよい



【全体・性別】

「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体（40.6%）、男性（36.0%）、女性（44.0%）となっており、いずれも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合よりも高くなっている。

【年齢別】

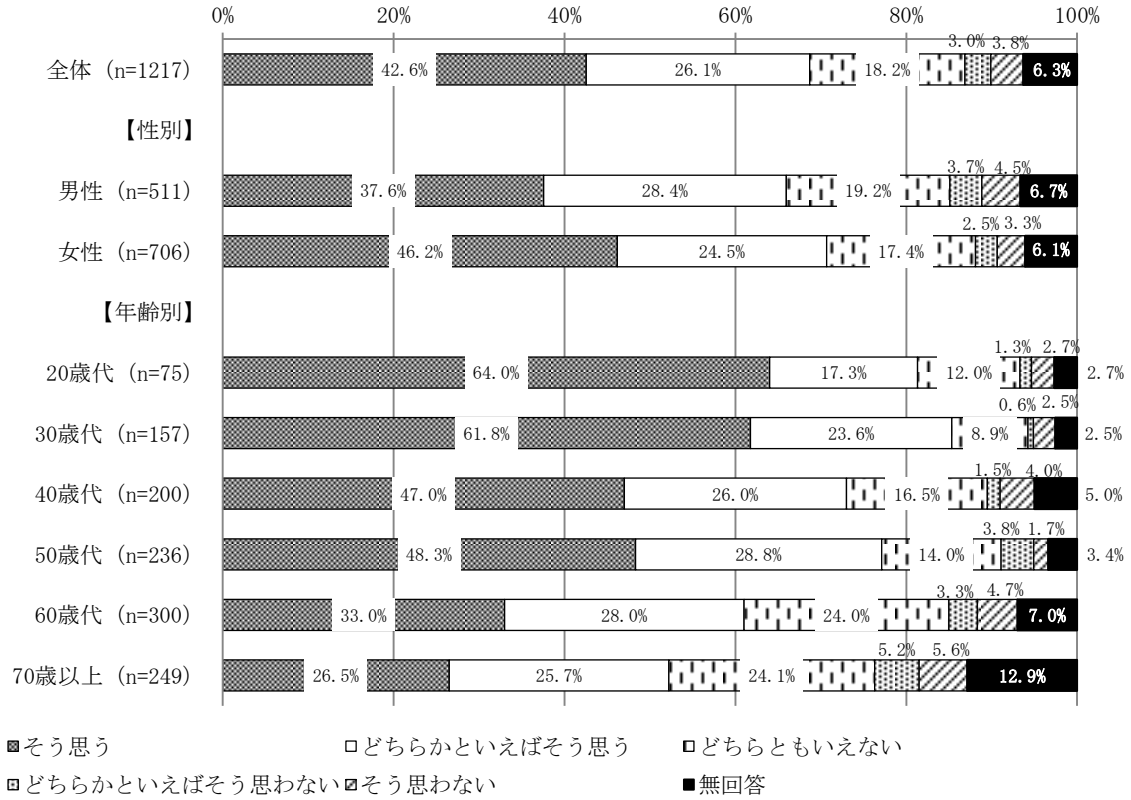
「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのが 30 歳代で 53.5%、次いで 20 歳代（50.7%）、40 歳代（47.5%）の順となっている。

それに対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのが 70 歳以上で 24.9%、次いで 60 歳代（19.0%）、50 歳代（13.6%）の順となっており、年代が下がるにつれて割合が低くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合ではほとんど差は見られず、全体で 0.7 ポイント、女性で 0.9 ポイント、それぞれ増加し、男性では 0.4 ポイント減少している。

⑧性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(68.7%)、男性(66.0%)、女性（70.7%）となっている。

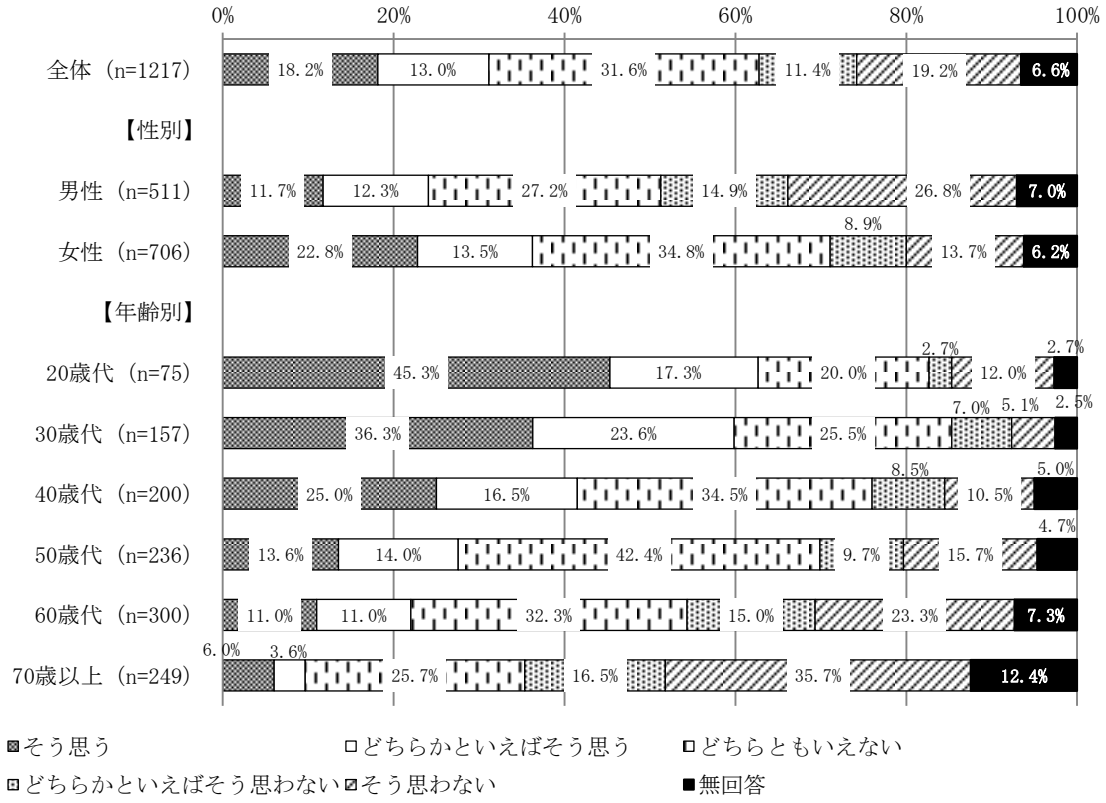
【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのが 30 歳代で 85.4%、次いで 20 歳代（81.3%）、50 歳代（77.1%）の順となっており、「そう思う」に限って見ると、20 歳代が 64.0%で最も高く、次いで 30 歳代（61.8%）となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が全体で 4.6 ポイント、男性で 4.7 ポイント、女性で 5.3 ポイント、それぞれ減少している。

⑨同性同士の結婚が認められてもよい



【全体・性別】

全体では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合（31.2%）と「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合（30.6%）がほぼ同じとなっている。

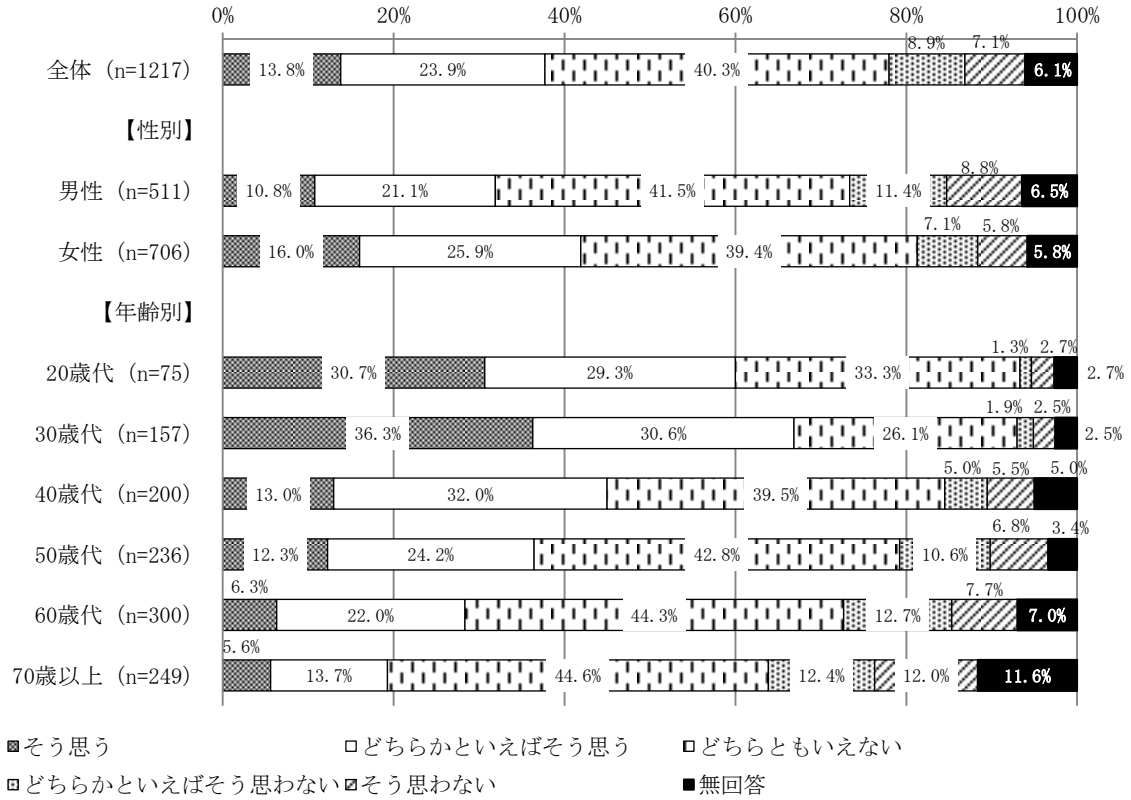
また、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、男性より女性の方が12.3ポイント高く、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、女性より男性の方が19.1ポイント高くなっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは20歳代で62.6%、次いで30歳代（59.9%）、40歳代（41.5%）の順となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは70歳以上で52.2%、次いで60歳代（38.3%）、50歳代（25.4%）の順となっている。

⑩仕事より家庭生活を優先させたい



【全体・性別】

全体では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が 37.7%で、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合よりも 21.7 ポイント高くなっている。

また、女性は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が男性より 10.0 ポイント高くなっており、それに対して男性は「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が女性より 7.3 ポイント高くなっている。

【年齢別】

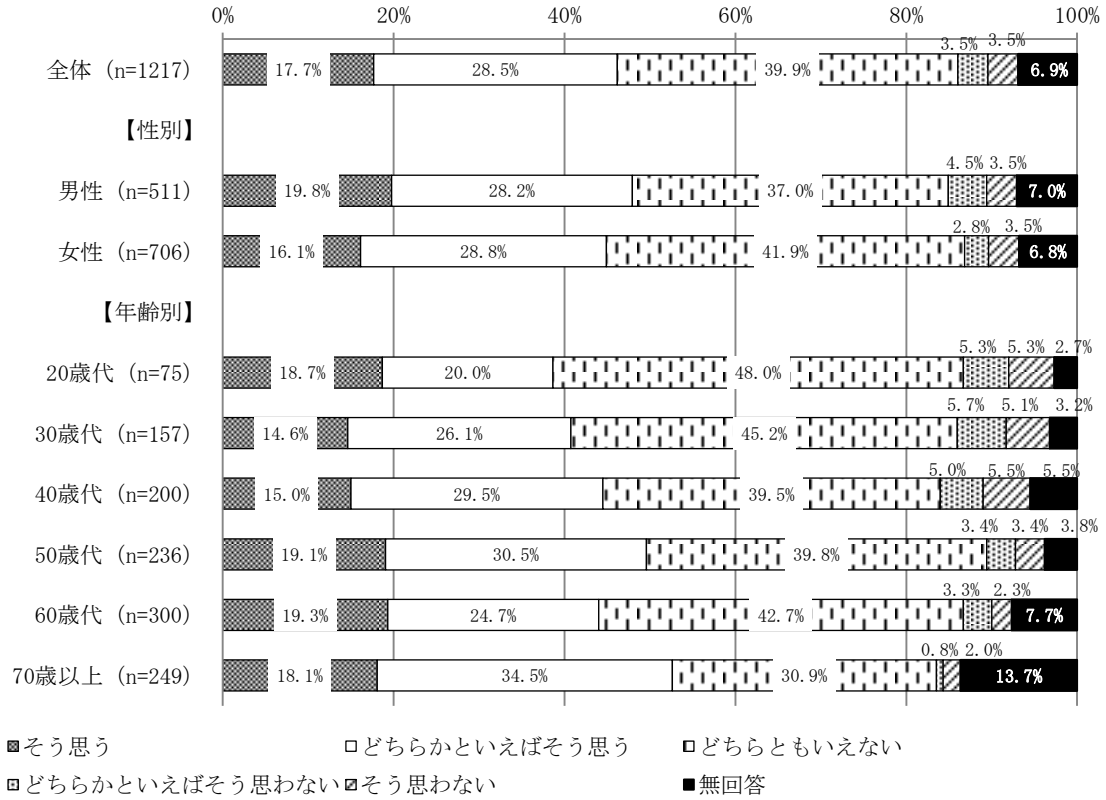
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いのは 30 歳代で 66.9%、次いで 20 歳代（60.0%）、40 歳代（45.0%）の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合が最も高いのは 70 歳以上で 24.4%、次いで 60 歳代（20.4%）、50 歳代（17.4%）の順となっており、年代が下がるにつれて割合が低くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体で 3.4 ポイント、男性で 6.8 ポイント、女性で 1.8 ポイント、それぞれ減少している。

⑪男女共同参画社会は、だれもが生きやすい社会だ



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(46.2%)、男性(48.0%)、女性（44.9%）となっている。

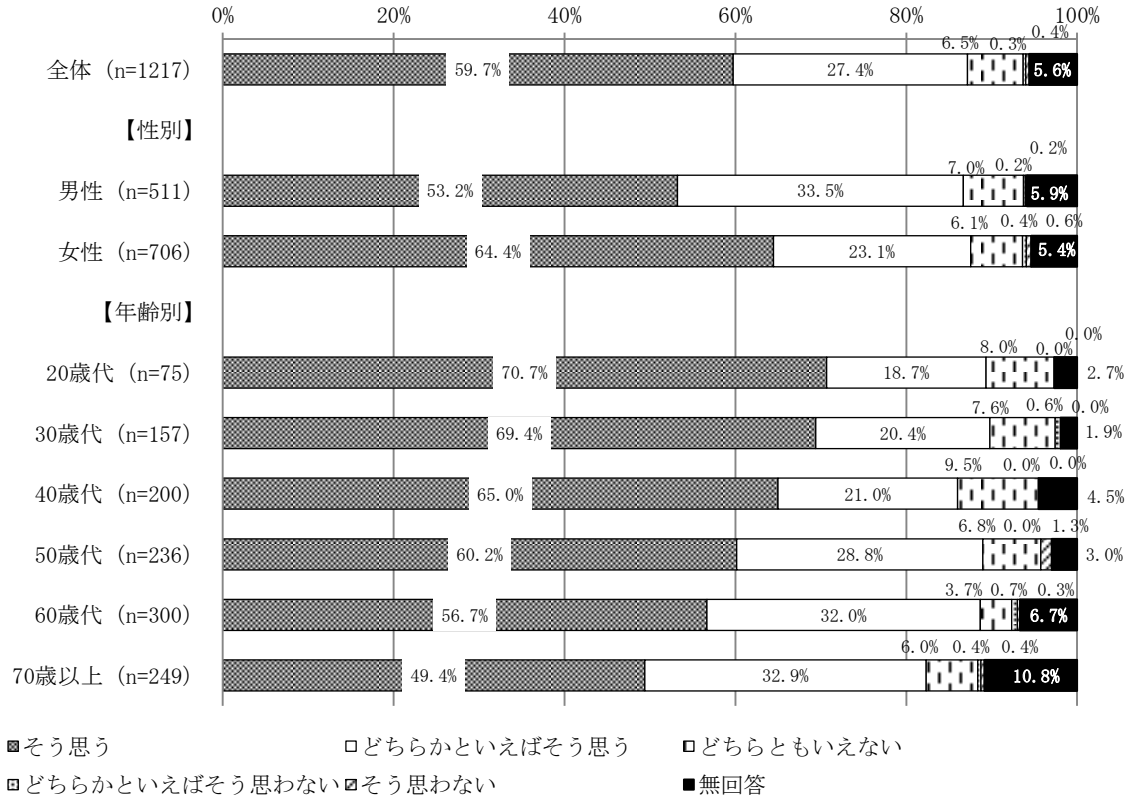
それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、全体（7.0%)、男性（8.0%)、女性（6.3%）となっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が最も高いは 70 歳以上で 52.6%、次いで 50 歳代（49.6%)、40 歳代（44.5%）の順となっている。

それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合は最も高いのが 30 歳代（10.8%）で、年代を問わず低い割合となっている。

⑫自分らしく生きたい



【全体・性別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、全体(87.1%)、男性(86.7%)、女性（87.5%）となっている。

また、「そう思う」とする割合に限って見ると、男性より女性の方が 11.2 ポイント高くなっている。

【年齢別】

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、年代を問わず 80%以上と高い割合になっているが、最も高いのが 30 歳代で 89.8%、次いで 20 歳代(89.4%)、50 歳代(89.0%)の順となっている。

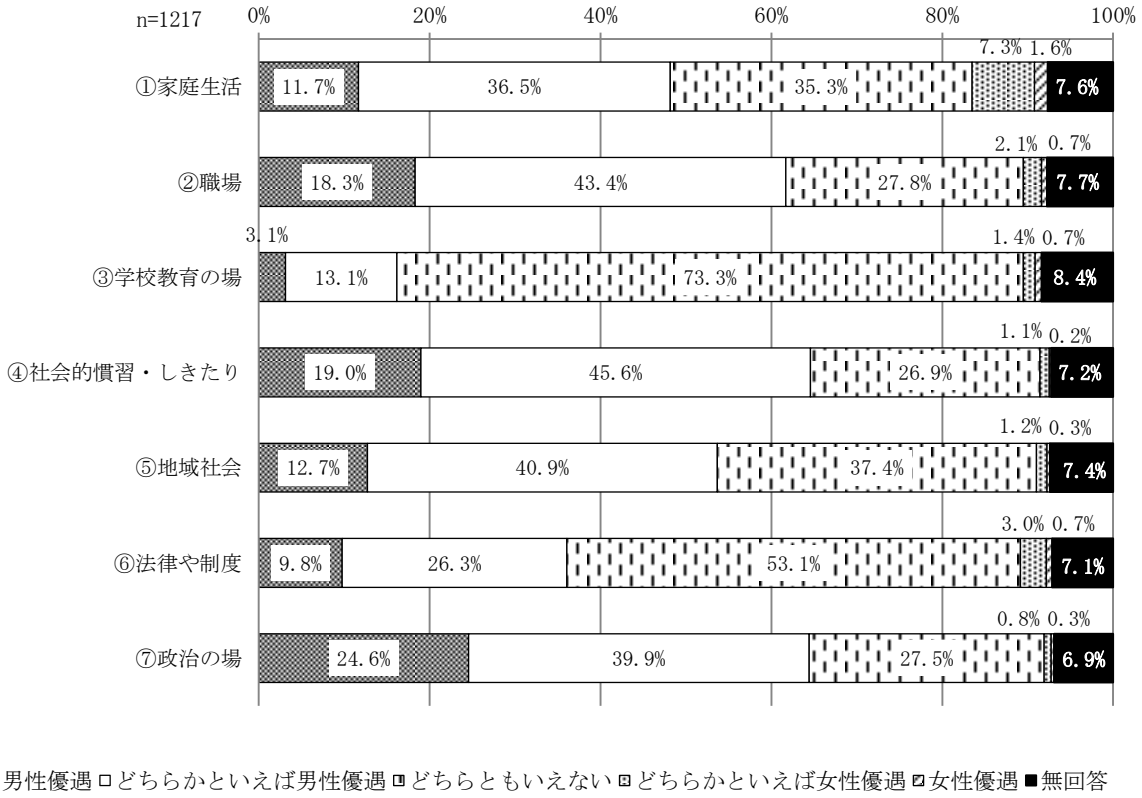
それに対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた割合で見ると、ほとんどの年代で 1.0%未満と低い割合となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合で見ると、ほとんど差は見られないが、「そう思う」とする割合に限って見ると、全体で 6.1 ポイント、男性で 6.2 ポイント、女性で 7.2 ポイント、それぞれ減少している。

（2）男女平等についての意識 [問 24]

あなたは、現在の日本の社会において、次の①～⑦のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んで番号に○をつけてください。



【全体】

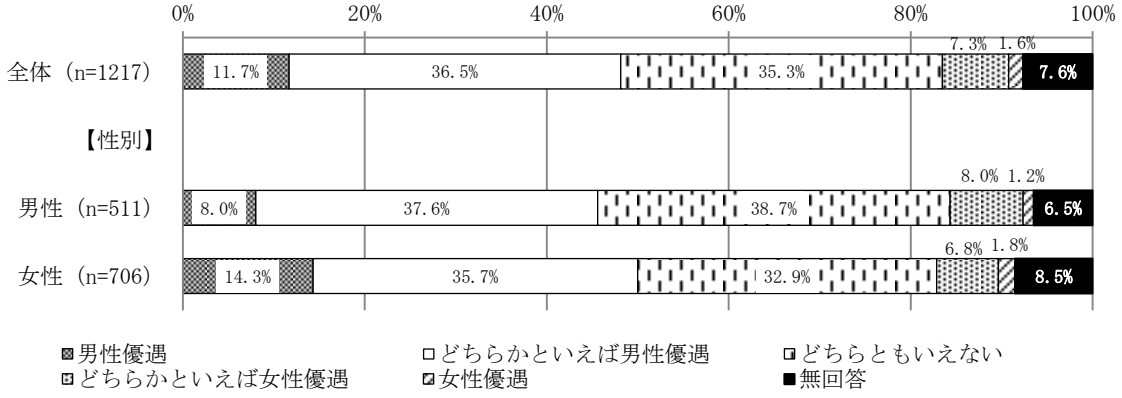
男女平等についての意識について「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、「社会的慣習・しきたり」が 64.6%で最も高く、次いで「政治の場」(64.5%)、「職場」(61.7%)の順となっている。

そして、「男性優遇」とする割合に限って見ると、「政治の場」が 24.6%で最も高く、次いで「社会的慣習・しきたり」(19.0%)、「職場」(18.3%) の順となっている。

また、「どちらともいえない」とする割合で見ると、「学校教育の場」が 73.3%で最も高く、次いで「法律や制度」(53.1%)、「地域社会」(37.4%)、「家庭生活」(35.3%) の順となっている。

「女性優遇」「どちらかといえば女性優遇」を合わせた割合で見ると、「家庭生活」が 8.9%で最も高く、次いで「法律や制度」(3.7%)、「職場」(2.8%) の順で、いずれも低い割合となっている。

①家庭生活



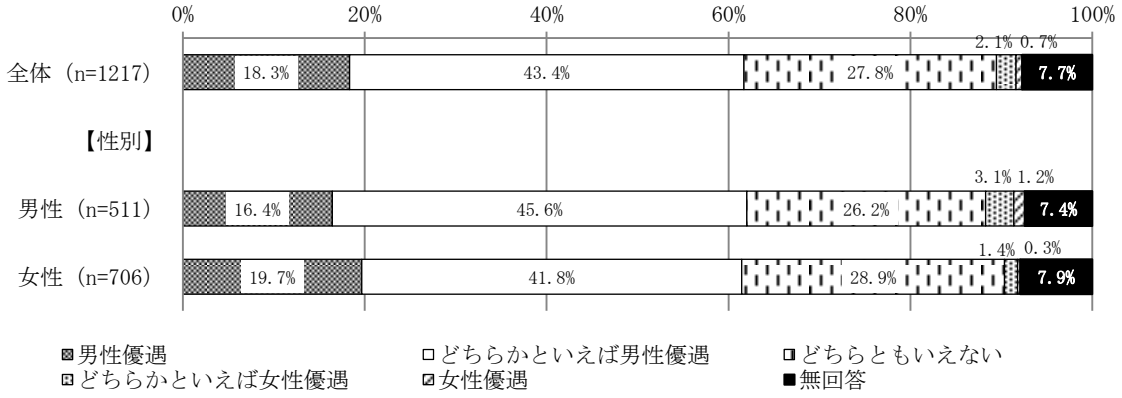
【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体(48.2%)、男性(45.6%)、女性（50.0%）となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で 16.7 ポイント、男性で 15.8 ポイント、女性で 18.0 ポイント、それぞれ減少している。

②職場



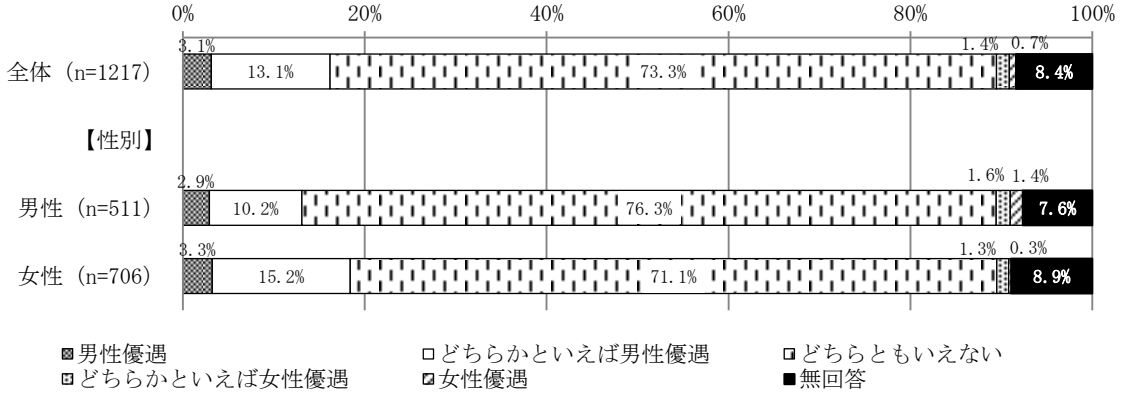
【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体(61.7%)、男性(62.0%)、女性（61.5%）となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で 6.0 ポイント、男性で 0.6 ポイント、女性で 11.0 ポイント、それぞれ減少している。

③学校教育の場



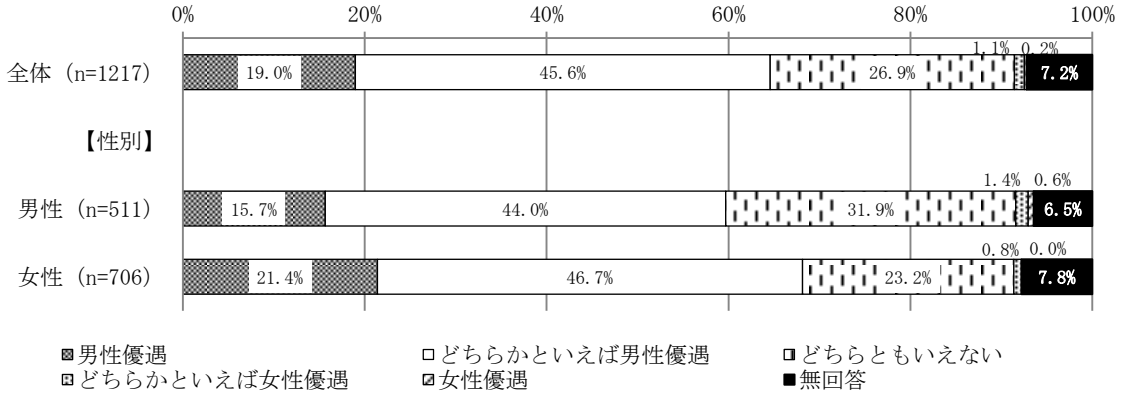
【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体(16.2%)、男性(13.1%)、女性（18.5%）となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で 7.5 ポイント、男性で 6.3 ポイント、女性で 9.1 ポイント、それぞれ減少している。

④社会的慣習・しきたり



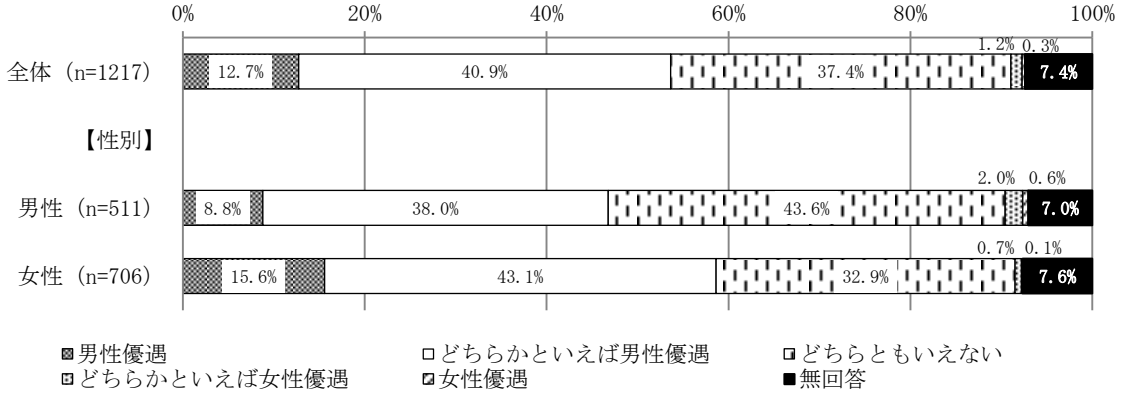
【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体(64.6%)、男性(59.7%)、女性（68.1%）となっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で 7.7 ポイント、男性で 8.1 ポイント、女性で 8.1 ポイント、それぞれ減少している。

⑤地域社会



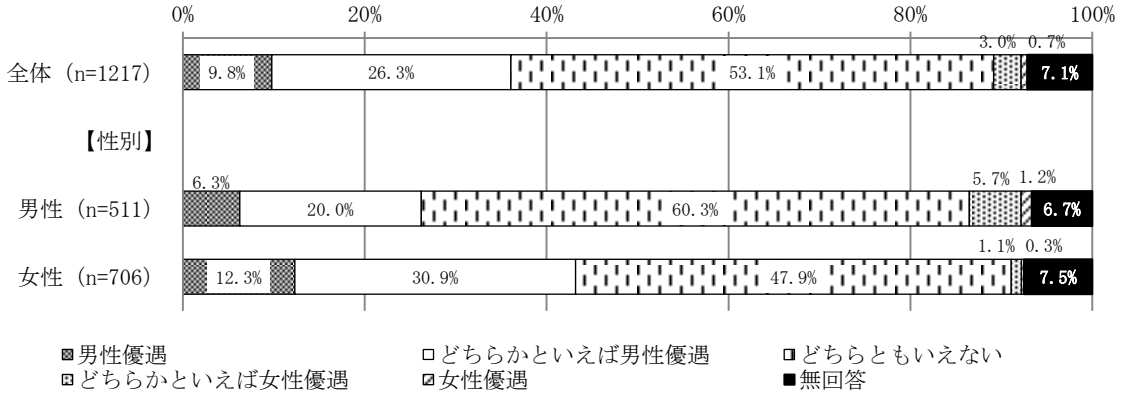
【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体(53.6%)、男性(46.8%)、女性（58.7%）となっており、男性より女性の方が 11.9 ポイント高くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、全体で 8.5 ポイント、男性で 10.5 ポイント、女性で 9.5 ポイント、それぞれ減少している。

⑥法律や制度



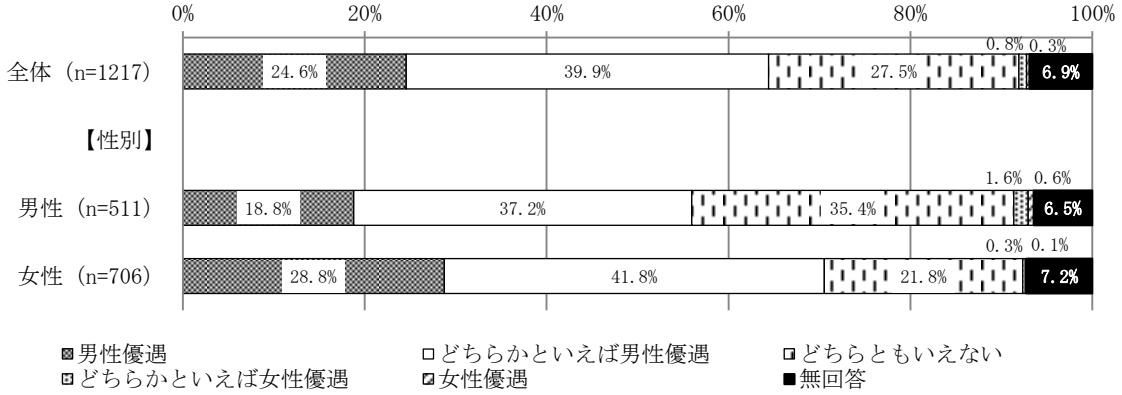
【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体(36.1%)、男性(26.3%)、女性（43.2%）となっており、男性より女性の方が 16.9 ポイント高くなっている。

【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合が、女性では 4.2 ポイント減少しているが、男性ではほとんど差は見られない。

⑦政治の場



【全体・性別】

「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合で見ると、全体(64.5%)、男性(56.0%)、女性（70.6%）となっており、男性より女性の方が 14.6 ポイント高くなっている。

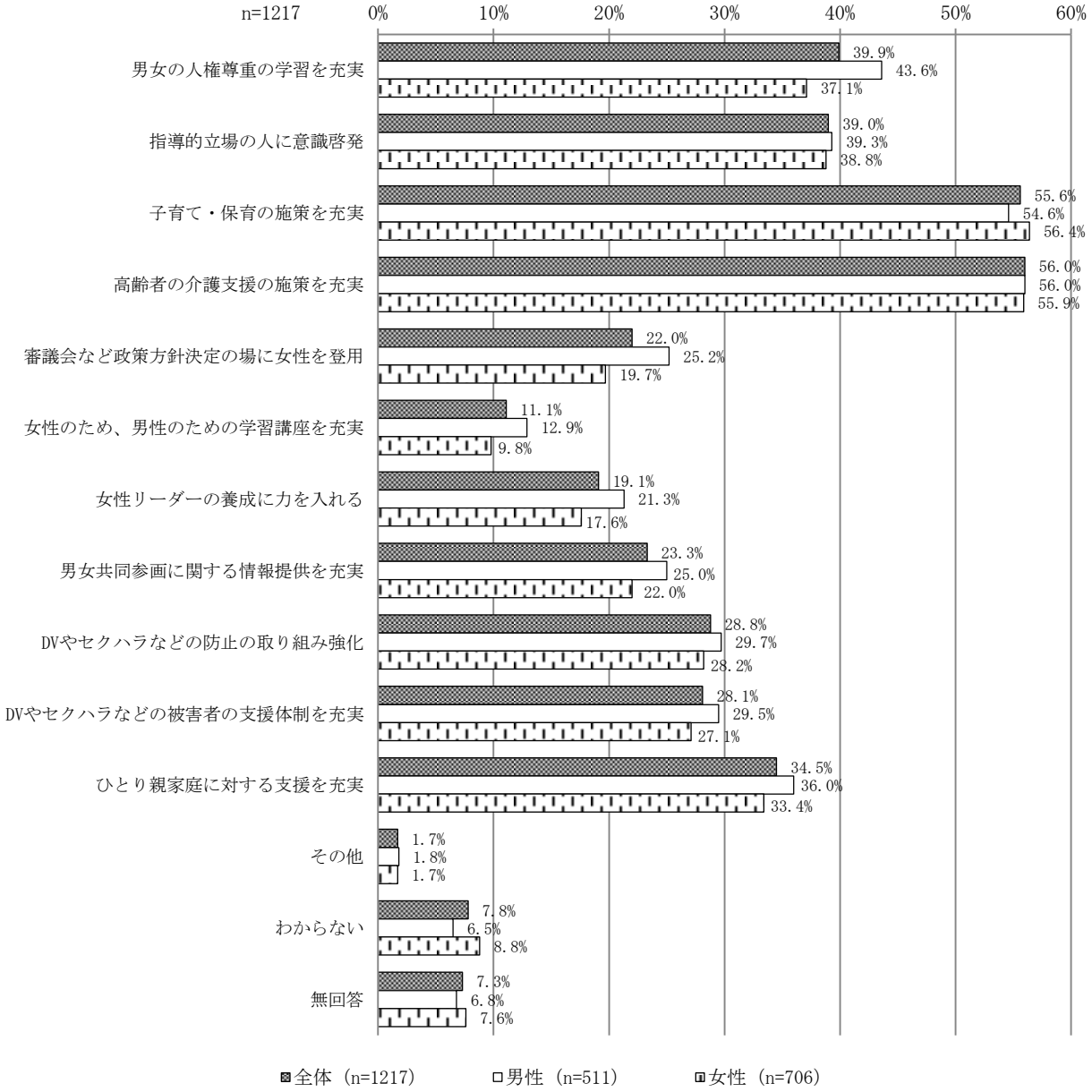
【前回調査との比較】

前回調査と比べて「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」を合わせた割合は女性で 1.5 ポイント減少しているが、男性ではほとんど差は見られない。

Ⅸ　男女共同参画社会に関する施策や法制度について

（1）米子市が今後力を注ぐべきこと [問 25]

あなたは、男女共同参画社会の実現のために、米子市で、今、特に力を注ぐことが望まれる施策はどれだと思いますか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。



【全体】

米子市が今後力を注ぐべきことについて「高齢者の介護支援の施策を充実」が 56.0%と最も高く、次いで「子育て・保育の施策を充実」（55.6%）、「男女の人権尊重の学習を充実」（39.9%）、「指導的立場の人に意識啓発」（39.0%）、「ひとり親家庭に対する支援を充実」（34.5%）の順となっている。

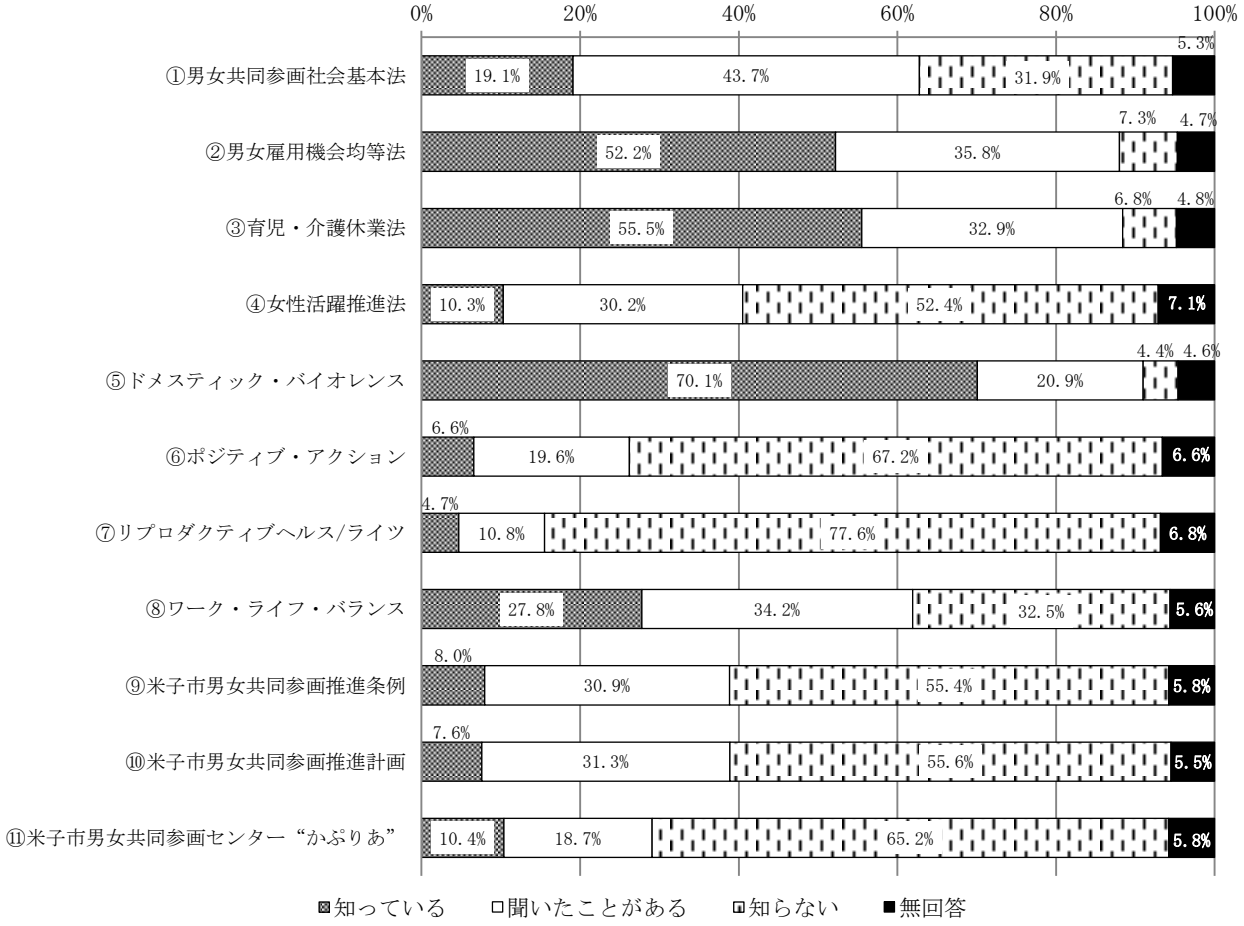
【性別】

男性でも、全体と同様に「高齢者の介護支援の施策を充実」が 56.0%と最も高く、次いで「子育て・保育の施策を充実」(54.6%)、「男女の人権尊重の学習を充実」(43.6%)、「指導的立場の人に意識啓発」(39.3%)、「ひとり親家庭に対する支援を充実」(36.0%) の順となっている。

また、女性では「子育て・保育の施策を充実」が 56.4%と最も高く、次いで「高齢者の介護支援の施策を充実」(55.9%)、「指導的立場の人に意識啓発」(38.8%)、「男女の人権尊重の学習を充実」(37.1%)、「ひとり親家庭に対する支援を充実」(33.4%) の順で、全体および男性とはわずかの差であるが順位が異なっている。

（2）法律、用語、施策の認知度 [問 26]

あなたは、次の①～⑪のような用語や法律、施策などをご存知ですか。それぞれについて、あてはまるものを１つずつ選んで番号に○をつけてください。



【全体】

法律、用語、施策の認知度について「知っている」「聞いたことがある」を合わせた割合で見ると、ドメスティック・バイオレンスが 91.0%と最も高く、次いで「育児・介護休業法」（88.4%）、「男女雇用機会均等法」（88.0%）の順となっている。また、「男女共同参画社会基本法」（62.8%）、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（62.0%）も比較的高い割合となっている。

それに対して、「知らない」とする割合では「リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）」が 77.6%と最も高く、次いで「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」（67.2%）となっている。

また、前回調査と比べて、「知っている」「聞いたことがある」を合わせた割合で「米子市男女共同参画推進計画」は 3.0 ポイント減少し、「米子市男女共同参画センター“かぷりあ”」は 6.5 ポイント増加している。

X　意見・要望など自由記述

男性 20 歳～24 歳
世の中には様々な性格・個性を持った人がいると思います。高齢者の方や子どもなどを特別視して過度に尊重する必要はないと思いますが、すべての人がすべての人に受け入れられるような社会を目指してほしいと思います。
女性 20 歳～24 歳
男性（女性）だけが働いて生活できるなら、無理に働かずに主婦（主夫）でいても良いと思います。
男女がともに差のない活躍の場を増やしていくことはよいことだと思うし、現代社会においても男尊女卑の風潮はほぼなくなってきていると感じます。「男女共同の社会を目指す」ことは達成していると思うので、今後も性別の隔てなく、働きたい、先頭に立ちたいという意欲のある人の思いが叶えられる社会であってほしいと思います。ただ、女性を優先しすぎることは参画社会の実現には不要だと思います（女性専用〇〇など）。社会活動の男女平等を目指すのならば、それについての施策・対策も男女平等に行ってほしいと感じます。
女性 25 歳～29 歳
男性もそれぞれ大変だとは思いますが、女性も年々シングルマザーが多くなってきているので、そういう方に対しての支援をもっと力を入れてほしいと思います。支援が足りない家族もあるので、そのせいで子供と一緒に住みたくても住めない人のつらさや悩みを解決することも考えてほしい。この世の中、皆が不満を抱えています。住みやすい生活を望みます。
推進したとしても男女について昔からの考えなど持っている人が多いと思う。そのような考えの人に向けて働きかけないと変わらないと思う。今は学校や職場でも問 26 にあるような法律、考え方について知ったり学ぶ機会はあるが、どうなのでしょうか？
平等は難しいと思う。
男性 30 歳～34 歳
医療機関に勤務していますが、この「医療・介護・福祉」という業種においては特に看護職の女性優遇が一般的となっています。米子市内の医療機関の看護管理職はすべて女性となっています。一般的な企業では男性優遇となっていますが、医療の世界ではこれとはまったく逆のことが長年続いています。米子市としても鳥大病院を中心とする医療に対して力を入れていくのであれば、このような問題も知っていただけるとありがたいと思います。
市の職員などとは違い、一般の中小企業などではいくら市などから落とし込んでもその場しのぎくらいのことしかないので、形だけで終わってしまい、変化は実際にはないに等しい。表で見えていることなんて本当に氷山の一角にすぎない。これはすべてのことに当てはまる。
女性リーダーの養成等に関しては、男性のみが今まで養成されていたのであれば、女性にも力を入れるべきであるが、無理に養成の場を女性用として作ってしまうとリーダーとしての能力が欠けているにもかかわらず、女性だからということでリーダーを作ってしまう可能性もあると思う。またＤＶなどについても、世間一般的に女性が受けているものとして考えられていることが多く、実際にはヒステリックになっている女性を前に自分が今、我慢をすればいいだけだ、と他人には話せない男性も多いと思う。そのためワーク、ライフ、いずれに関しても男女はあくまで均等であることを教育の場で話をした方がいいと思う。
男性の育休取得や男性の家庭における役割がさらに多くなるとよい家庭環境になり、ひいてはよい社会作りになるのではないでしょうか。
男だから女だからと考えるのではなく、人として地域社会とどう関わっていくのかということに重点を置いたほうがよいのではないかと思います。
生物的な差異はどうしようもない事実である。
女性 30 歳～34 歳
ひとり親に対する支援をもう少し調査してから行ったほうがよい気がします。必ずしも母子家庭だから生活苦というわけでもないと思います。書類上は離婚しているけど、半同棲のような暮らしをしている人もいます。普通に働くよりも離婚して母子家庭になった方がお金がもらえるからだそうです。本当に必要としている家庭に適切な援助がいくことを願います。男女均等も男性の役割、女性の役割を全く同じにすると結局負担は女性にくるのでは？と感じます。筋力のない女性ができることは限られています。本当の意味の平等になることを願います。女性は感情的な人が多いので、男性が指揮をとる方がいい場合もあります。ひとり親や子どもがいるところばかりに支援がいき、いないところに負担がかかり、ひとり親への支援が充実することで簡単に離婚したり、さずかり婚が増えている気もします。なかなかお金がなくて結婚、出産できない人や家庭もあります。
どんな人でも「やりたい」と思うことをやれる社会が実現されることを願います。

子どもがいる家庭は正職で働いているとどちらを優先するかが中途半端になってしまって満足感が得られない。毎日が疲れと時間に追われてる。やっぱり家庭と仕事の両立は自分か、二人いれば成り立つけど、無理。現実は理想と違う。推進ばかりするんじゃなくて見てほしい。パートだと生活も成り立たないし、職場のパート職の扱いも雑で、何がいいのかわからない。一定期間子どものために仕事はお休みしたいのが本音。１年間育児休暇をとったことがない。正職で続けて仕事をするためには、犠牲になっていることが多い。
男女が同じ様に働く、生きていくことは時代の流れとしては必要な言葉だとは思いますが、母親が仕事に忙しく、家に帰っても家事に追われ、一人の時間がゆっくりと取れず（土日になれば子どもがいるのでゆっくりはできません）、イライラしていることを知ってください。そのイライラは高い確率で子どもに向いています。男性が外で働き、女性が家がよいとは思いませんが、家に帰って母親がいる安心感やイライラしていない母親がいてくれることの喜びを子どもたちは望んでいるのでは…とも思っています。女性は子どもを産むと仕事が続けにくいです。もっと男性方の給与が上がってくれることを期待せずにおられません。（夫婦世帯のみの話です）
育メンや読みメンや育ボスなどいろいろと啓発しておられるので今後も取り組んでほしいです。今後は家事メンの育成をお願いします。正直、母親の私は仕事に出かける前に子どもの支度、夕食の下ごしらえ、自分の出かける準備をし、帰ってきて夕食を作り、食べさせ、お風呂に入れて寝かせます。もちろんその間に食事の後片付けなどもしてバタバタで、子どもと楽しく過ごす余裕がありません。いつも指示しているか注意しているような感じで、自己嫌悪になります。そんなときにたまに早く帰って（といってもお風呂に入れた後）、子どもとにこやかに話している主人を見ると腹が立ってきます。そんな風に思ってはいけないと思いながらも、一人で黙々と家事をします。男性が少しでも家のことに目を向けてくれるようになると嬉しいです。子どもと多く関わる男性が増えてきているので、今後は家事等にも期待しています。そのためにも労働時間の見直しをしてほしいものです。
男性 35 歳～39 歳
テレビCM、インターネット、動画等を利用し、地域社会に広く知ってもらう。具体的な活動内容、今後の方向性、今までの活動における実績等の情報発信（ホームページを作るだけでは誰も見ないと思う）。米子市の取り組みを全国に発信して知名度を上げる（有名になるレベルまで）。少しやり過ぎなくらいＰＲしないと誰も見向きもしないと思うし、意識改善も進んでいかない。
男性女性共に特性としての得意分野が異なる。そのことを踏まえた上での共同参画を練るべきです。また人口減少への備えをどうするのか？両性とも共同参画で多性になるだけでは、社会という単位がやがて消滅してしまうのでは？
県外から転勤してきた者だが、この地域の人間性は「がんばらない」ことが美徳となっていると感じる。その結果が地域衰退であり、人口減少などに顕著につながっていると思う。また勤労意識も低く、生活保護受給者は十分な労働能力があるにもかかわらず、働かずに車に乗り、福祉などを利用して商品を購入している場面を何度も見ている。そのような「努力する者がバカを見る環境」をなくしていく必要がある。政治・政策として、いわゆる「民度」を上げるように取り組んでもらいたい。そうでなければ近い将来、人口減少・流出により消滅する市となると思う。まじめな者ほど県外に出たくなるだろう。
会議や決め事のバランスを考えてこれからも頑張ってください。
子育てが一段落してからの正規雇用の受け口が少ない。年齢的にも難しい。パートするしかないのか？子育て時期のことばかり重点に置いて考えているような政策ばかり。本当にすべての市民のことを考えているのでしょうか？市報で教えてください。
すべての人が自分らしく平等に好きなように生きられればいいでしょうね。でも人口が増えることはないでしょう。女性が子どもを産むことを二の次にしないような教育が必要では？
少子化により女性の労働力は今後必要となる。女性の働く場が増えることで、少子化が加速しないか心配である。離婚経験のある私から言わせれば、家庭環境は悪くなり、女性が自立できる環境が整うことで、簡単に離婚できてしまう。悲しいね。
女性の社会的立場を尊重するあまり、女性から男性に対する人権侵害（物理的な暴力でなく、言葉による暴力など）に関することが増えているように思います。真の男女共同参画とは、本当に難しいと思っています。ぜひ男性の側の被害について汲み取れる仕組みづくりをお願いします。
女性 35 歳～39 歳
固定概念にとらわれず、自由な発想で推進計画を企ててほしい。50 歳以上の世代は男女の役割、人権にこだわりがありすぎ、次世代に押しつける面がある。
あなたの家庭で、あなたの地域で、日本全体でというステージの広さで男女共同参画や平等の感じ方は変わってくるかと思う。またそれぞれの家庭で最も効率的な生活を考えた結果で、例えば女性だけ家事をすることになっている家庭もあると思うので、必ず男女が同じように仕事や家庭を行う必要はないと考える。要は男女平等の感覚を基盤として持った上で、双方が win win になれる生活を送れるかどうかなのではないだろうか。
子どものメディアに対する考え方が大幅に違い、主人は次から次へと子どもに与える。それをコントロールするために毎日のように時間を費やさなくてはいけなくてへとへとです。メディアとの付き合い方の教育を男性にもっとしてほしい。

子どもが多くいる家庭では行事、病気等で休むことが多くなり、有給休暇だけではやっていかれず、看護休業も就業前の子どもにしか使えず大変困ります。正社員でフルで働いていても引かれる方が多く、仕事をしている意味がない。
自分の職場では労働環境が平等ではあると思いますが、家庭を優先させたい人にとってみたら、常にスキルアップ目標を立てさせられるためプレッシャーになる。平等を希望する方、昇給を希望する方のみ頑張れる制度があってもよい。地域等の活動でも同様。やりたい方もいればそうでない方もおられる。平等になればよいとは思えません。
男性 40 歳～44 歳
男性女性がすべて平等になるのは無理。男性は子供が産めない、女性は男性より力は弱い、むやみやたらに平等平等と叫ぶのはおかしい。女性男性にそれぞれ合うやり方で政策を行っていくべき。結婚するしない、出産するしないは自由。同性婚も自由。性は違っても個々の自由をもっと尊重するべし。
経営者トップの意識が変わらない限り、男女共同参画は進まないと思う。ここ数年で女性パートさんが３名いなくなった。補充なし。一応大手企業だが、本社以外の小規模になる地方の出先はどこも同じような状況だと思う。
女性が結婚後、それまでに志をもって働いてきた職場において、それまでに培ってきた勤務経験や知識が無駄にならないよう、産前・産後休暇と育児休暇をしっかりとっても職場復帰し、その後もバリバリ働けるような環境を各業種に広めていく、そのことが当たり前の社会を推進していくことが肝要である。
女性の社会進出はよいことであると思うが、それに伴う子育てへの悪影響は避けなければならないと思う。
男が男、女が女と決めつけないで。アンケートは男目線では？質問は多くない？女性が活躍する場は公共だけ？家庭での輝きは？
このようなアンケートで変なまとめをしないようにしてください。これで何がわかるのか？よくわかりません。
アンケートを読んでみて女性を優遇したい、されるのはわかりましたが、同じ能力、実力ならどちらを選んでも同じですが、まったく同じ人なんて存在しません。それ自体が人権侵害では？男女ではなく常にその個々の能力、実力を見極めるようにトップ関係者に教えるのがいい。
女性 40 歳～44 歳
山陰地方は田舎なので、まだまだ封建的な思考や慣習が根付いていると思います。自分自身がそのような家庭で育ったので、女性に生まれた自分が嫌でした。男性に生まれていたら、もっと自由になれただろうに…と。現在の社会は男女とも普通に仕事をするのが当たり前ですが、家庭に帰ると家事はやはり女性が積極的にしなければならない。男女平等の社会のはずなのにです。子どもが就学する年齢になったら、男子に家事・育児に積極的に参加させるよう教育すべきです。義務にしてもいいと思います。また今まで男性だけだった職場に女性が進出できるよう、事業主にもっと促してほしいです。また逆も然り。全体的に女性を男性より下だと考える風潮があるのを感じます（男女ともに）。社会人になってからも男女平等について考える場を設けるべきです。実現すべきです。そうしなければＤＶもセクハラも決してなくならないでしょう。もっと罰則強化を！いつか欧米並みに男女平等になったら女性に生まれてよかったと思えるでしょう。
現在育休は３年取得できることは大変素晴らしいと思うが、保育所は育児休暇対象の子が満２歳の年度には退所（上の子）させられてしまう。保育所に預けている母親は仕事をしている人が多く、退所→幼稚園という選択は難しい。（制服を揃えたり、用具を揃えたり、たった１～２年のためにするのは無駄に思える）しかし子どもは経験ができる環境から離れさせたくない。だから育休を２年未満しか取れない。とても矛盾した制度だと育休中に感じた。取れることなら３年取りたかったと今でも思う。きっとそんなこと考えられたことがないんだろうなと感じる制度だと行政はわかっていない。
男女が等しく尊重される社会になるために、子育て環境の充実は非常に重要な要素となってくるように思います。しかし、現状において対策が十分に講じられているとは言えません。私は仕事をしていますが、上の子の学童保育の件で納得のいかない思いを抱えています。子どもの成長を考え、３年間の育児休業を取得し、年度途中で仕事復帰したため学校のなかよし学級には入ることができませんでした。自宅から離れた学童に通わせることになったので、学校の休業中は特に、送り迎えだけで相当な負担になります。その一方で午前中だけの仕事の方や家に同居の祖母がいらっしゃる家庭の子どもさんがなかよし学級に通っていらっしゃり、本当に受け入れに対してきちんとした審査が行われているのか疑問に思っています。年度途中からの利用について、親の仕事の状況も考慮の上、厳正な審査、その後の状況確認を行ってくださるよう強く希望します。
男女共同参画をして３年半、様々な取り組みとは何で、どこがどのように変わり活かされているのでしょうか？とてもこの世の中、生き辛い。妊娠・出産・子育てと大半を女性がやっていて、働いたとしても女性に安い賃金でいい、という男性社会の世の中で、伸び伸びとはやっていけないし充実感も感じない。「やりがい」を感じても「女性でしょ」って止められるし、まだ 60 歳前後の男の上司では女性蔑視がひどく、次はゆとり世代男子がそれをそのまま受け継いで、会社全体で「女は生意気」「扱いづらい」と圧力がある。お互いに分かち合いと言うならもっと男性教育を家庭において、社会において教育するべき。またこれから私たちの子どもたちもその世の中に送り出さなくてはならないのだから。
単純に女性と男性が平等に…ではなく、それぞれの特性が活かせることが大切かなと思います。

男女共同参画、共働き、女性活躍などで女性の社会進出は進んできた。わが身のこととして体験もしたが、子どもの病気、親の介護などは「女性（もしくはリタイア世代）がするもの」という甘えが法に見え隠れする。リタイア世代にも家事・育児は自分たちの親任せ（共働きのはしりの世代）で、実際のところ「嫁にやってほしい（というか自分たちはパス）」という状況が多いようです。男性への意識教育や公のサポート体制に国として、米子市としてもっと力を入れてほしいと感じます。中小企業が多いので「絵に描いた餅」になっているところがほとんどです。
アンケートや世論調査をしても実際の現場については答えが出ないと思います。結局何を決めるのも多数決なので、少数意見は消されます。マスコミなどの報道で答えが二転三転と流される方も多いのでは…。いまどきこのような印刷物を作成し郵送するなど税金の無駄だと思います。それ以前に米子市の財政をしっかり見直してください。
男性 45 歳～49 歳
とにかくなんとかしてほしい。障がい者（重度の子）の施設が不足、親は本当に待っている。米子市営武道館の無人化をなんとかしてほしい。使用しにくい。
とにかく子どもが元気に笑顔で学校に行けるように！行政は早く手を打ってください！本当に保護者は悩んで苦しんでいます。この意識調査を無駄にしないでください。
愚問。戦争があるならば、戦闘地へ男 50%、女 50%にできる覚悟があるならこの推進に賛同できる。
女性 45 歳～49 歳
DV、セクハラについての質問はありましたが、パワハラについての項目がありませんでした。職場においてのパワハラは男女共同参画において大きな問題です。毎日顔を合わせ、生活のため離職するわけにはいかない人がたくさんいます。企業・会社の中で悩んでいること、困っていることを言える場所が必要だと思います。大きなところからではなく、身近なところで一人でも困っている方がいなくすることが大切だと思います。
こういうことに関しては社会の中の一番小さい組織である夫婦であり、家族で日頃から話し合える雰囲気と関係づくりをしていくことが大切だと思います。夫婦それぞれ育っていた環境も違い、考え方もそれぞれですが、「自分が自分らしく」「家族一人ひとりがその人らしく」生きていく上での大切なことでもあると思います。まずは夫婦がよくよく話し合い、お互いの思いを尊重しあいながら、どのようにしたら望ましい家族へとなっていくのかを考え、その姿を子どもに見せて、子どもにも参加してもらい、家族３人で協力しあいながら家族のことをしていく…それが始まりだと思っています。そしていずれ我が子が家庭を持つ時に私たち夫婦が、そして親子３人がしてきたことというのが、考え方の基礎になると願っています。
小さなお子さんがいるお母さんは時間的に思うようにいかない時もあるので、子どもたちを地域で育てるようなシステムができるといいと思います。
男女平等といっても、男性女性それぞれに身体的、精神的、共に生まれつき違いがある。だからすべてにおいて平等というのは不可能だと思う。それぞれの長所を生かした共同参加ができるとよいと思う。前に出ること、同じことをすることが大切なのではなく、互いを認め合い、おぎないあえる関係が持てる社会であったらいいと思います。（老若男女問わず）
先日、性同一性障害の方のお話を聞きましたが、男女共同参画でこのような障がいを持つ方の差別をなくすために企業、学校等で勉強していくことが大切だと思います。学校、職場などでのびのび生活ができるよう施設も含め、充実していくといいなと思いました。
若者が結婚できて、独立して生活できる社会が望ましいです。例えば家賃を何割か補助してあげれば、結婚に踏み切れるのではないでしょうか。子どもを授かったら、２歳ぐらいまで母親が保育し、それから徐々に働けたらいいですね。
鳥取県は共働き世帯が多く、女性も社会に出て働いているため、専業主婦の私の意見はあまり参考にならないかと思います。加えて、米子に転入してきて間がなく、元々他県出身なので米子市のこともまだあまりよくわかっていないうえに、近所との付き合いや地域との関わりもほとんどないので、今後もわからないままのような気がします。今回のアンケートですが、問 22 について疑問があります。ＤＶとセクハラを同列にして問うのはどうかと思います。ＤＶは理由がどうであれ、受ける側の意識がどうであれ、暴力ということは許されないものですが、セクハラは内容にもよるし、受ける側の気持ち次第で同じことをされても誰にされるかによってセクハラと受け取れないことにもなるので、わけて考えるべきだと思います。男女共同参画の推進は今の時代重要なのでしょうが、私は男女が同じようにという考えはなく、いろいろなところで男女差があり、得意とするものも役割も違うと思うので、男女で役割分担しながらうまくやっていくべきだと思います。
男女共同参画すべてにおいて必要ないと思っております。
なんとなく聞いたことがありますが、実際どんな活動を誰がしているのか、よくわかっていません。インターネットで調べればすぐだと思うのですが、進んで調べてみようという気にならないのが現実です。難しいことに感じているからでしょうか。意識の問題でしょうか？ワクワクする取り組みがいるのかもしれませんし、情報提供の仕方の工夫もいるのかもしれません。

男性 50 歳～54 歳
男女の問題以前にお役所の意識が低すぎる。
三世代の場合、先祖からのしきたり（各家庭の）が大きい要素であり、若者たちの新しい発想が取り入れにくい、ジェネレーションギャップが存在している。子どもたちが地域の宝であるという教育、ひとりひとりが日本や地球にとってかけがえのない存在であるという教育や知恵が必要。その先に男女を越えた参画があると思う。
確かに女性は女性らしく、男性は男性らしくということは、もう現代においてはナンセンスとなっています。ただし、それぞれの特性という違いがはっきりあって、それを認め合いながら、子育てや介護の役割を、その家庭等の単位において発揮していくことが理想だと思います。つまり女性が家計の柱であったり、夫が専業主夫である場合もあり、そういった形態をもスタンダードだとの位置づけをし、そのパーセンテージが上がってくる社会となるべきであるということは間違いありません。しかしながら、今、国や市町村が向かおうとしている施策には違和感があります。今の施策の方向は、とにかく「女性」が働きやすい職場…とか、「女性」が働きやすくするためには…等のキーワードばかりで、いかに就業せずとも子育てや介護ができるためには、という論議はなされていません。私は逆だと思います。専業主婦（夫）は日本人の心根の中にあり、それを生かす施策の方がよいと思うのですが、無理ですかね？
最近親の介護の件で、地域包括支援センターの職員が妻のことを“お嫁さん”と呼ぶことに違和感を感じた。地域の機関がそういうことでは、いくらアンケートを取っても無駄なのでは？
このアンケートの主旨、利用目的に疑問を持つ。アンケート処理に係る経費、時間の無駄のように思われる。所詮お役所仕事のように思われる。米子市は他に考えること、やることがあるのでは？
男女それぞれに助け合うことは必要であると思う。またそうしていると思っています。しかし今回のこの回答がどう活かされるかと思っています。一家族、一個人の回答で、しかもランダムで米子市民へ何か発信できますか？我が家は円満です。活動していると政策のバックデータとして利用されているだけではないですか？
女性 50 歳～54 歳
米子市に住んでよかったと思える自治体を目指して、身近なところからできることを推進してほしい。
米子市または鳥取県は全国でも最も男女共同参画など遅れていると思います。私は昭和 39 年生まれですが、地元でも大手と言われる会社に入社し、その時点の面接で“うちは結婚退社です”と言われました。当時はそれが普通な時代なので 24 歳で結婚し退職しました。同じ会社に知識も経験もあるので再雇用されましたがパートでした。子どもを産むときにまた退職し、５年後その仕事が好きなのでまたパートで入りました。正社員で５～６年、パートで 23 年目その仕事に必要な資格をすべて取得し、社員にしてほしいと何度もお願いしました。あとから入社した人は育休も取って正社員としてスキルアップするのに、長い間悔しい思いもしてきました。資格があるのでパートの給料にプラス手当はしてもらっていますが、正社員と同じ仕事をしているのに、時給は 18 年ぶりに今年 10 円上がっただけです。同期入社の男性は課長クラスです。鳥取県には男女の平等もパートと正社員も区別されています。育休を取る人を助けてあげたいけど、パートさんたちが満足していないのに育休などに協力してと言われても正直複雑です。市政でアンケートなど企業に取って、進んでいない企業を指導してください。ちなみに育休明けで出てきた人たちは必ず違う部署に異動させられています。これもひどいと思います。
男性と女性には性差があるが、その点の尊重と共同参画推進内容が合致しているかははなはだ疑問。共同参画とはこれまで男性が行っていたものを、じゃあ女性が取って代われるのか？共同参画の指し示す規範が不確定。とは言うものの女も男並みに、いやそれ以上働き収入も得ているのに、家庭内での家事はすべて“女の仕事”“うちの息子にそんなことさせないで”という姑の存在はどうやって解消するのか？
男女共同とは言っているが、仕事は男性、子育て・家事は女性とまだまだそういう考えが多いと思います。男性への教育が必要。いつまでたっても男性の方が上だという考えがあると思う。
男性 55 歳～59 歳
施策を進める際にあまりにもバランスを気にして中途半端になることもある。短期的にある程度偏った施策を実施し、状況を見ながら緩めていくことが必要ではないか。
市内の職場では少ないと思うが、大手になればなるほど男女差が生じているのではないでしょうか。逆に小さな小売店等では現在の職を失いたくないなどの理由で口に出せないケースが多いように思います。経営者への教育と指導が必要ではないでしょうか。
アンケートの質問項目や答え方自体が、日本の社会が男性優遇の前提になっているように感じる。もう少しニュートラルな尋ね方はないのでしょうか。

女性 55歳～59歳
問 26 の⑨⑩⑪をわかりやすく発信してほしい。誰でもわかるように目につくようにされないと気づかないと思う。体力的な面で男性有利なところがあるので、必ずしも平等にならないと思います。あと年功序列もなくさないといけないと思います。これとは全く関係ないのですが、ひとり親家庭、生活保護世帯など税金を使うのだから本当に受けないといけないのかどうなのかをきちんと調査してほしい。調査員制度を設けてもよいと思います。中には保護を受けながらサーフィンとかしている人もいると聞いたこともあります。無駄使いしないためにもきちんと調査してほしいです。支給をプリペイドカードのようにして、パチンコやタバコ等買うものに制限を設けたほうがよいのでは。でなければ高い税金を払っているものは馬鹿を見てる。生活保護世帯は年収にすればいろんなことが無料になったりしているから、400 万くらいになるのでは…。まじめに働いている人より高い金額です。言うべきところが違いますが、ついでに書かせてもらいました。
83 歳の両親がいます。今、下の娘が一緒に住んでいますが、私の両親なのでいずれは介護をすることになると思います。病気になったら病院で診てもらえますが、退院を迫られます。その後に診てもらえる病院をもっと増やしてほしいです。施設は高額なので年金ではまかなえない人も多くいらっしゃると思います。
私の住む地域は古くからの地元の人たちの集落と、団地の中に建てられた比較的新しい住宅とが共に暮らし、自治体も運営されています。全体的に高齢化が進み、60 歳前後の私たちでさえ若いと言われる地域です。役目として自治会の運営に参加することも多くなり、感じることは古くからの慣習や意識が中心をなし、とても改革が難しいということです。小さな自治会の中でも、例えば予算の部分が不透明であったりして、実際の参加者もとても少なく、会費だけを支払って一年を終える人も多いです。そういう状態の中で、女性部の活動をしていますが、やはり昔からの流れや、男性中心の動きの中にまかれているという印象を持っています。仕事をリタイアして地域の中に根を下ろして思うことは、男女平等にはまだ時間がかかるということです。
社会全体において（行政、政治、企業すべてに）女性の活躍の場をもう少し積極的に増やしてほしい。身近で感じることでは、企業においては会議ばかりが多く、机の上で男性の考えていることが優先しているように感じる。政治もしかり、現場・現実をもう少しよく見て行動してほしい。（自身はもう現役引退が近いので）これからの人のために改革を期待します。
男女にそれぞれの持っている特性もあるのだから、一概に物事を考えるのではなく、お互いを尊重しあって助け合っていくことが大切である。子育て中などはお互いに助け合わないと大変なので、職場などの時間のやりくりなどができるとよい。また女性が社会進出するため、保育所、なかよし学級などもっと時間や休みの日など働きやすい内容にしてほしいと思う。
個人の意識が変わらなければ、やはり基本的に変わらないと思います。差別がなくならないのと同じと思います。
問 18～22 に関して、パワハラも項目に加えてほしかった。男女問わず目に見えないが、他者にも相談しにくい、男女共同参画の推進には大切な問題点である。
今回のアンケートの集計結果および米子市としての今後の課題を広報で公表してほしい。
男女共同参画を知らない。
男女共同参画という言葉を聞いてから久しくなりますが、具体的に内容、意味がよくわからず、男女平等に活動すると理解しています。しかしそうであれば女性だから、男性だから参加しにくい場面はまだまだ多く感じます。かぷりあは何をしているセンターなのでしょうか？
人間皆一緒です。たまたま男に生まれ、たまたま女に生まれ、同じ人間です。女らしくとか男らしくとか言いますが、その前に一人の人間として評価したいと思います。助け合いが一番だと思います。
地方になるほど難しいと思う。
男性 60歳～64歳
自立を促進すべき行政をすべきである。障がい者、高齢者など社会的弱者を支援したり手助けすべきである。
米子市が男女共同参画の推進に力を入れていることをもっとアピールしたらよいと思う。
米子市の条例、推進計画、かぷりあは米子市に住んでいる人で知っている人はどれぐらいいるのか知りたい。私は初めて知りました。
女性 60歳～64歳
どのような取り組みをしておられるのか分かりにくいです。例えば公民館の活動の一つ「○○○○学級」の中で担当の方が講演されるとか。皆さんが集まられる場所へ出かけられたらどうでしょうか。
小学校・中学校・高校と子どものころから男女共同参画の勉強をわかりやすい言葉で教えてほしい。小学校のクラブで調理クラブ（家庭科クラブ）など、男子の希望が多いと聞いています。難しいかと思いますが、家庭科の大切さを教えてほしい。
米子市は鳥取県の中でも医療や保育園なども充実していて子育てはしやすく、暮らしやすいところだと思います。ただ大きな企業が少なく、子育て世代（若者）の賃金は全国に比べれば低いので、夫婦共稼ぎが必然となります。「男」とか「女」とかではなく、一人の人として夫婦協力して頑張って「元気のある米子市」になっていくことを希望してやみません。

現在私たちの校区でも自治会長、部長、女性の方が代表に公民館活動も多数参加し、とてもいいと思っています。我が家も長男、二男が家庭を持っていますが、子どもの学校の行事、家庭内で各自できること、休みの日には共働きのため、母や父の面倒を見る30代の息子です。しかし私たち60代半ばの近い夫婦はパートで働く私は現実には、夫は仕事だけ、家事、パートの仕事、実家の母の看護と多忙。若い子どもたち夫婦を見ると、二人で子どもを育て、役目をお互い助け合う。心は違う意味で豊かであるが、もっと男性に協力してくれたらと思うことがたくさんある。嫁の立場であると同時に娘であるという、たくさんすることがある。実家の用事が多いということもです。
ひとり親で、それも60歳過ぎて年金もない、子どもは引きこもりで生活するのがやっとで、何かよい手だてはないでしょうか。
今私は63歳です。50歳で仕事を辞め、今までに至ります。現在仕事をしてない私になんでこの調査がきたのか不思議でなりません。
男女が平等に働くということは現代社会において大変難しいと思います。大企業などは働く女性にとって基本はあるかもしれませんが、中小企業で働く方は産前産後（育休）など取りにくいと思います。また高齢者時代で介護という問題もでてきます。高額年金受給者は施設での生活もよいかもしれませんが、家族での介護となると大変です。私も80歳の母の面倒などをみて大変でした。このアンケートですが、全員に同じ質問ではなく、年代別、もっと詳しく言えば専業主婦か否かチェックされた上で書類を作成され、現在本人が体験していることなどレポート提出のような形をとられた方がよいと思います。アンケートが長すぎるような気がします。
男性 65歳～69歳
男女共同参画の推進についてのアンケートも大変に良いと思います。が、米子市活性化についての提案、助言（中学生・高校生も含む）等のアンケートを取っては？境港市を参考にしてはどうですか。
男女共同参画社会とは、男性、女性の性の差を認め、尊重し、一人ひとりの個性を認め合うことだと思います。そのためには、社会、職場、家庭で女性の地位がもっと上がることが必要であり、それが実現されない限り共同参画は声掛けだけになるのでは。また、同一職同一賃金も同時に実現され、管理職や政治の世界で50%以上女性が占めるような社会が実現されないと、男女共同参画社会は実現されないように思います。
女性自身が積極的にそれぞれの分野でリーダーシップを発揮する心が必要。またその環境整備を図るべきである。
男には男、女には女、その性格を尊重したい。
未来志向、将来展望等しっかりしたビジョンが必要と思います。一部の人の意見ではなく、どんな人の意見も聞くぐらいの度量は必要だと思います。ある人が言っておられました。会社と家の往復で人生を終わってはむなしい、地域貢献が大事ですと。みんながそういう気持ちになることが必要だと思います。
このような問題に金、時間を要しても無駄。
女性 65歳～69歳
意識啓蒙活動にもっと力を入れてほしい。
市内の企業（特に中小）は男性にとって厳しい状況である。常に仕事に追われ、勢い共働きであるにもかかわらず、女性に負担がかかり子育てに関われないことが多い。親世代（60～70歳代）が日常的にかかわらざるを得ない。親世代も超高齢の親を介護しながら子守等を任され、自身の健康を顧みることが満足にできない恐れがある。一日も早く子育て世代が安心して暮らせる日がくることを望む。
男女雇用機会均等法は大切なことだと思うが、男性と女性のらしいということを否定してはならないと思う。男性はあくまでも男性であり、女性はあくまでも女性である。体の硬さ、柔らかさなどを否定できないものがある。らしさは消し去ってはいけないと思う。それぞれのらしさを認めた上での男女均等法であってほしい。
男女雇用機会均等法、育児休業法等の内容を知っているつもりですが、細かいところはわかりません。私たちの時代、ＤＶ等まだ公の言葉ではなかったので、おばあさんたちはご主人からの言葉の暴力に悩んでおられ、今は相談することができていいと思います。
私は家族で店をやっている主婦です。今、歳が65歳を過ぎ物忘れがひどくなっている今日この頃です。主人も同じ歳でお互いにお客様を前にしていたらないお互いの行動、計算力、積極性など目に見えて衰えていくことに「言葉の暴力」で罵り合う日々を過ごしています。夫婦二人の生活に仕事が一緒、朝から晩まで店から家に帰ることができず、私は主人が寝静まったころ帰宅しています。私と主人の間のクッション役であった祖母を亡くしてから、主人は言葉の暴力で、逃げることばかり考えている私です。
若い夫婦が子育てをして、二人とも働きやすい米子市であってほしいと思います。若い人は地方では給料が安く、都会のように物を求められません。大いに会社がよいところを吸って、下で働いている若いパパ、ママは貧乏です。まして母子家庭では子どもの食の部分が欠乏しています。
難しいことはわかりませんが、男女差別のない生活であるように願います。

男女共に平等となってお互いを尊重し合う世の中になってほしい。私の生きてきた時代の男尊女卑の名残がまだ色濃く残っていると感じる。男性が強くあってほしいが強すぎてもよくない。女性も平等となってほしいが、男性を卑下するような行動はよくない。
男女共同参画の推進も大事ですが、それよりまず人間として自分のことだけを考え、人のために自分を犠牲とまではいいませんが、行動できる人が少なくなっています。人づくりが大事ではないかと思います。
女性も積極的にいろいろな事業に参加し、自分自身を高めるよう努力していきたいと思う。また参加しやすい事業を計画しＰＲしてほしい。
あまり知らないので、またいろいろわかるように案内をしてください。
男性 70 歳以上
高齢者への教育や研修によって「考え方」を改めさせるのはやや困難と思われる。むしろ生産年齢（15 歳～64 歳）を対象に各法の目的等を広く広報するなど徐々に周知させることが必要と思う。特に事業主・管理職研修、学校教育の充実を図る。
行政や事業主、地方議員、地域社会、労働組合などのトップにいる人たちの目的に対する本気度の不足だと思う。名刺の肩書だけで住民の心まで動かせない。寄り添う姿勢を見せてもらいたいものだ。要はそれぞれの立場でどれだけ住民や職場での「信頼関係」が築けるのかだと思う。常にトップにいる人たちの目標に対する意識の問題でもあり、指導力が問われる。目指すべき方向に向けて熱い思いが伝わらないといけない。
障がい者のいる事業所をやっています。障がいのある方々の設問がもっとあってもいいと思う。市ももっともっと目を向けてほしい。
実現可能な企画を立案され、積極的、継続的な努力を結集され推進されますことをお願いいたします。
男女を問わず資格を持った社会人をもっと雇い入れることだと思う。
共同参画の文言自体解りにくい。男から見ると女を入れなさいと聞こえて頭から不平等を肯定しているようだ。性によって特性もあり何に対して参画か、単に平等に役目をすれば良いのか。原点は思いやりの心だと思います。
旗振り役から実践役への実物教育が必要です。
男女共同参画を推進する目的はなんですか？どのような形の実現が目標となっているのでしょうか？男女がお互いに人権を尊重しつつ責任も分かち合い、それぞれの個性と能力を十分発揮すると住みよい社会になりますか？どうも企画する皆さん自身もわかっていないように思えます。実現を目指している「形」を明示ください。
内容に深みが少ない（企画）。勉強不足と知識不足。部分的なことだけでは難しい。もっとオープンに企画。生活が苦しく考える余裕がない。ルールを守れない人が 80%以上、これでは平均はとれない。
金のかかるつまらぬ対応、政策はやるな！学校で指導を強化するだけで十分！躾もできぬ馬鹿親は厳罰に処することがベスト！
身近な問題として男女とも重視すべき重要課題と考えます。年齢、性別を問わず、前向きに取り組むべき課題であり、機会があれば土俵につきたい。今後一層の改善を望みます。
男女ともその能力に応じた職に参加させることが大切である。
女性 70 歳以上
米子市は他市町村に比べて税金が高い。市は努力が足りない。
表題の答えにはならないと思うが、最近思うことを記したい。新しい情報を詳しく知りたいと思うとき、また問い合わせ、意見を言おうとするとき、それに対する対応がホームページまたはメールで…、となることが多い。パソコンを持っていないもの、またそれを扱わないもの、特に高齢者にとって一般社会から疎外されているように思う。市報に記されている文言、理解しにくい文章、わかりやすいように、そして新しい文言には説明・解釈を…。和製英語はできるだけ使わないでほしい。なるべく日本語で！
子どもに全金額を援助するくらいの教育を!! 学習に必要な教科書、ノート、鉛筆用具など学校の備品として揃える。子どもは手ぶらで学校に登校できるようにする。体育、音楽は学校内では行わない、町中に専門施設と指導者を配置するなど。
「介護休業制度」を利用した場合、その家族の働き手が休むと収入はどうなるのか？老後が安心して生活できることを望みます。
私は 76 歳です。男女共同参画で女性が家庭を持っても社会で働くことはそれなりに意味（意義）があると思いますが、子どもにとってせめて中学生ぐらいになるまでは母親が家にいて子どもをちゃんと育てることが最も大切だと思います。物心つくとき、幼・小学校時代を帰ったときに母親がいることでどんなに精神的に充たされ、安定した性格形成ができるか、健っ子と大違いの成長路線だと確信しています。そうやって中学生になった頃には、母親がたとえ働きに出ても素直に自立の方向に行くと思います。保育所の待機問題ばかりに国中、行政が空回りしているように思います。子どもたちの声は届いてないからですね。国がもう少し男女共同参画に子育てこそ重要な女性の仕事であると打ち出して、保育所の予算を専業子育てのお母さんに年金とか何かの形で回せないものかと老婆心ながら思うことです。
高齢の男性の意識改革が必要と思いますが、現実は思うようにいきません。若い男性の場合かなり意識は変わってきているようで先が楽しみです。男も女も隔たりのない世の中が来るように希望しています。

高齢者に調査されてもあまり意味がないように思います。若いころのことを思い出して記入したところもあり、参考にならないような気が致しました。
問 26 について、どこまで深く知っているのが「知っている」となるのか迷いました。問 24⑥⑦について、「よくわからない」という項目があった方が正確に回答できると思いました。ボールペンか鉛筆か、どちらでもよいのか迷いました。
誰もが 100%の人なんてなかなかいないでしょう？お互いに助け合って 100%にしなくてはと思って生活しています。
10 年前に仕事を辞め、あまり出かけることがなく、公民館の行事に参加することぐらいであまり参考にならないようです。
欧米社会は当然のように行われているが、日本全体はまだまだ遅れている。
性別無回答 70 歳以上
公民館などで講演などで、せめて知識としてだけでも提供されたい。

第３章　調査結果のまとめ

1 家庭での役割分担について

家庭での役割分担については、「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」のいずれも「主として女性」がしているという割合が大半を占めている。こうした傾向は前回調査と変わっておらず、これらの領域の割合が依然として女性に割り当てられていることが示された。

「子育て・しつけ」についても、「主として女性」がしている割合が最も高くなっているが、他の役割と比べて「男女が同じくらい」している割合が大きい。前回調査では、「男女が同じくらい」しているという選択肢がなかったのではっきりと比較はできないが、他の領域に比べれば男女共同参画が進んできているといえよう。

ところで、「食事の支度」「食事の後片付け」「掃除」「洗濯」については、男女の間で認識の違いがあり、「主として男性」「男女が同じくらい」しているという割合が男性より女性の方が低くなっている。このことから、男性が家庭内で担っている役割が、女性にとっては不十分に感じられていることが推察される。

男女間の役割分担の認識のずれは、家庭での役割分担の満足度にも影響しているようである。「満足している」「どちらかといえば満足している」とする割合は、男性よりも女性において低くなっている。その一方で、「どちらかといえば満足していない」「満足していない」の割合は、男性では10%に満たないのに対し、女性では約20%となっている。このことから、女性は男性ほど家庭での役割に満足していない傾向がある。

家庭内での役割分担についての満足度は、男女とも、前回調査と比べて「満足している」の割合が減少していた。これまでの役割分担を当たり前と捉えず、あらためて見つめ直すべき時期にきていることをうかがわせる。

2 子育て、介護について

育児休業制度の利用の有無について、子どものいる回答者のみで分析した結果、大部分が「利用したことがない」と回答していた。

性別・年齢別にみると、男性よりも女性で、また、年齢が高い層より低い層で、「利用したことがある」の割合が大きくなる傾向があることがうかがえた。

育児休業制度を利用しなかった理由としては、男性では「配偶者が保育をしてくれた」というのが最も多く、女性では「仕事をしていなかった」というのが最も多かった。子育ては女性の役割という固定観念が影響しているものと思われる。

男性においては、「育児休業を取得しづらい職場だった」という回答もより多くみられたことから、男性の育児休業取得を増やしていくためには、職場環境の改善も重要であるといえる。

介護休業制度の利用の有無についても、大部分が「利用したことがない」と回答している。これは、介護が必要な者が身近にいなかったというのが大きな理由となっている。ただし、「配偶者が介護をしてくれた」と回答した割合で、女性が男性の倍にのぼったことから、介護は女性の役割という意識が働いていることもうかがえた。

また、回答者自身に介護が必要になった場合、誰に介護をしてほしいか尋ねた結果については、男性では前回調査と同様に「配偶者」と回答した割合が高かったが、女性では「施設など」と回答した割合が「配偶者」と回答した割合を大きく上回った。ただし、前回調査に比べて、男女とも「施設など」の割合も増加しており、家族以外の専門機関に自分の介護をお願いしたいという傾向が広がりつつあることもうかがえた。

３ 就労について

職場の現状について尋ねた結果からは、働く男女のために改善の余地がまだまだあることがうかがえた。有給休暇の制度が不備であるとか、育児休業制度や介護休業制度の取得が難しいといった項目に肯定的な回答は20～30％を占め、特に男性においてそれらがより多く訴えられている点に注目したい。職場で「セクハラがある」への肯定的回答が３％程度と少なかった一方で、「パワハラがある」への肯定的回答が男女とも10％を超えていることにも注意が必要である。また、「仕事が忙しすぎる」や「ストレスが多い」への肯定的回答が男女とも半数ほどを占めていたことも深刻にみるべきである。

一方、年齢が若い層ほど、「女性がいきいきと仕事をしている」「充実して楽しく仕事ができている」への肯定的回答の割合が増大する傾向もうかがえた。男女を比較すると、女性の方が「女性がいきいきと仕事をしている」への肯定的回答の割合は高かった。こうした結果の背景には、特に女性の場合には、働きやすい職場でなければ仕事を続けられないということも考えられるかもしれない。

男女それぞれ半数ほどが「子どもの学校行事などへ参加するため休暇を取ることに理解がある」について肯定的に回答している一方で、「賃金や昇給、定年制など待遇に男女差がある」への肯定的回答は男女ともに約25％を占めていたり、「管理職は男性が多い」への肯定的回答は男女とも半数を超えていたことから、職場には依然として男女差別があるという認識が根強いことがうかがえた。

４ 地域活動などについて

地域の現状について、「地域活動では、会長などリーダーは男性で、女性は補助的な役割になる」という項目への肯定的回答の割合は、男女とも前回調査よりは減少しているが、依然として50％を超えている。

また、「男女が協力し合って活動している」への肯定的回答の割合が男女とも半数ほどを占めたものの、「地域活動では、女性がいきいきしている」への肯定的回答の割合は男女とも30％ほどでそれほど高くない。「男女の役割分担など、古い慣習やしきたりにとらわれることが多い」への肯定的回答も、男性で約40％、女性で約50％となっていることから、地域社会において、「男性主導」など性別にとらわれた役割分担から抜け出せていないことが今なお問題となっていることがうかがえる。

また、「私は、地域活動に関心がある」「私は、地域活動やグループ活動に参加している」への肯定的回答の割合が、特に若い世代で低くなっていることから、自治会活動をはじめ、若い世代における地域との関わりの希薄さの問題が確認される。

5 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

「仕事」「家庭」「自分自身のための活動」のバランスの理想については、全体的に見ると、まず「仕事」と「家庭」のバランスを考え、残りの時間を「自分自身のための活動」に充てるという傾向が見受けられる。生活の大部分が「仕事」か「家庭」で、趣味などの「自分自身のための活動」を二の次とするパターンは、性別でも年齢別でもあまり違いがみられない。こうしたパターンが、現代の日本人の生活意識における特徴といってもよいのかもしれない。

また、「仕事」と「家庭」の２領域では、男性では「家庭」より「仕事」を、女性では「仕事」より「家庭」を重視する傾向となっている。このことからも、男性は「仕事」、女性は「家庭」という固定観念が根強いことがうかがえる。それぞれの領域にどのくらいのウエイトを置くかについては、個人的な選考の問題であるが、現実には性別役割の文化に強く影響されていることが示された。

「仕事」「家庭」「自分自身のための活動」の間の理想バランスの実現度について尋ねたところ、理想が実現していると感じている割合は男性より女性の方が低く、また若い世代ほど低くなっていた。理想のバランスの実現を阻んでいるものは何であるのか明らかにしていく必要がある。

6 ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて

ドメスティック・バイオレンスの経験・認知について、「被害者としての経験がある」と回答した割合は前回調査とほぼ同様で、男性 2.9%、女性 10.5%となっている。被害者は女性の方が常に多いものの、男性の被害者もまた常に一定数存在することには注目すべきである。女性被害者のみならず男性被害者の相談先の充実も課題である。また、前回調査では選択肢がなかった「加害者としての経験がある」と回答した割合は、男性 1.8%、女性 0.6%となっている。このようなアンケート調査において、自ら加害者であると申し出る人たちに対し何らかの支援ができないか、検討することは、ドメスティック・バイオレンス防止の点から重要であろう。

また、ドメスティック・バイオレンスに対する相談先については、「相談しなかった」とする割合は男性で 45.3%、女性で 31.6%はあるものの、特に女性では「公的な相談機関や窓口、警察などに相談した」とする割合が、前回調査に比べて倍近くに増えている。さらに、「相談したかったが、相談機関や窓口がわからなかった」と回答した割合が、男性 0.0%、女性 1.3%と前回調査（男性 10.4%、女性 6.3%）より大きく減少している。

これらのことから、被害者などが相談できる体制は整ってきていると思われるが、依然として「相談しなかった」とする割合が高いので、今後はより相談しやすい環境を整備していくことが必要だと考えられる。

セクシャル・ハラスメントの経験・認知についても、ドメスティック・バイオレンスの場合と同様な傾向がある。しかしながら、セクシャル・ハラスメントに対する対応については、前回調査と比べて「相談しなかった」とする割合が増加していることから、ドメスティック・バイオレンスの場合と同様に、より相談しやすい環境整備が求められる。

ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントに対する考え方については、「たとえ夫婦であっても、手をあげることは許されない」への肯定的回答が80%を超え、前回調査よりも上昇している一方で、「DVやセクハラなどが起こるのは、女性の側にも問題がある」への否定的回答は、30～40%程度にとどまったものの、前回調査より上昇している。DVやセクハラの被害者が、加害者からだけでなく周りの人々からも傷つけられることがないように、さらなる啓発が求められる。

また、「被害者が相談しやすい環境作りがが不十分」への肯定的回答の割合が前回調査と比べて減少しているものの、男女とも約60%も占めており、被害者などが相談しやすい環境や体制の整備はまだまだ必要と認識されている。

7 男女共同参画に関する意識や考え方について

男女のあり方についての考え方については、男女差よりも年代差の方がはっきりうかがえる項目が多い。例えば、「世帯主に男性がなるのは当然だ」「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」「結婚したら、女性は夫の姓に改姓したほうがよい」では、年代が上がるにつれて肯定的な回答が多く、逆に「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」「性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ」「同性同士の結婚が認められてもよい」「自分らしく生きたい」では、若い世代ほど肯定的な回答が多くなっている。

ただし、「男女共同参画社会は、だれもが生きやすい社会だ」については、年代間であまり差がみられず、どの年代でも40～50%が肯定的な回答をしている。

これらから、男女共同参画社会についてのイメージや認識が、年代によって少しずつ異なっている可能性が示唆される。米子市男女共同参画推進条例で示している、市が目指す男女共同参画社会は「男はこう、女はこう」といったジェンダーを固定したり、「～しなければならない」と個人の生き方を制約したりする社会ではない。そのことを広く市民に、これからも明確に伝えていく必要があるだろう。

男女平等についての意識については、すべての項目において、「男性優遇」と回答した割合が「女性優遇」を大きく上回っている。また、性別による認識の違いも見られ、特に「地域社会」「法律や制度」「政治の場」においては、男性よりも女性の方がより「男性優遇」という認識を持っていることがうかがえる。これらの結果については、人々が男女共同参画の重要性を強く認識し男性優位といった不平等に敏感になればなるほど、「男性優遇」であるかどうかの評価が厳しくなることも考えられるので、一概に好ましくない状況だとは言い切れない。ここからわかるのは、市民がどの領域を特に男女不平等だと問題視しているのかということである。したがって、「男性優遇」と評価された政治・職場・地域社会・家庭といった領域では、状況を改善するための取り組みが特に急がれる。

８ 男女共同参画社会に関する施策や法制度について

米子市が今後力を注ぐべきことについては、様々な分野での施策の充実が望まれている中で、「子育て・保育に関する施策を充実させる」「高齢者の介護支援に関する施策を充実させる」という２つが特出して割合が高くなっている。この傾向は前回調査でも同様にみられたが、今回の調査ではさらに他の施策との差が開いた結果となり、いずれも 55%以上の高い割合となっている。そして、「ひとり親家庭に対する支援を充実させる」についても 34.5%と比較的高い割合となっていることから、子育て世代や高齢者に対する社会的支援をさらに充実させることが必要とされる。

また、「学校教育や社会教育の場において、男女の人権を尊重する学習を充実させる」「企業や行政などの指導的立場の人に対して意識啓発を行う」についても、比較的高い割合となっており、こうした分野についての学習や啓発などにも力を注いでいくことが求められる。

法律、用語、施策の認知度については、「ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）」が 90%以上と最も高く、「男女雇用機会均等法」「育児・介護休業法」といった労働関係の法律も 90%近い認知度になっている。

その他、「男女共同参画社会基本法」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知度も比較的高くなっている。これに対して、米子市の施策などの認知度は低く、引き続き周知に努めることが必要とされる。

資　　料

男女共同参画に関する市民意識調査

～意識調査ご協力のお願い～

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

米子市では、男女がお互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、それぞれの個性と能力を十分に発揮することができる住みよい社会の実現に向けて、平成２５年３月に「第２次米子市男女共同参画推進計画」を策定し、様々な取り組みを進めています。

このたび、社会情勢の変化などに対応するため、男女共同参画に関する皆さまの意識や実態をお聞きし、今後の施策へ反映させていただくこととしました。

この調査票は、無作為抽出で選ばれた市内にお住まいの２０歳以上の男女 3,000 人の皆さまに送付しています。ご記入は無記名で、ご回答いただいた方が特定されたり、本来の目的外に利用されることは一切ありません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願いします。

平成２８年９月

米子市長　野 坂 康 夫

【ご記入にあたってのお願い】

① 回答にあたっては、封筒のあて名のご本人がお答えください。

② この調査は無記名調査です。お名前やご住所を記入していただく必要はありません。

③ 回答は質問にしたがって、あてはまるところに○をつけてください。

④ ご記入いただいた調査票は、**９月３０日（金）までに、同封の返信用封筒に入れて**、お近くのポストに投函してください。**（切手は不要です）**

《お問い合わせ先》

米子市役所　市民人権部　男女共同参画推進課

〒683-8686　米子市東町 161-2　米子市役所第２庁舎

TEL ： 0859-23-5419　　FAX ： 0859-37-3184

E-mail ： danjyo@city.yonago.lg.jp

Ⅰ　あなた自身について

問１　【 全員にお聞きします 】

あなたの性別を教えてください。**１つ選んで番号に○**をつけてください。

１　男性	２　女性	３　その他

問２　【 全員にお聞きします 】

あなたの年齢を教えてください。**１つ選んで番号に○**をつけてください。

１　20～24 歳	２　25～29 歳	３　30～34 歳	４　35～39 歳
５　40～44 歳	６　45～49 歳	７　50～54 歳	８　55～59 歳
９　60～64 歳	１０　65～69 歳	１１　70 歳以上	

問３　【 全員にお聞きします 】

あなたの職業を教えてください。**１つ選んで番号に○**をつけてください。

１　自営業主　（農林水産業、商工業、サービス業、自由業 など）
２　家族従業員　（農林水産業、商工業、サービス業、自由業 など）
３　フルタイムの勤め人《正規雇用》　（正社員、正職員 など）
４　フルタイムの勤め人《非正規雇用》　（派遣社員、契約社員 など）
５　パートタイムの勤め人　（パートタイマー、臨時職員、アルバイト、内職 など）
６　無職　（専業主婦・主夫、学生、その他）

問４　【 全員にお聞きします 】

あなたは現在結婚していらっしゃいますか（事実婚を含みます）。**１つ選んで番号に○**をつけてください。

１　現在結婚している	２　現在結婚していない（離別・死別）	３　結婚したことがない

問５　【 問４で「１　現在結婚している」と答えた方にお聞きします 】

あなたは共働きですか、それとも夫婦どちらか一方が働いていますか。**１つ選んで番号に○**をつけてください。

１　共働きをしている（パートタイムなどを含む）
２　夫のみが働いている
３　妻のみが働いている
４　夫婦とも働いていない（退職した場合を含む）

問６　【 全員にお聞きします 】

あなたには次のようなお子さんがいらっしゃいますか。あてはまるものを**すべて選んで番号に〇**をつけてください。

１　子どもはいない	２　乳幼児（就学前児）	３　小学生	４　中学生
５　高校生	６　学生（大学生・短大生・専門学校生など）	７　社会人	

問７　【 全員にお聞きします 】

あなたの家族世帯構成を教えてください。**１つ選んで番号に〇**をつけてください。

１　単身世帯	２　夫婦のみ	３　親と子（二世代）
４　祖父／祖母と親と子（三世代）	５　その他	

Ⅱ　家庭での役割について

問８　【 全員にお聞きします 】

あなたの家庭では、①～⑥のような家庭での役割について、主に女性がしていますか、男性がしていますか。それぞれについて、あてはまるものを**１つずつ選んで番号に〇**をつけてください。

	主として女性	主として男性	男女が同じくらい	特にだれもしていない
①食事の支度	1	2	3	4
②食事の後片付け	1	2	3	4
③掃除	1	2	3	4
④洗濯（干す・取り入れる）	1	2	3	4
⑤子育て・しつけ	1	2	3	4
⑥介護・看護	1	2	3	4

問９　【 全員にお聞きします 】

あなたは、自分の家庭内での役割分担について満足していますか。あてはまるものを**１つ選んで番号に〇**をつけてください。

１　満足している	２　どちらかといえば満足している	３　どちらともいえない
４　どちらかといえば満足していない	５　満足していない	

Ⅲ　子育て、介護について

問 10　【 全員にお聞きします 】

あなたは、「育児休業制度」を利用したことがありますか。**１つ選んで番号に○**をつけてください。

１　利用したことがある	２　利用したことがない

問 11　【 問 10 で「２　利用したことがない」と答えた方にお聞きします 】

あなたが、「育児休業制度」を利用しなかった理由は何ですか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○**をつけてください。

１　子どもが生まれていない
２　仕事をしていなかった
３　職場に育児休業制度がなかった
４　配偶者が保育をしてくれた
５　親・義理の親が保育をしてくれた
６　保育所やベビーシッターなど専門職の人が保育をしてくれた
７　育児休業を取得しづらい職場だった
８　経済的に困るから
９　その他（　　）

問 12　【 全員にお聞きします 】

あなたは、「介護休業制度」を利用したことがありますか。**１つ選んで番号に○**をつけてください。

１　利用したことがある	２　利用したことがない

問 13　【 問 12 で「２　利用したことがない」と答えた方にお聞きします 】

あなたが、「介護休業制度」を利用しなかった理由は何ですか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○**をつけてください。

１　近親者に介護が必要な者がいなかった
２　仕事をしていなかった
３　職場に介護休業制度がなかった
４　配偶者が介護をしてくれた
５　配偶者以外の親族が介護をしてくれた
６　ホームヘルパーなど専門職の人が介護をしてくれた
７　介護休業を取得しづらい職場だった
８　経済的に困るから
９　その他（　　）

問 14　【 全員にお聞きします 】

あなた自身に介護が必要になった場合、主に誰に介護してもらいたいですか。**１つ選んで番号に○**をつけてください。

１　配偶者	２　娘	３　息子
４　子どもの配偶者（女性）	５　子どもの配偶者（男性）	６　ホームヘルパー
７　施設など	８　その他（　　）	

Ⅳ　就労について

問 15　【 現在、職業に就いておられる方にお聞きします。
職業に就いておられない方は，問 16 へお進みください。 】

あなたの職場は、①～⑬のようなことがあてはまりますか。それぞれについて**１つずつ選んで番号に〇**をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①賃金、昇給、定年制など待遇に男女差がある	1	2	3	4	5
②有給休暇の制度が不備	1	2	3	4	5
③育児休業制度の取得が難しい	1	2	3	4	5
④介護休業制度の取得が難しい	1	2	3	4	5
⑤管理職は男性が多い	1	2	3	4	5
⑥女性がいきいきと仕事をしている	1	2	3	4	5
⑦女性が長期間就労することを歓迎しない雰囲気がある	1	2	3	4	5
⑧充実して楽しく仕事ができている	1	2	3	4	5
⑨仕事が忙しすぎる	1	2	3	4	5
⑩ストレスが多い	1	2	3	4	5
⑪セクハラ（性的嫌がらせ）がある	1	2	3	4	5
⑫パワハラ（上司によるいじめ、嫌がらせ）がある	1	2	3	4	5
⑬子どもの学校行事などへ参加するため休暇を取ることに理解がある	1	2	3	4	5

Ⅴ　地域活動などについて

問 16　【 全員にお聞きします 】

あなたがお住まいの地域についてお尋ねします。①～⑦のそれぞれについて、**１つずつ選んで番号に○**をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①地域活動では、会長などリーダーは男性で、女性は補助的な役割になる	1	2	3	4	5
②男女の役割分担など、古い慣習やしきたりにとらわれることが多い	1	2	3	4	5
③自治会・町内会の活動では、女性が役職に就くことに消極的	1	2	3	4	5
④地域活動では、女性がいきいきしている	1	2	3	4	5
⑤男女が協力し合って活動している	1	2	3	4	5
⑥私は、地域活動に関心がある	1	2	3	4	5
⑦私は、地域活動やグループ活動（自治会、PTA、趣味の教室等）に参加している	1	2	3	4	5

Ⅵ　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問 17　【 全員にお聞きします 】

（１）「仕事」「家庭生活」「趣味など自分自身のための活動」の３つの間のバランスとして、あなたはどのような理想をもっていますか。**理想とするそれぞれの比率について、数字を記入**してください（**合計が 100 パーセントになるようにしてください**）。

仕　事　→　　（　　）パーセント

家　庭　→　　（　　）パーセント

趣味など自分自身のための活動　→　　（　　）パーセント

合　計　　１００　パーセント

（２）上の（１）で答えたバランスは実現していますか。**１つ選んで番号に○**をつけてください。

１　実現している	２　まあまあ実現している
３　あまり実現していない	４　実現していない

Ⅶ　ドメスティック・バイオレンス、セクシャル・ハラスメントについて

問 18　【 全員にお聞きします 】

あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV、配偶者やパートナーなどからの精神的・身体的暴力）について、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○**をつけてください。

１　被害者としての経験がある ２　加害者としての経験がある ３　身近に被害を受けた人がいる ４　被害を受けた人から相談されたことがある	**いずれかに○がついた方は、問 19 にお答えください。**
５　実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている	
６　言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない	
７　言葉自体知らない、聞いたことがない	

問 19　【 問 18 で１～４のいずれかに○がついた方にお聞きします 】

あなたは、そのことについて誰かに相談しましたか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○**をつけてください。

１　公的な相談機関や窓口、警察などに相談した
２　家族や友人に相談した
３　職場や学校に相談した
４　民間シェルターや民間の相談窓口に相談した
５　相談したかったが、相談機関や窓口がわからなかった
６　相談しなかった
７　その他

問 20　【 全員にお聞きします 】

あなたは、セクシャル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）について、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○**をつけてください。

１　被害者としての経験がある ２　加害者としての経験がある ３　身近に被害を受けた人がいる ４　被害を受けた人から相談されたことがある	**いずれかに○がついた方は、問 21 にお答えください。**
５　実際に経験したり見聞きしたことはないが、内容は知っている	
６　言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない	
７　言葉自体知らない、聞いたことがない	

問 21　【 問 20 で 1 ～ 4 のいずれかに〇がついた方にお聞きします 】

あなたは、その後どのような対応をしましたか。あてはまるものを**すべて選んで番号に〇**をつけてください。

1　公的な相談機関や窓口、警察などに相談した 2　家族や友人に相談した 3　職場や学校に相談した 4　弁護士に相談したり、裁判所に訴えた 5　相手に直接抗議した 6　相談したかったが、相談機関や窓口がわからなかった 7　相談しなかった 8　その他

問 22　【 全員にお聞きします 】

あなたは、DV やセクハラなどに対する①～⑥のような考え方について、どのように思われますか。それぞれについて、あてはまるものを**1 つずつ選んで番号に〇**をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①DV やセクハラなどが起こるのは、女性の側にも問題がある	1	2	3	4	5
②加害者には暴力を振るわないようにするための教育が必要	1	2	3	4	5
③たとえ夫婦であっても、手をあげることは許されない	1	2	3	4	5
④女性から男性への暴力やセクハラもある	1	2	3	4	5
⑤相談窓口など、被害者が相談しやすい環境作りが不十分	1	2	3	4	5
⑥防止のためには啓発や教育よりも罰則強化に重点をおくべき	1	2	3	4	5

Ⅷ　男女共同参画に関する意識や考え方について

問 23　【 全員にお聞きします 】

あなたは、次の①～⑫のような考えや思いについて、どのように思われますか。それぞれについて、あてはまるものを**１つずつ選んで番号に○**をつけてください。

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
①夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4	5
②世帯主に男性がなるのは当然だ	1	2	3	4	5
③男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい	1	2	3	4	5
④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑤結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
⑥結婚したら、女性は夫の姓に改姓したほうがよい	1	2	3	4	5
⑦長男は跡取りであるから家に残るほうがよい	1	2	3	4	5
⑧性別にこだわらず多様な生き方が認められるべきだ	1	2	3	4	5
⑨同性同士の結婚が認められてもよい	1	2	3	4	5
⑩仕事より家庭生活を優先させたい	1	2	3	4	5
⑪男女共同参画社会は、だれもが生きやすい社会だ	1	2	3	4	5
⑫自分らしく生きたい	1	2	3	4	5

問 24　【 全員にお聞きします 】

あなたは、現在の日本の社会において、次の①～⑦のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。それぞれについて、あてはまるものを**１つずつ選んで番号に○**をつけてください。

	男性優遇	どちらかといえば男性優遇	どちらともいえない	どちらかといえば女性優遇	女性優遇
①家庭生活	1	2	3	4	5
②職場	1	2	3	4	5
③学校教育の場	1	2	3	4	5
④社会的慣習・しきたり	1	2	3	4	5
⑤地域社会	1	2	3	4	5
⑥法律や制度	1	2	3	4	5
⑦政治の場	1	2	3	4	5

Ⅸ　男女共同参画社会に関する施策や法制度について

問 25【 全員にお聞きします 】

あなたは、男女共同参画社会の実現のために、米子市で、今、特に力を注ぐことが望まれる施策はどれだと思いますか。あてはまるものを**すべて選んで番号に○**をつけてください。

１　学校教育や社会教育の場において、男女の人権を尊重する学習を充実させる
２　企業や行政などの指導的立場の人に対して意識啓発を行う
３　子育て・保育に関する施策を充実させる
４　高齢者の介護支援に関する施策を充実させる
５　各種審議会など、政策・方針決定の場へ女性を積極的に登用する
６　女性のため、男性のための学習講座の充実を図る
７　学校、地域、職場など各種団体の女性リーダーの養成に力を入れる
８　男女共同参画に関する情報提供を充実させる
９　DV やセクハラなどの防止についての取り組みを強化する
１０　DV やセクハラなどの被害者の支援体制を充実させる
１１　ひとり親家庭に対する支援を充実させる
１２　その他（具体的に　　）
１３　わからない

問 26　【 全員にお聞きします 】

あなたは、次の①～⑪のような用語や法律、施策などをご存知ですか。それぞれについて、あてはまるものを**１つずつ選んで番号に○**をつけてください。

	知っている	聞いたことがある	知らない
①男女共同参画社会基本法	1	2	3
②男女雇用機会均等法	1	2	3
③育児・介護休業法	1	2	3
④女性活躍推進法	1	2	3
⑤ドメスティック・バイオレンス（DV）	1	2	3
⑥ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3
⑦リプロダクティブヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康・権利）	1	2	3
⑧ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	1	2	3
⑨米子市男女共同参画推進条例	1	2	3
⑩米子市男女共同参画推進計画	1	2	3
⑪米子市男女共同参画センター“かぷりあ”	1	2	3

Ｘ　ご意見・ご要望など

最後に、男女共同参画の推進などについてのご意見やご要望などがありましたらお聞かせください。

お忙しいところ、調査にご協力いただきまして、どうもありがとうございました。
お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、９月３０日（金）までにご投函ください。

男女共同参画に関する市民意識調査報告書

平成２９年３月発行

発行：米子市市民人権部男女共同参画推進課

〒683-8686　米子市東町 161 番地 2（米子市役所第２庁舎）

TEL：0859-23-5419　FAX：0859-37-3184

E-mail：danjyo@city.yonago.lg.jp